

Kawasaki

JETSKI^{WATERCRAFT} 900 STX

ウォータークラフト JETSKI^{watercraft} 取扱説明書

JETSKIは川崎重工業株式
会社の登録商標です。



日本舟艇工業会
マリンエンジン排ガス自主規制

カワサキは人と地球にやさしい環境作りをめざし
ています。

早見表

一般事項

操縦方法

保管

整備と調整

トラブルシューティング

船舶検査

航行区域

環境保護

JET[®]
STAR

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”をご購入下さいましてありがとうございます。きょうからあなたのよきパートナーとして、十分に活躍させて下さい。

この取扱説明書は、あなたのウォータークラフト“ジェットスキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得して下さい。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、ウォータークラフト“ジェットスキー”的魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守って下さい。

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています

！警告

取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

要点

○作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

目次

主要諸元	6	エンジンの始動	51
一般事項	8	発進	54
製造番号	8	桟橋からの発進	54
各部の名称	9	ランプからの発進	54
ラベル位置	11	水深の深い場所での発進	55
マルチファンクションメータ	18	水深の浅い場所での発進	55
燃料	25	停止	56
エンジンオイル	27	旋回	58
操縦装置	28	後進	61
シートラッヂ	33	着岸	61
備品入れ	35	ウォータークラフト "ジェットスキー" の乗り方	62
小物入れ	36	落水	62
工具	37	転覆したウォータークラフトの起こし方	62
ドレンプラグ	37	漫水後の処置	64
操縦方法	38	航走終了後の手入れ	67
安全な操縦	38	第1：排気系統の水抜き	67
乗船者の水泳能力	38	第2：エンジンルームの清掃	68
安全運転規則	38	特殊な手入れ	68
ジェットポンプに関する注意	40	インペラの清掃	68
乗船者の安全装備	42	汚れたスパークプラグの清掃	69
ヘルメット着用の選択	43	ウォータークラフトのえい航	70
積載	43	ジャンプコードによる始動	70
水上スキーヤーのけん引	45	エンジンのオーバーヒート	71
操縦者の役割	45	運搬	72
見張りの役割	45	保管	73
けん引ロープをかける場所	46	保管する前の作業	73
乗る前の点検項目	47	冷却系統	73
ならし運転	49	ビルジ系統	73
エンジンの停止	50		

燃料系統とエンジン	74	海岸あるいは陸岸で使用する場合	107
バッテリ	76	母船に乗せて使用する場合	108
洗浄	76	環境保護	109
潤滑	77	環境保護	109
保管後再使用する前の作業	77		
整備と調整	79		
定期点検整備表	79		
コントロールケーブルの調整	81		
チョークケーブルの調整	81		
スロットルケーブルの調整	82		
ステアリングケーブルの調整	83		
ステアリングケーブルの点検	85		
シフトケーブルの調整	85		
シフトケーブルの点検	87		
燃料、エンジンオイル系統	88		
キャブレタの調整	88		
燃料ベントチェックバルブ	88		
燃料フィルタスクリーン、燃料フィルタ	88		
オイルフィルタ	89		
オイルポンプの空気抜き	89		
スパークプラグ	91		
バッテリ	92		
潤滑	94		
冷却系統の洗浄	97		
ビルジ系統の洗浄	98		
ヒューズ	100		
トラブルシューティング	102		
船舶検査	105		
船舶検査	105		
船舶検査証書など合格証書類	106		
航行区域	107		
航行区域	107		

6 主要諸元

主要諸元

ウォータークラフト“ジェットスキー”JT900-D1

エンジン	
型式	2ストローク、3気筒、クランクケースリードバルブ、水冷
排気量	891 cm ³
内径×行程	73.0 × 71.0 mm
圧縮比	5.5 : 1
点火方式	DC-CDI (デジタル)
潤滑方式	分離給油式
キャブレタ	ケイヒン CDCV38-33 × 3
始動方式	スタータモーター
スパークプラグ	NGK BR9ES
ギャップ	0.7 ~ 0.8 mm
端子形状	一体型端子
点火時期	上死点前15° @1,250 rpm ~ 25° @3,000 rpm
アイドリング回転数	1,250 ±100 rpm ·····水上 1,800 ±100 rpm ·····陸上
動力伝達機構	
カップリング	エンジン直結シャフトドライブ
ジェットポンプ	軸流、単段
: 型式	332 kg
: 推力	ステアリングノズル
ステアリング	水の抵抗力
ブレーキ	

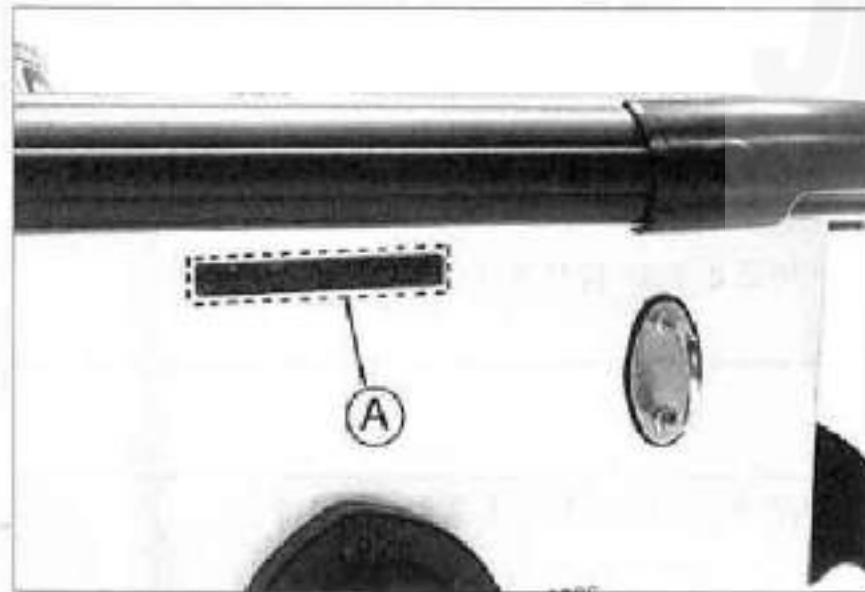
※性能	
連続最高出力	100 PS/6,750 rpm
連続最大トルク	11.2 kg-m/6,000 rpm
最小旋回半径	4.0 m
燃料消費量	38 L/h (フルスロットル運転時)
航続距離	115 km (3名乗船・フルスロットル運転時)
航続時間	1時間23分
寸法・重量	
全長	3,120 mm
全幅	1,180 mm
全高	1,020 mm
乾燥重量	299 kg
燃料タンク容量	53 L (予備7 Lを含む)
エンジンオイル	
タイプ	カワサキジェットスキー純正オイル (2サイクルエンジンオイル)
オイルタンク容量	5 L
電装品	
バッテリ	12 V 18 Ah

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

一般事項

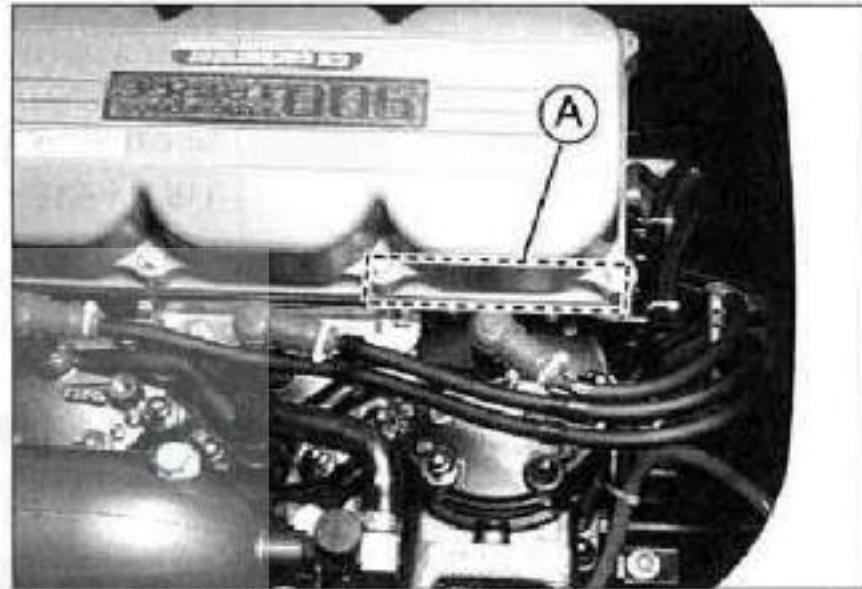
製造番号

- 船体及びエンジン番号は、あなたのウォータークラフトを表す番号です。
この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。
下のそれぞれの空欄に記録して下さい。



A. 船体番号

船体番号	
------	--

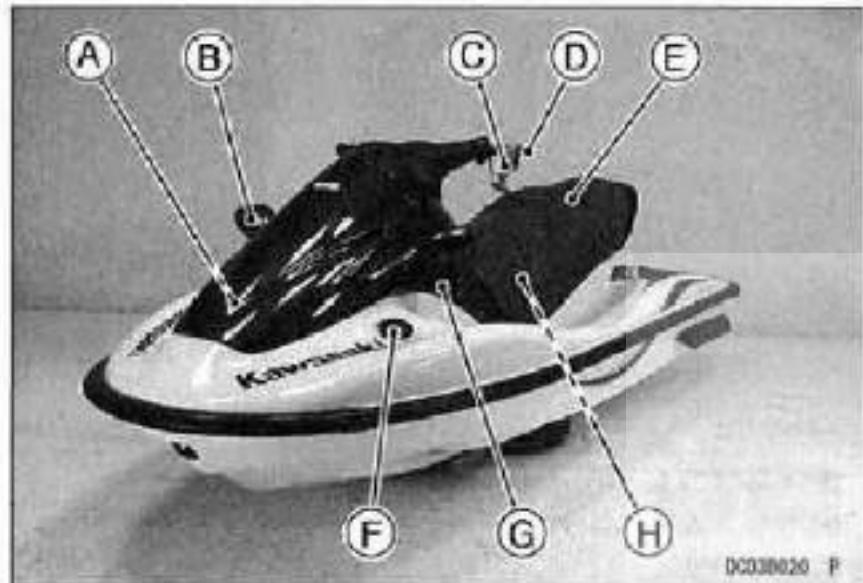


A. エンジン番号

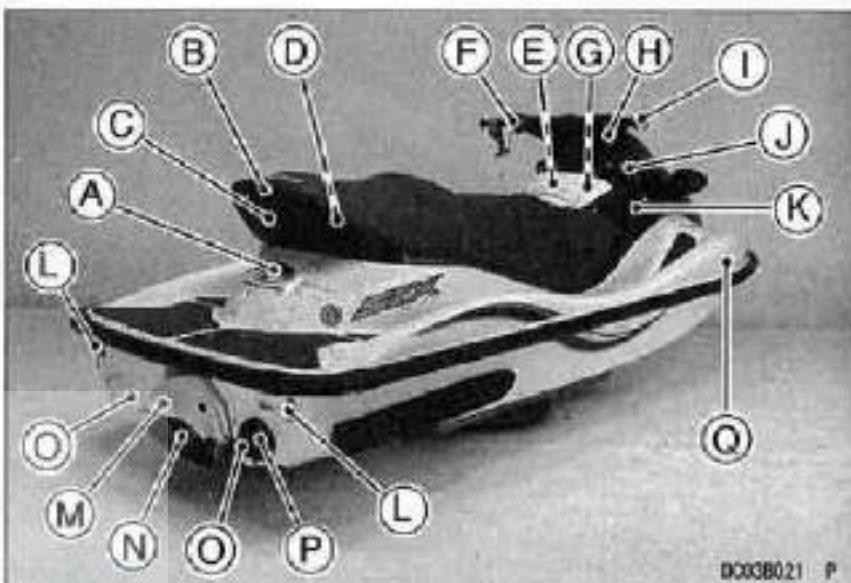
エンジン番号	
--------	--

船体番号

各部の名称

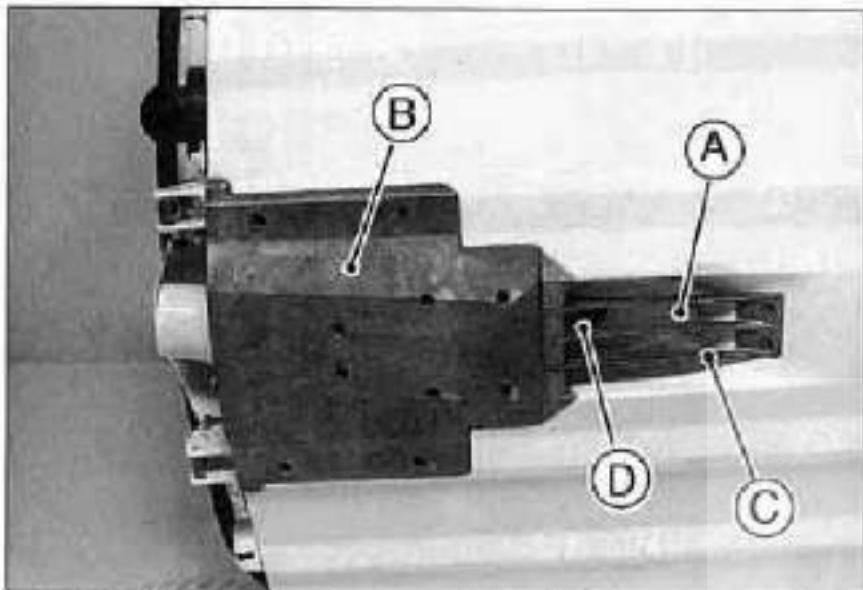


- | | |
|---------------------|---------------------|
| A. 備品入れ | E. シート |
| B. バックミラー | F. 燃料注入口キャップ |
| C. キルスイッチコード | G. チョークノブ |
| D. ハンドルバー | H. エンジンルーム |



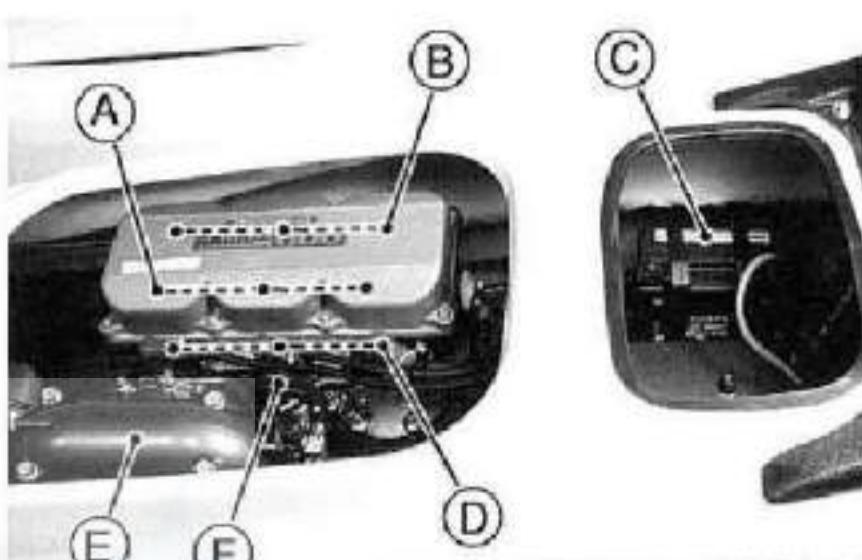
- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| A. スキーヤーけん引フック | J. シフトレバー |
| B. ハンドレール(グリップ) | K. 燃料ノブ |
| C. シートラッチ | L. えい航用フック |
| D. 小物入れ(後部) | M. リバースパケット |
| E. 小物入れ(前部) | N. ステアリングノズル
(ジェットノズル) |
| F. スタータ、ストップボタン | O. ドレンプラグ |
| G. イグニションスイッチ | P. 排気口 |
| H. マルチファンクション
メータ | Q. バイパス出口 |
| I. スロットルレバー | |

10 一般事項



A. 吸水口
B. ジェットポンプカバー

C. 格子
D. ドライブシャフト



A. キャブレタ
B. フレームアレスタ
C. バッテリ

D. スパークプラグ
E. エグゾーストパイプ
F. 冷却ホース

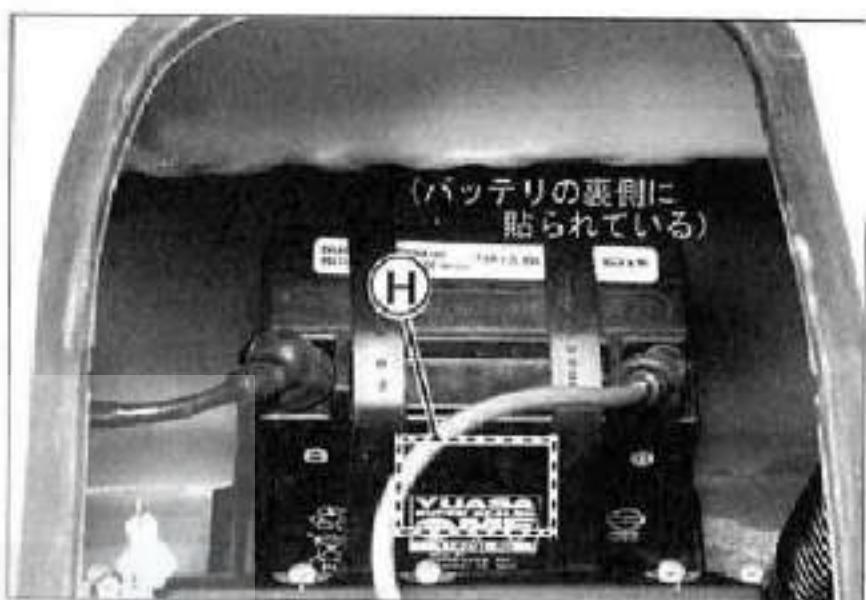
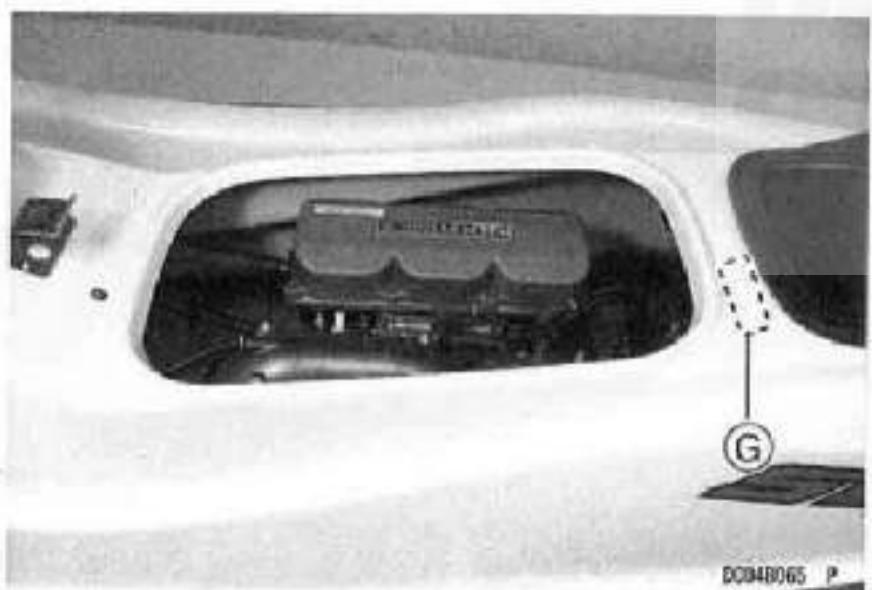
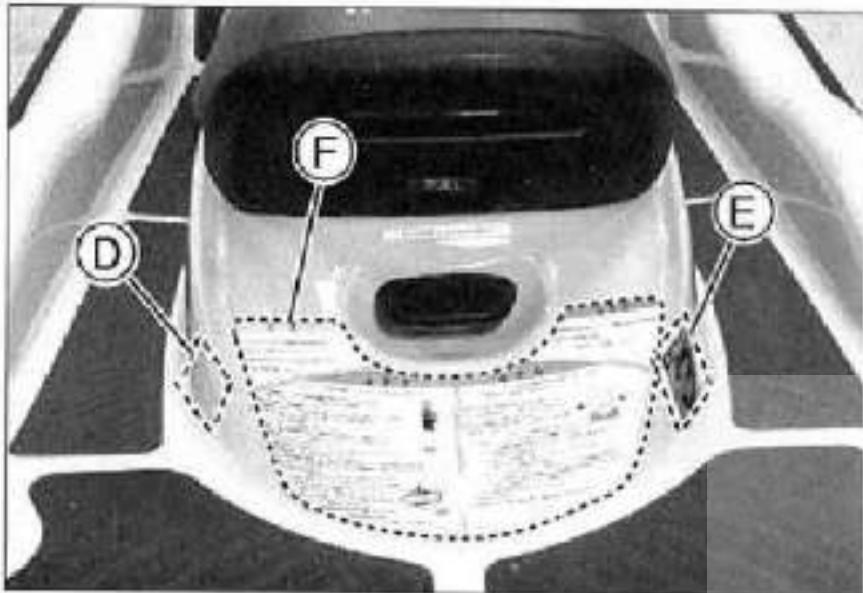
0004BD99 P

ラベル位置



- A. ガソリン・オイル・バッテリならし運転・オーバーヒートとイグニションスイッチの注意およびエンジンルームの警告
- B. 燃料注入の警告
- C. ダンパーの警告

12 一般事項



- D. ハンドレール・けん引用フックとえい航用
フックの注意
- E. 最大搭載人員
- F. リバースバケットと船の回転方向の注意および安全装
備・操縦とジェットポンプの警告
- G. 証明ラベル
- H. バッテリの警告

(A)

注 意

- 起動する前に、ガソリンやオイルの量、また、バッテリの充電量をよく調べて下さい。
- 燃料を補給する時は、必ずエンジンオイルの量も点検して下さい。オイルタンクは船艤の中にあります。エンジンオイルのない状態で航走すると、エンジンの焼き付きの原因になります。
- ならし運転航行中（最初の5時間まで、または燃油3回目まで）は、ガソリンとオイルの比率が50対1の混合燃料を使用して下さい。
- エンジンがオーバーヒートすると、警報灯と温度計マークが点滅してエンジンの温度が下がります。ただちに停機し、冷却系統を点検して下さい。
- エンジンの異常を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまで、ウォータークラフトを接続しないで下さい。
- イグニッションスイッチを“ON”にしたら必ずキーを外し、消毒するか、船艤小物入れに収納して下さい。
- エンジン艤子にはイグニッションスイッチを“OFF”にして下さい。“ON”的本放置するとバッテリ漏洩の原因になります。

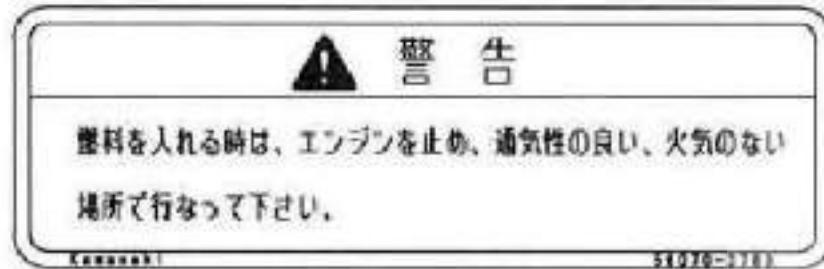
▲ 警 告

エンジンを始動する前に、エンジンルームの換気をして下さい。
気化したガソリンがエンジンルーム内にたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

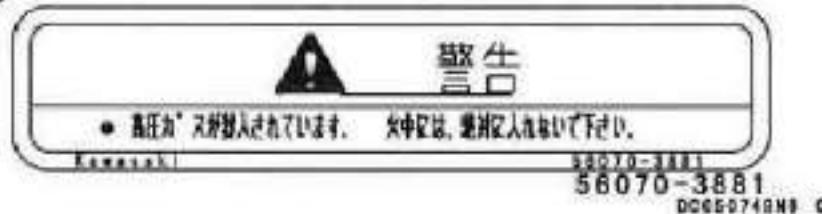
56070-3913

14 一般事項

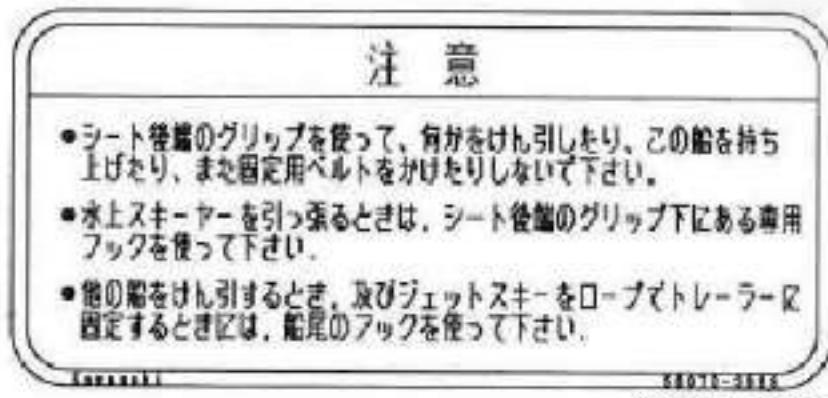
(B)



(C)



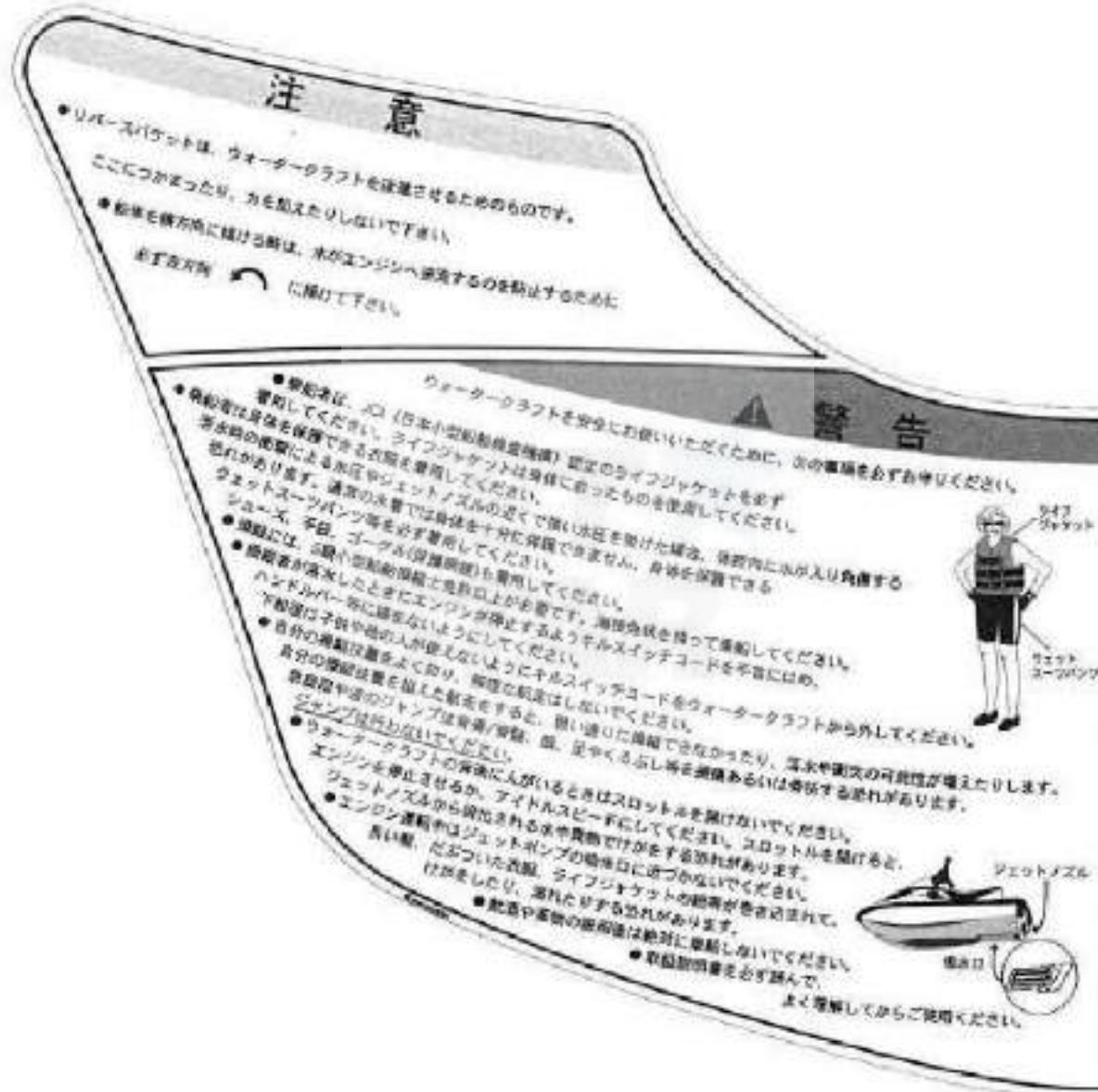
(D)



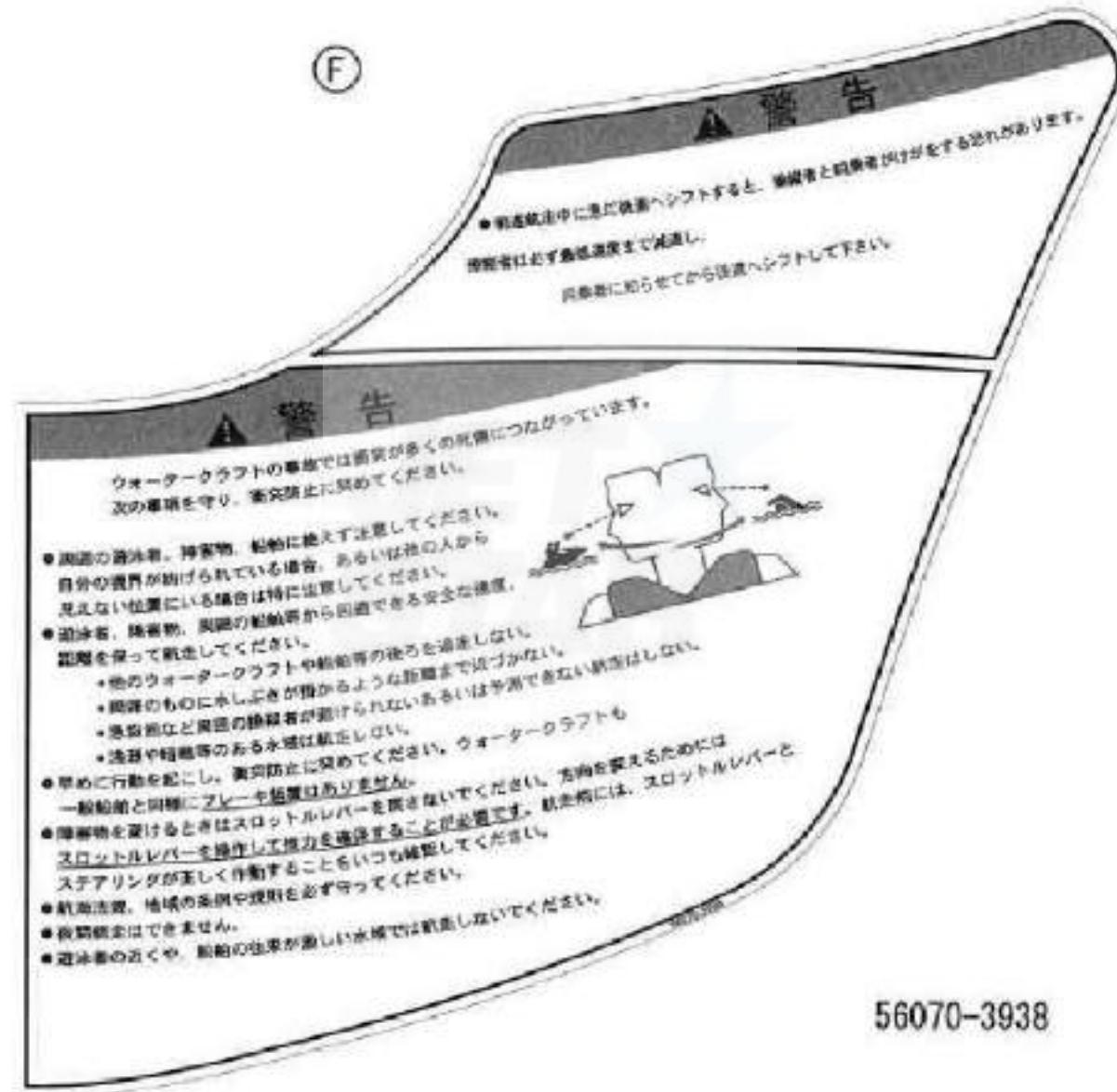
(E)



(F)



56070-3938



56070-3938

(G)

MFD. BY KAWASAKI MOTORS MFG. CORP., U.S.A.

56037-1808

(H)

バッテリの取り扱いにご注意!

ST-YTN6

この12Vバッテリは溶融点極及び相手不要なシールタイプです。

- 充電始いかなる場合においても密封せんは絶対に外さないでください。
- 充電状態の点検は、デジタルボルトメーターを用い、開路電圧の測定により行ってください。
(規定電圧：12.8V以上)
- この電池はシールタイプバッテリ装着車以外には使用しないでください。



火気禁止 メガネ専用 こども禁止 輪胎注意 政府書類 煙発注意

- 危険**
- バッテリは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。
 - ・このバッテリを二輪自動車やエンジン駆動用以外の用途には使用しないでください。
 - ・充電は風通しのよいところで行い、ショートやスパークをさせないでください。
 - バッテリ液(希硫酸)で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときはや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。

DANGER KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY.
ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.

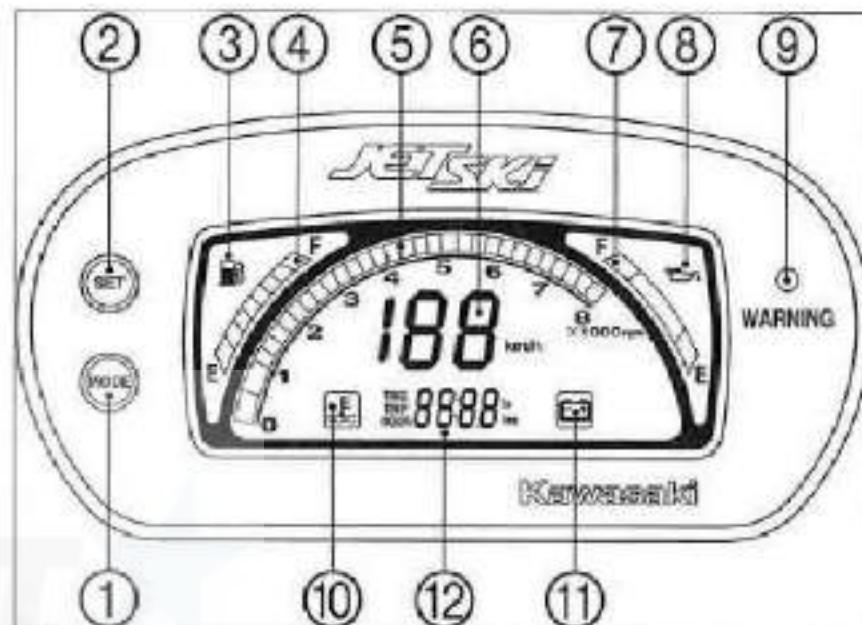
56070-3830

マルチファンクションメータ

- ステアリングハンドルバーの前方に、マルチファンクションメータがあります。イグニッションスイッチを“ON”にすると、すべての“LCD”セグメントが表示され、“LED”警告灯が2秒間点灯します。その後メータは通常の機能に戻り、燃料やオイルの量、バッテリの電圧、船の速度とエンジン回転数を表示します。また、メータはモードを選択することによって、時刻、航走時間航走距離及び積算航走時間を表示することができます。

要点

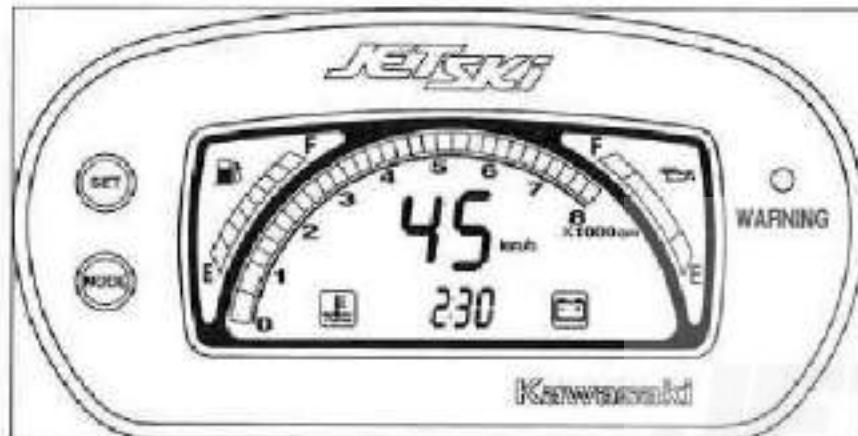
- メータの表示は、キルスイッチコードキーやストップボタンでエンジンを止めると3分後に消えますが、イグニッシュョンスイッチでエンジンを止めるとすぐに消えます。
- モードボタンは、エンジンを3,000 rpm以下で回しているときのみ機能します。



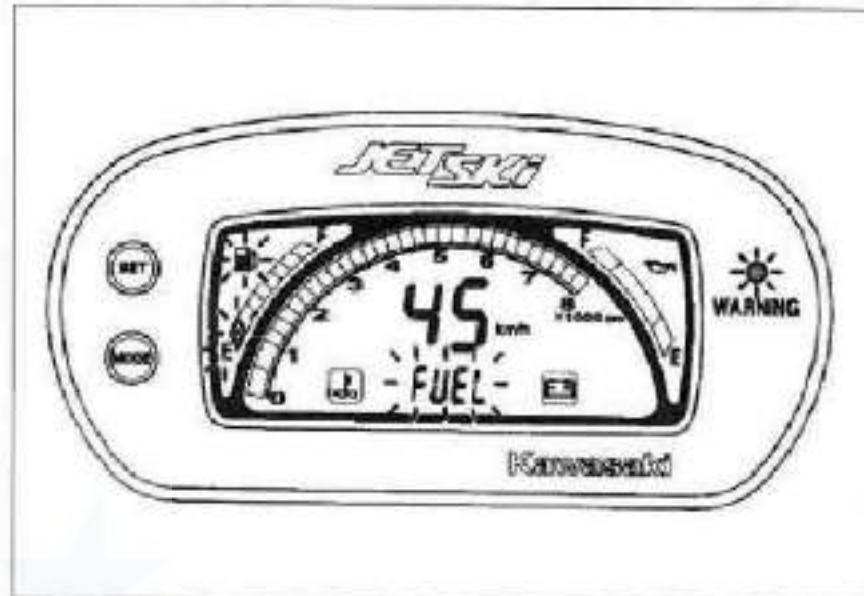
- "MODE" (モード) ボタン
- "SET" (セット) ボタン
- 燃料シンボル
- 燃料レベル計
- タコメータ
- スピードメータ
- オイルレベル計
- オイルシンボル
- "LED" 警告灯
- 水温シンボル
- バッテリシンボル
- 時計および航走時間・距離、積算航走時間メータ

スピードメータ

スピードメータはウォータークラフトの時速を示します。急旋回をしている間は、実際の速度より10ないし20 km/h低い速度を示します。



燃料レベル計／シンボル／“FUEL”文字／警告灯
燃料タンクの燃料は、表示されるセグメントの数によって示されます。燃料が満タンのときは、8つ全てのセグメントが表示されます。燃料が減るに従ってセグメントは上から順に消えて行き、タンク内の残量を示します。一番下(Eマーク)のセグメントだけになると、燃料シンボルとそのセグメントが点滅しはじめます。また、“LED”(赤色)警告灯と共にスピードメータの下に“FUEL”文字が点滅して、操縦者に警告します。これらの点滅は、メータのどれかボタンを一秒以上押すと停止します。燃料ノブを“RES”(予備)の位置に切り換え、できるだけ早く燃料を補給して下さい。（「燃料」と「操縦装置」の各項参照。）

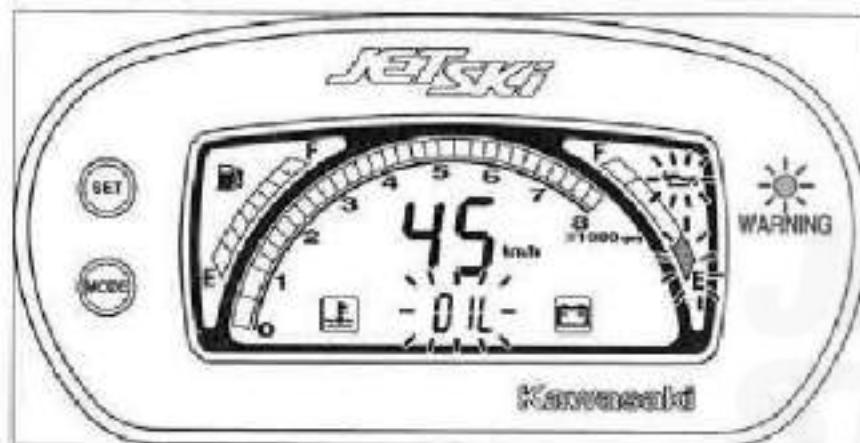


オイルレベル計／シンボル／“OIL”文字／警告灯

オイルタンクのオイルは、3個のセグメントによって示されます。オイルが満タンのときは、全てのセグメントが表示されます。オイルが減るに従ってセグメントは上(Fマーク)から順に消えて行きます。最後(Eマーク)のセグメントだけになると、オイルシンボルとそのセグメントが点滅しはじめます。また、“LED”(赤色)警告灯と共にスピードメータの下に“OIL”文字が点滅して、操縦者に警告します。これらの点滅は、メータのどれかボタンを一秒以上押すと停止します。できるだけ早くオイルを補充して下さい。（「エンジンオイル」の項参照。）

注意

オイルなしでエンジンを回すと、エンジンは重大な損傷を受けます。オイルタンクがすっかり空になったときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で、オイル系統の空気抜きをしてもらって下さい。

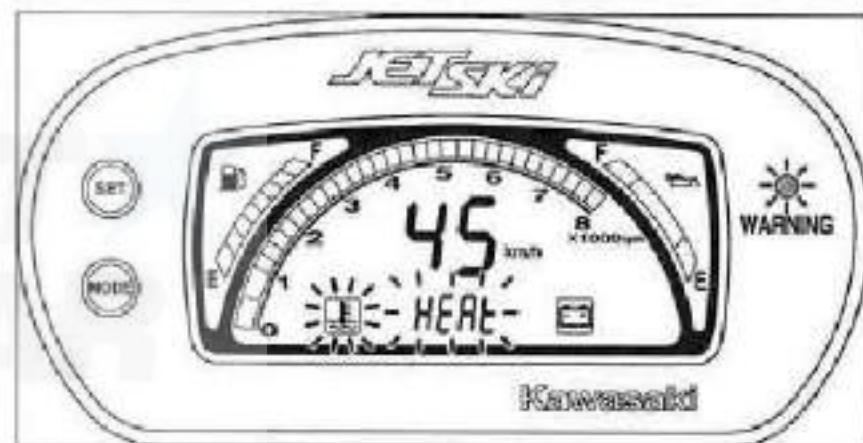


水温シンボル／“HEAt”文字／警告灯

冷却水の温度が高くなり過ぎると、“LED”（赤色）警告灯と水温シンボルと共にスピードメータの下に“HEAt”文字が点滅して操縦者に警告します。これらの点滅は、メータのどれかのボタンを一秒以上押すと停止します。直ちに岸に戻り、冷却系統が詰まっているか点検して下さい。（「操縦方法」の章の「特殊な手入れ」の項参照。）

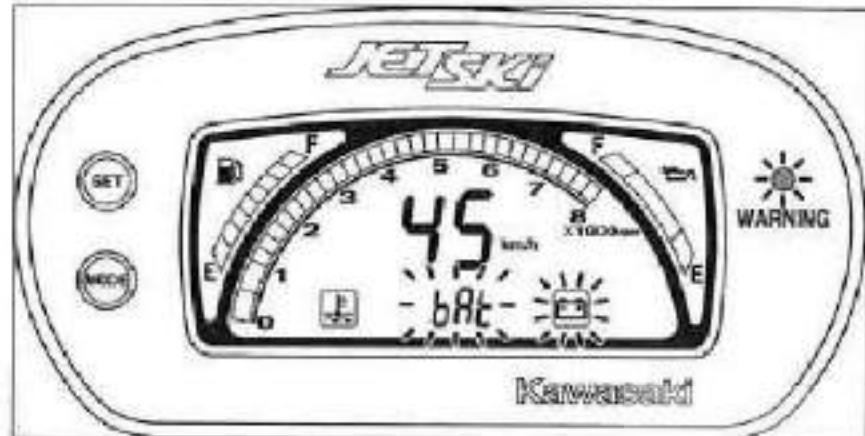
注意

エンジンがオーバーヒートすると、警告灯と水温シンボルと共にスピードメータの下に“HEAt”文字が点滅して、エンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統を点検して下さい。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないで下さい。



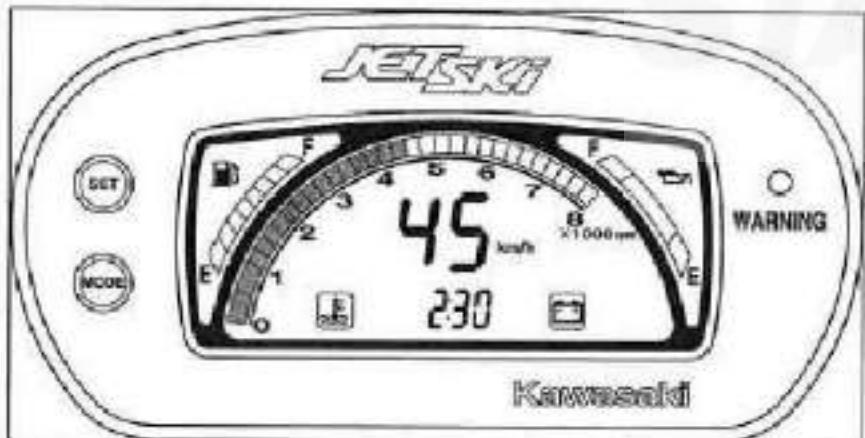
バッテリシンボル／“bAt”文字／警告灯

バッテリ電圧が12V以下になると、“LED”（赤色）警告灯、バッテリシンボルと共にスピードメータの下に“bAt”文字が点滅して操縦者に警告します。これらの点滅は、メータのどれかのボタンを一秒以上押すと停止します。できるだけ早くバッテリの補充電を行って下さい。



タコメータ

タコメータは毎分当たりのエンジン回転数 (rpm) を示します。0から1,000 rpmの間は500 rpmごとに、1,000から8,000 rpmまでは250 rpmごとに表示します。



時計／航走時間／航走路距離／積算航走時間メータディスプレー

マルチファンクションメータ下部のディスプレーに、時刻、航走時間、航走路距離、積算航走時間の4つのモードがこの順に表示されます。“MODE”ボタンを2秒以上押し続けると、これらのモードが連続的に移り変わります。

22 一般事項

時計

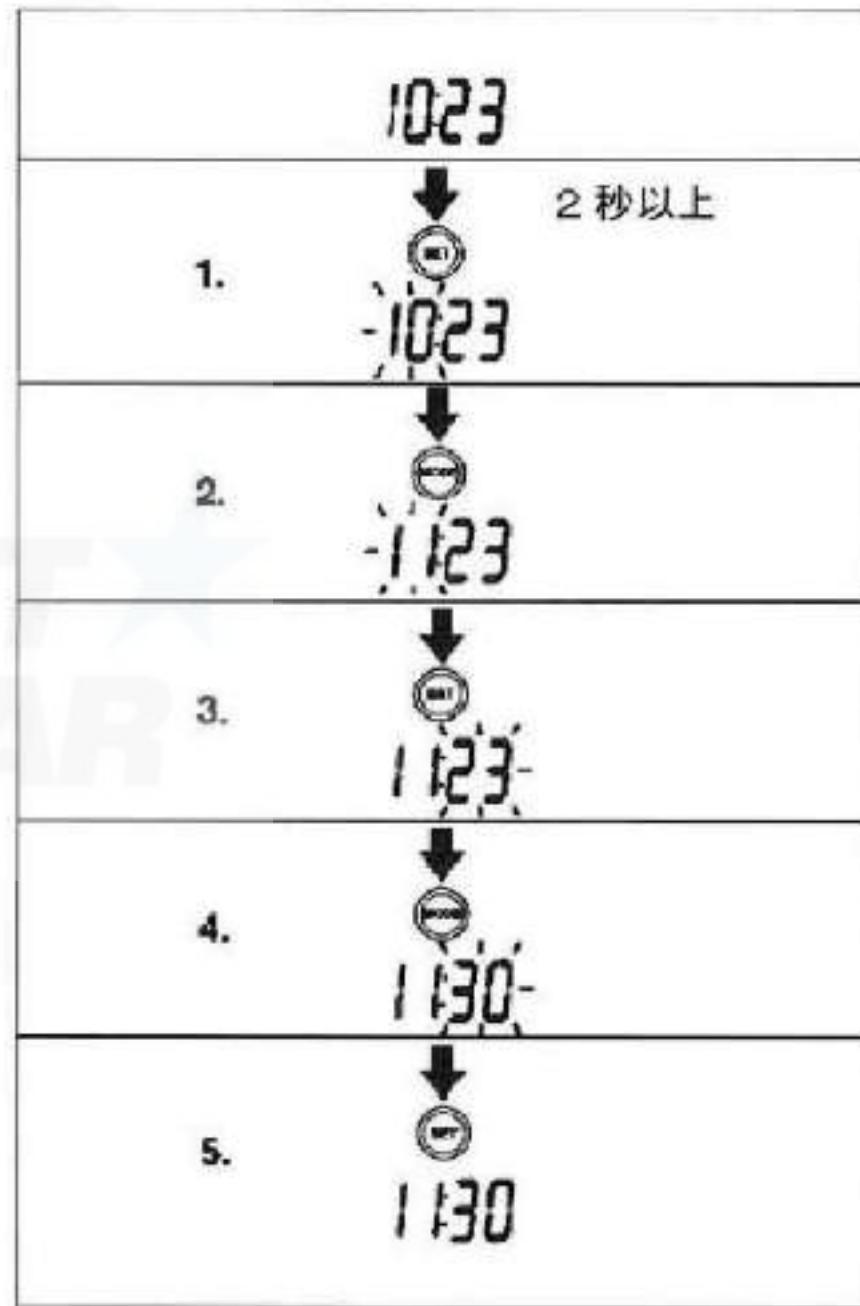


次のように時間を合わせます。

- 1.“SET”ボタンを2秒以上押す。時間表示が点滅を始める。
- 2.“MODE”ボタンを押して、時間表示を進める。
- 3.“SET”ボタンを押す。時間表示の点滅が止まり、分表示が点滅を始める。
- 4.“MODE”ボタンを押して、分表示を進める。
- 5.“SET”ボタンを押す。分表示の点滅が止まり、時計が動き出す。

要点

- “MODE”ボタンを瞬間に押すと時間表示または分表示が一つづつ進み、押し続けると連続的に進みます。
- イグニションスイッチが“OFF”的間は、時計はバックアップ電力により正常に動きます。
- バッテリからリード線を外すと、時刻表示は12:00にセットされ、次に接続されたときから動き始めます。



航走時間メータ (TIME)

航走時間メータは、表示をゼロにリセットしてから経過した時間を示します。

次のようにリセットします。

- 1.“SET”ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
- 2.2秒後表示の点滅が止まり、時・分表示が00:00に戻る。エンジンが回転中ならすぐに動き始めます。イグニションスイッチを“OFF”にしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻す）まで動き続ける。

要点

- たとえイグニションスイッチを“OFF”にしても、表示データはバックアップ電力によって保存され、次回ウォータークラフトを使用したときに再びそこから動き始めます。
- エンジンが回転中に表示が99:59になると、いったん00:00に戻ります。そして、再び先へカウントを進め始めます。
- バッテリからリード線を外すと、表示は00:00にリセットされます。



24 一般事項

航走路距離メータ(TRIP)

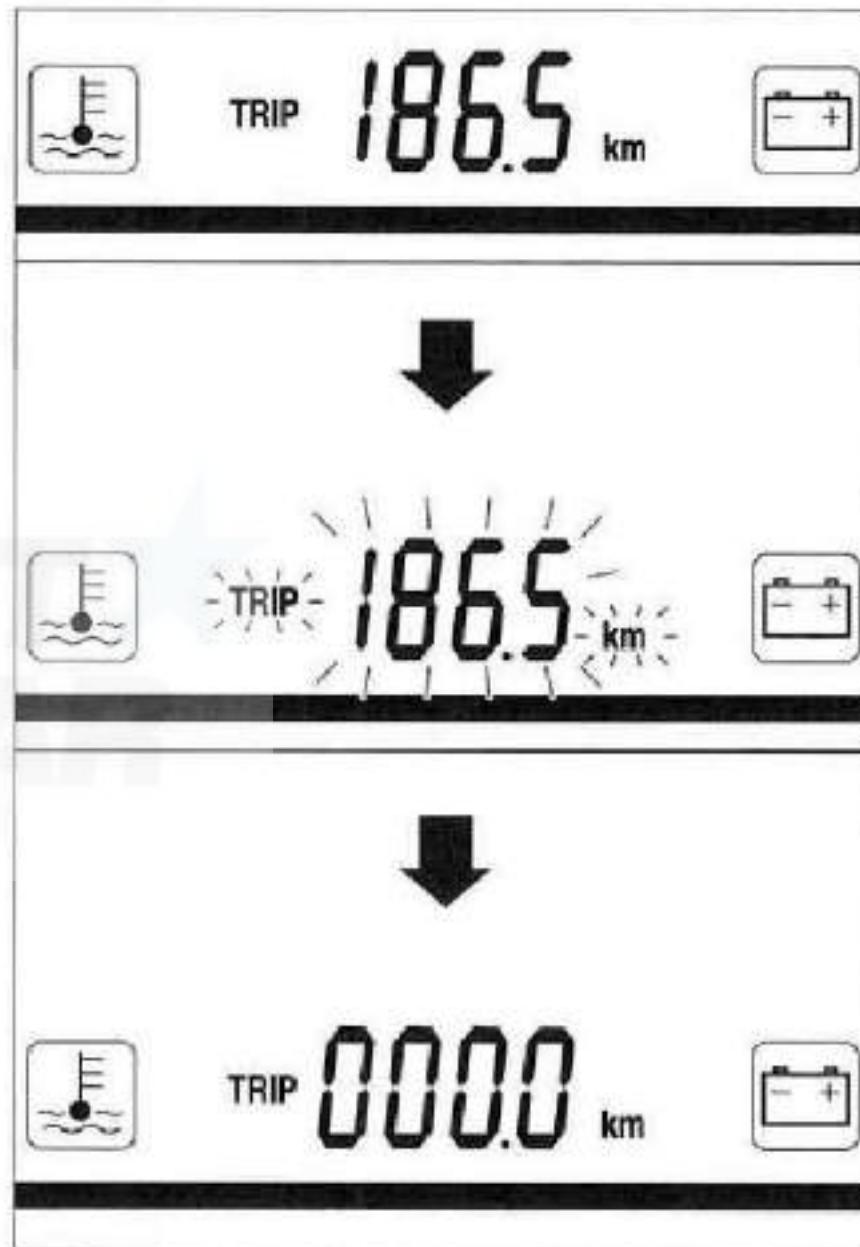
航走路距離メータは、表示をゼロにリセットしてから航走した距離を示します。

次のようにリセットします。

- 1.“SET”ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
- 2.2秒後表示の点滅が止まり、距離表示が000.0に戻る。航走中ならすぐにカウントを始める。イグニションスイッチを“OFF”にしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻す）までカウントを続ける。

要点

- たとえイグニションスイッチを“OFF”にしても、データはバックアップ電力によって保存されます。
- ウォータークラフトの停止中に航走路距離メータをリセットしたときは、再び航走し始めたらすぐにカウントを始めます。
- 航走中に表示が999.9になると、いったん000.0に戻り再びカウントを始めます。
- バッテリからリード線を外すと、表示は000.0にリセットされます。



積算航走時間メータ(HOUR)

積算航走時間メータは、ウォータークラフトが今までに航走した全時間を示します。このメータはリセットする（ゼロに戻す）ことはできません。

要点

- たとえバッテリからリード線が外されても、データは保存されます。
- ウォータークラフトが航走中に表示が9999になると、いったん0000に戻り再びカウントを始めます。



燃料

- レギュラーガソリンを使用して下さい。

注意

レース用ガソリンや添加物等、規定以外のものは使用しないで下さい。エンジンの故障の原因になります。

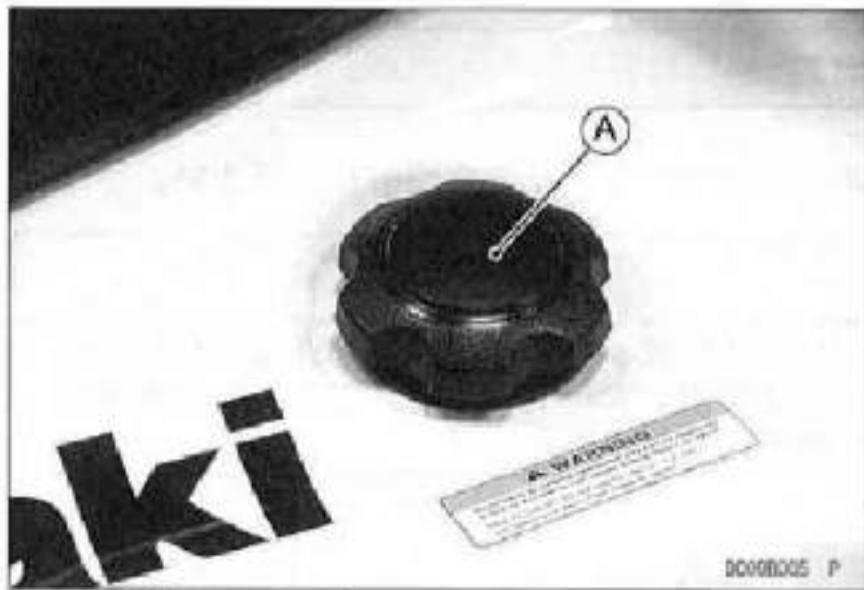
燃料の注入

▲警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- 燃料タンクはバウ（船首）内部にあり、燃料注入口は船首左側にあります。

26 一般事項



A. 燃料注入口キャップ

- キャップを開き、燃料を注入して下さい。注入するときは、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。
- 燃料の注入は必ず注入口上部から10cm位までの量にして下さい。

▲ 警 告

燃料をタンク一杯に注入しないで下さい。温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、ベントチューブから溢れることがあります。注入後はキャップを確実に閉めて下さい。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、前後シートを外し、小物入れ(後部)を取り出して数分間換気して下さい。(「シートラッヂ」と「備品入れ」の項参照。)

▲ 警 告

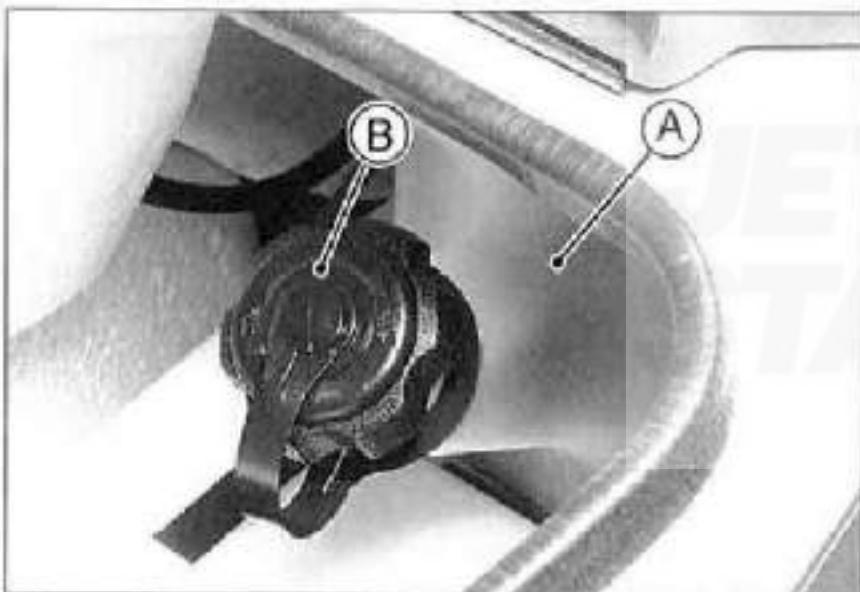
気化したガソリンがエンジルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

エンジンオイル

- カワサキジェットスキー純正オイル（2サイクルエンジンオイル）を使用して下さい。

オイルの注入

- エンジンオイルタンクは、燃料タンクのすぐ上にあります。



A. エンジンオイルタンク B. オイル注入口キャップ

- 備品入れのふたを開け、キャップを開けてエンジンオイルを入れます。

注意

オイルなしでエンジンを回すと、エンジンは重大な損傷を受けます。オイルタンクがすっかり空になったときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でオイル系統の空気抜きをしてもらって下さい。

要点

- ならし運転期間中は、特別潤滑用にガソリンとオイルの混合油を燃料タンクに入れることを推奨します。ならし運転期間が過ぎると、分離給油システムがエンジンを程よく潤滑するので、混合油を使う必要はありません。「操縦方法」の章を参照して下さい。

操縦装置

ステアリングハンドルバー

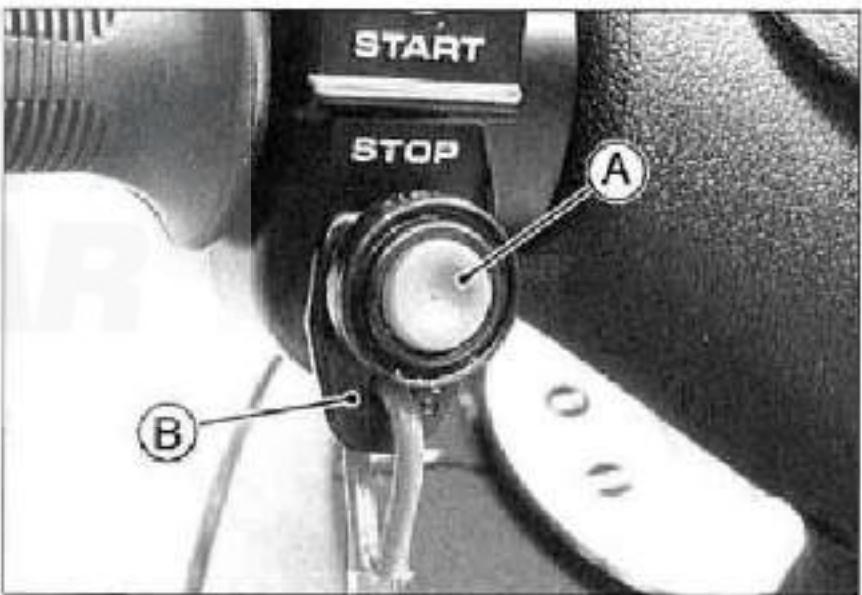


A. ハンドルバー

- ステアリングハンドルバーは自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いているときのみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータークラフトを旋回させる事ができます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータークラフト後部のステアリングノズル（ジェットノズル）とつながっています。

ストップボタン

- ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。
- 下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータークラフトから外して下さい。



A. ストップボタン

B. キルスイッチコードキー

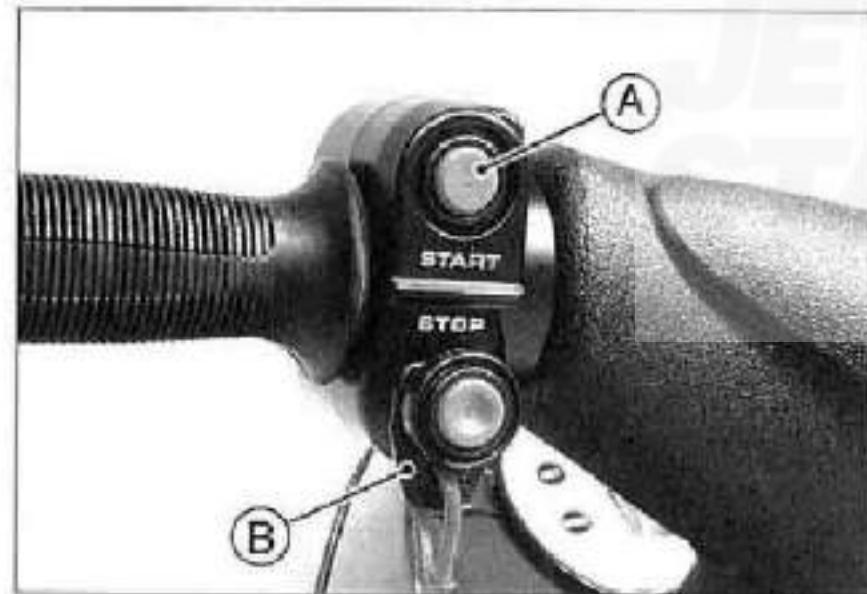
スタータボタン

- スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタータボタンは緑色で、“START”と下方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下

に差し込み、スタートボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始動したらボタンを放して下さい。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転も始動もしません。

注意

エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っているときに、スタートボタンを押さないで下さい。スタータの摩耗を早め、また、スタータの故障の原因になります。



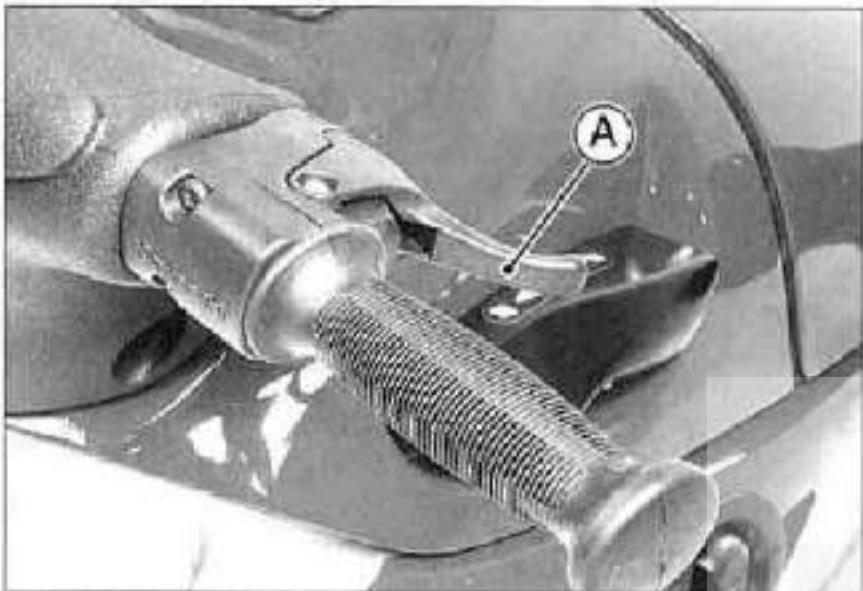
A. スタータボタン B. キルスイッチコードキー

要点

- エンジンが始動するためには、イグニションスイッチが“ON”的位置になっており、キルスイッチコードキーがトップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
- 「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照して下さい。

スロットルレバー

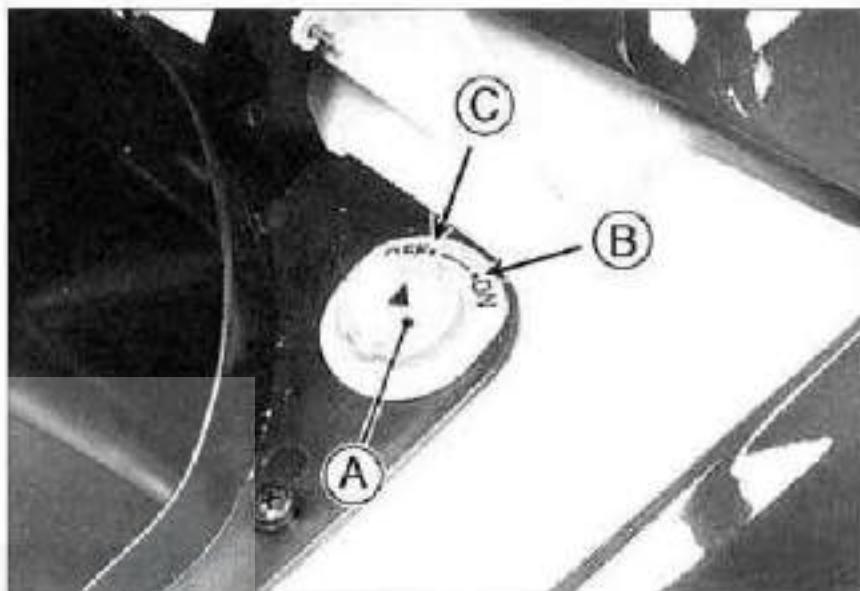
- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常の位置に戻るか必ず点検して下さい。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくてはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参考下さい。



A. スロットルレバー

イグニションスイッチ

- イグニションスイッチはステアリングハンドルバーの手前、小物入れ（前部）カバーの下にあります。小物入れ（前部）カバーを開け、イグニションスイッチキーの矢印を前方にしてはめ込み、“ON”または“OFF”的位置に切り替えます。キーは“OFF”、“ON”的どちらの位置でも外すことができます。
- スイッチを“ON”にしたらすぐにキーを外して、小物入れ（前部）に収納して下さい。
- バッテリ上りを防ぐために、エンジンを止めたら必ずスイッチを“OFF”にして下さい。
- 知らない間に他人に使われないように、ウォーターカラフトの使用後はイグニションスイッチを“OFF”にし、キーを外しておいて下さい。



A. イグニションスイッチ

B. “ON”

C. “OFF”

注意

イグニションスイッチを“ON”にしたら必ずキーを外し、携帯するか、小物入れ（前部）に収納して下さい。
エンジン停止中はイグニションスイッチを“OFF”にして下さい。“ON”的まま放置するとバッテリが上がりります。

イグニションスイッチキーの番号を控えておいて下さい。万一キーを紛失したときは、カワサキ

の販売店にその番号をいって、同じキーを求めて下さい。

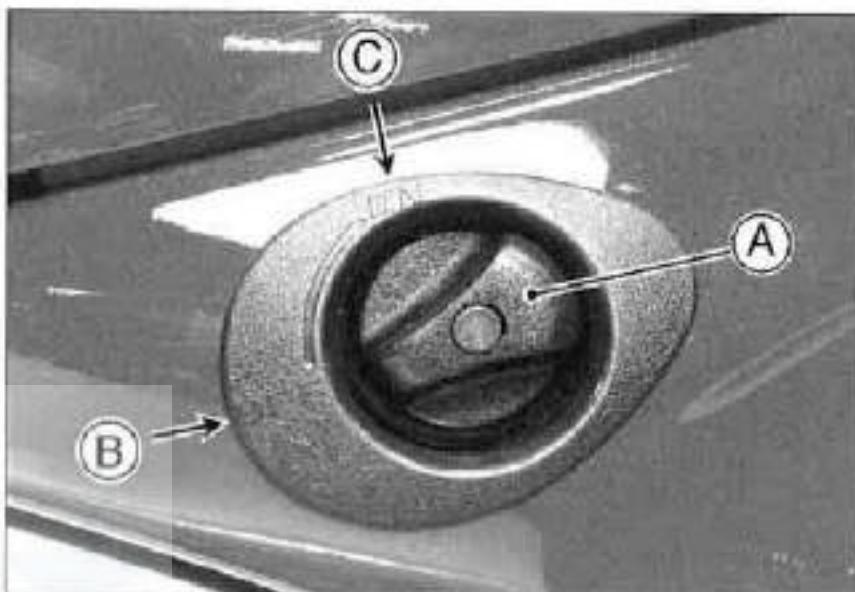
キー番号	
------	--

チョークノブ

- チョークノブはステアリングハンドルバー左下側のデッキにあります。チョークノブを“ON”的位置に回すと、混合気が濃くなって始動が容易になります。始動後はチョークノブを“OFF”的位置に戻して下さい。

要点

- もし、チョークノブがエンジン始動後も“ON”的位置になっていると、性能が下がり、また、燃料もむだに使われ、スパークプラグの汚れの原因になります。



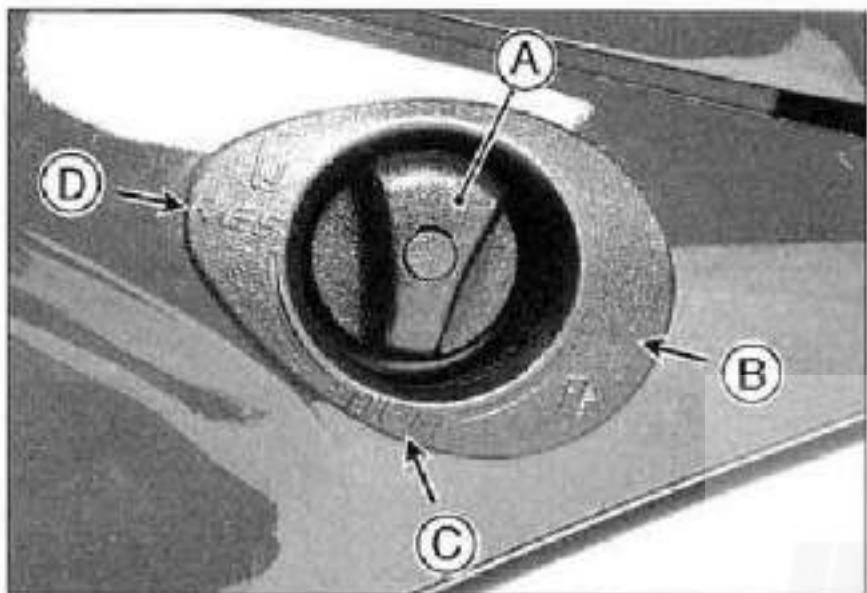
A. チョークノブ

B. “OFF”

C. “ON”

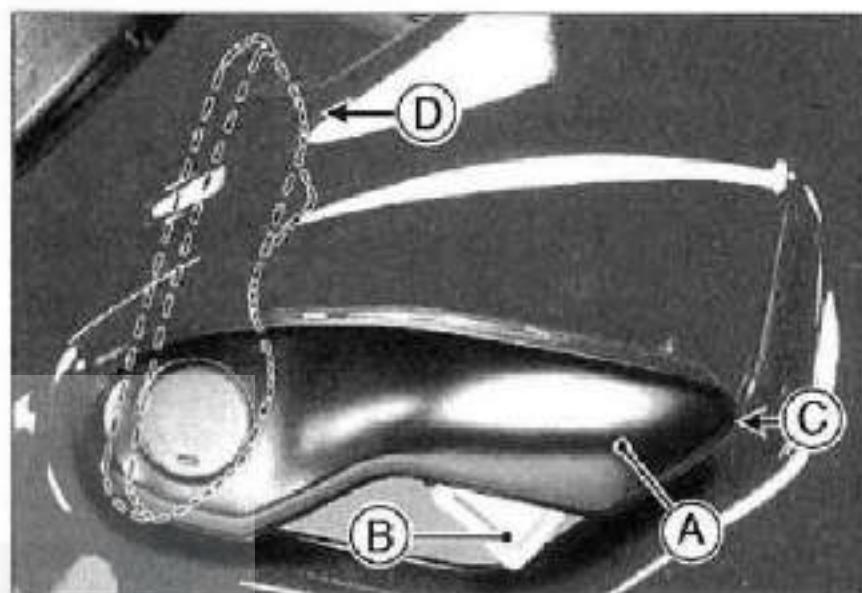
燃料ノブ

- 燃料ノブはステアリングハンドルバー右下側のデッキにあります。このノブには、“ON” “OFF” “RES”（予備）の三つの位置があります。“ON”的位置で燃料を使い果たしたときは（“LED”—赤色—警告灯、燃料シンボル、“FUEL”文字と一番下の一つのセグメントが点滅する）、ノブを“RES”に切り換える事により約7Lの予備燃料が使えます。“RES”に切り換えてから、エンジンはフルスロットルで約11分間運転できます。



A. 燃料ノブ
B. "ON"

C. "OFF"
D. "RES"



A. シフトレバー
B. ノブ

C. "F" (前進)
D. "R" (後進)

要点

- "RES" (予備) の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
- 補給後はノブを必ず "ON" の位置にして下さい

シフトレバー

- このウォーターカラフトは、スターイン (船尾) のステアリングノズルについていたバケットの作用で後進ができます。前進、後進切換のシフトレバーは、ステアリングハンドルバーの右下側にあります。シフトレバーは "F" (前進) と "R" (後進) の二段階になっています。

- 前進から後進に切換えるには、シフトレバーのノブを押し込みながらレバーを上へいっぱい引き上げます。
- 前進へ戻すには、ノブを押し込みながらレバーを下へいっぱい押し下げます。
- 前進から後進へ切換える場合は、その前に必ずスロットルレバーをゆるめて船の速度を落として下さい。（「操縦方法」の章の「後進」の項参照。）

⚠ 警 告

高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータークラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず船が停止するまで減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけて下さい。

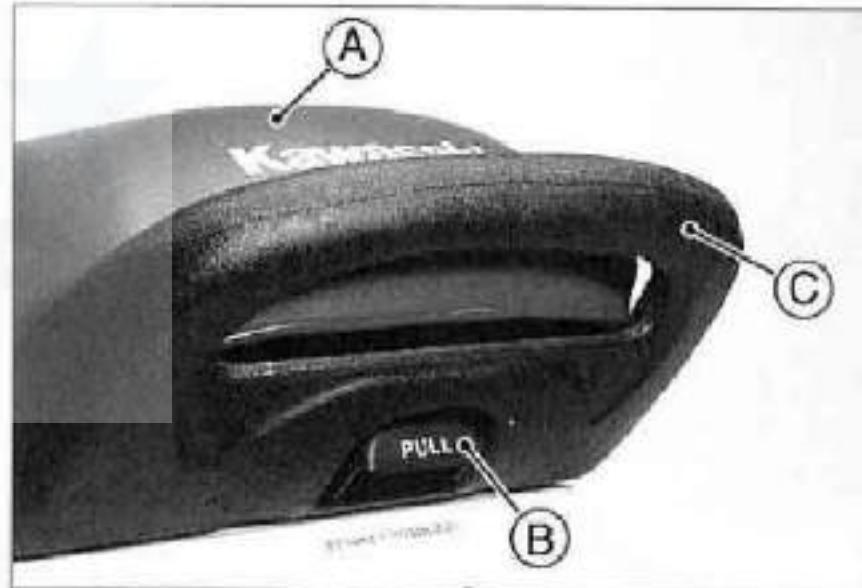
シートラッチ

シートの外し方

ラッチハンドルを引き、シートを後方へ外します。

シートの取り付け方

シート先端を所定の位置にきっちりと合わせ、シートの後端を前方へいっぱい押します。シートの後部を押し下げ、ロックします。



A. シート

B. ラッチハンドル

C. ハンドレール

34 一般事項

- ウォータークラフトを輸送するときは、シートがガタついて損傷しないようにラッチを完全にロックして下さい。
- シート後方のハンドレールは、水深の深い場所から船に上がるためのものです。また、水上スキーヤーを引っ張っているとき、同乗者は見張りのために後方に向き、シート後方のハンドレールをつかみます。これら以外の目的に使ってはいけません。（「操作方法」の章の「けん引ロープをかける場所」の項参照。）

注意

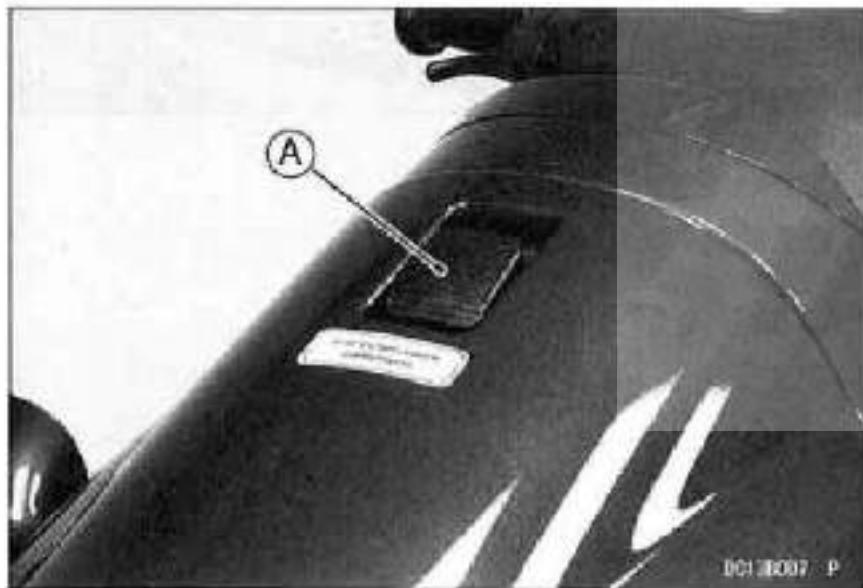
シート後方のハンドレールやフックを使ってウォータークラフトを持ち上げたり、他の船をけん引したり、あるいは船体固定用ベルトでしばりつけたりしないで下さい。

備品入れ

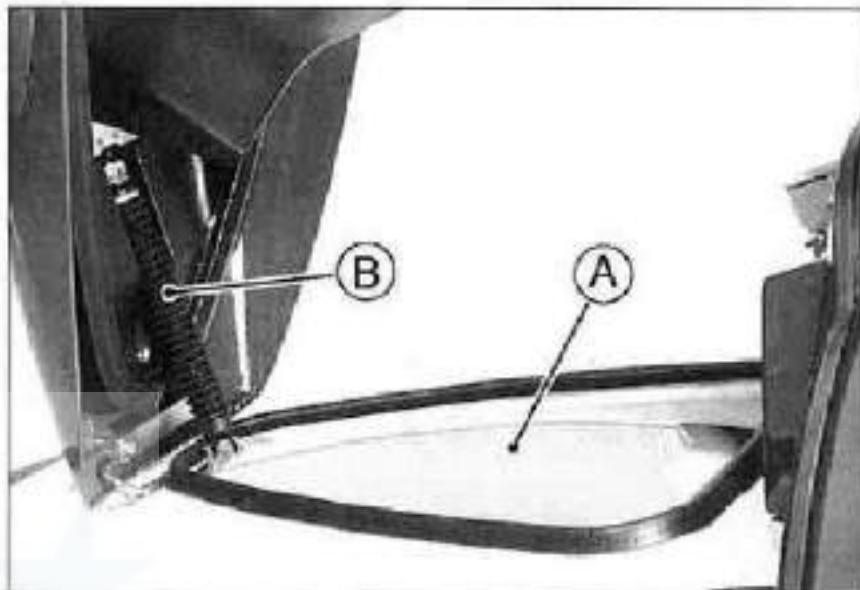
● 備品入れは船首にあります。この取扱説明書を防水の袋に入れて、ここに保管して下さい。

開けるときは、ノブを引き上げ、ふたがロックするまでいっぱい開きます。

閉めるときは、ふたをおろしノブのまわりを押して、ロックします。



A. ノブ



A. 備品入れ

B. ダンパ

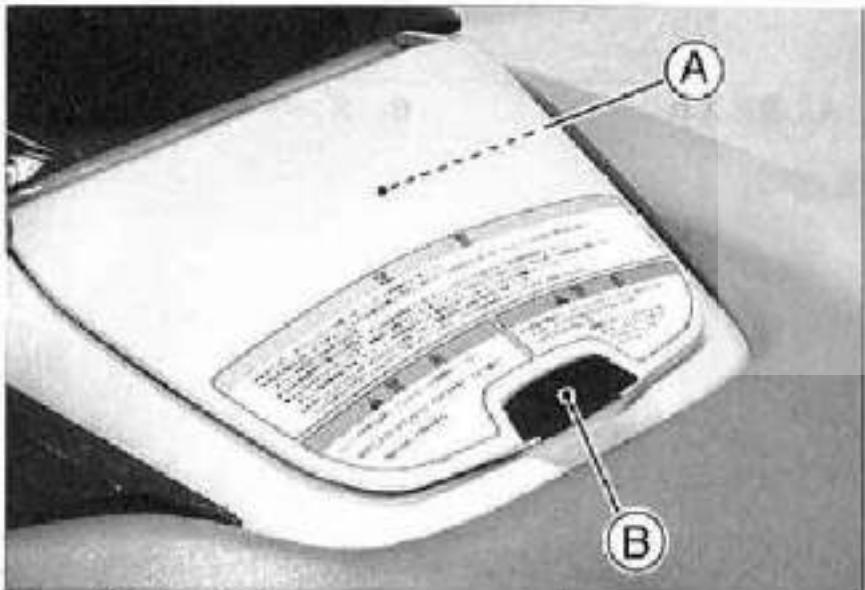
36 一般事項

小物入れ

- シートのすぐ前に小物入れ（前部）があります。イグニションスイッチを“ON”にした後でイグニションスイッチキーを外して入れて下さい。

開けるときは、ふたのノブの下に指を入れ引き上げます。

閉めるときは、ノブのまわりを押してロックします。



A. 小物入れ（前部）

B. ノブ

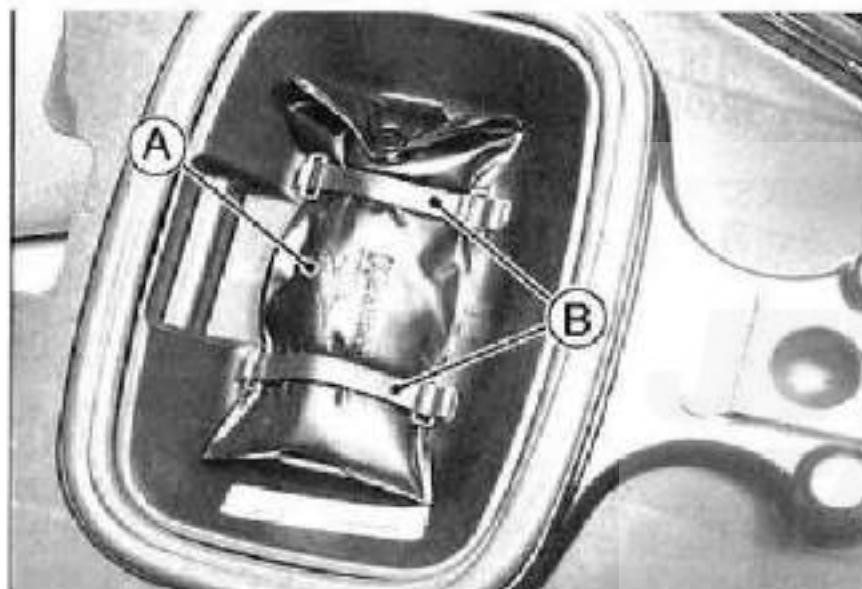
- シートの下に小物入れ（後部）があります。両方の小物入れには、ごく軽量の物だけを入れて下さい。



A. 小物入れ（後部）

工具

- 工具はシートの裏側に収納されています。
工具袋はゴムバンドを外して取り出します。



A. 工具袋

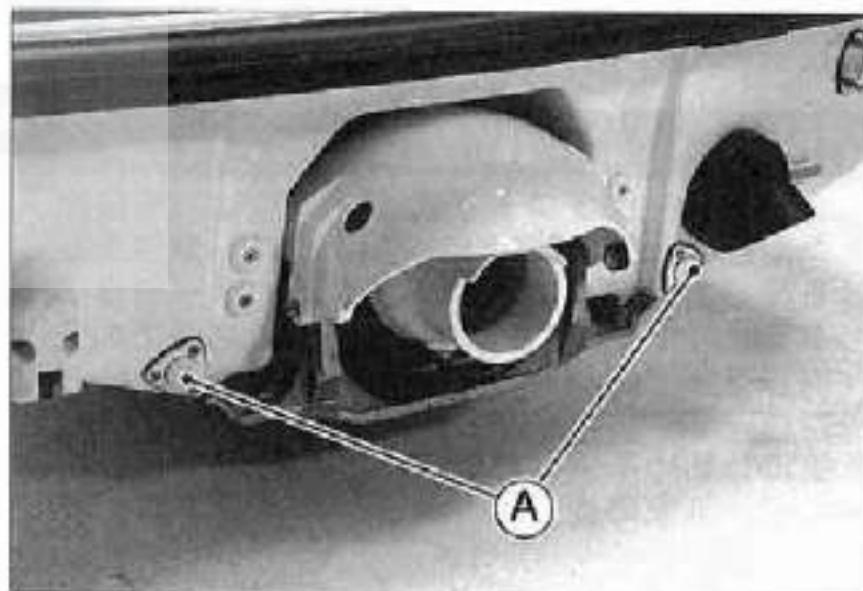
B. ゴムバンド

ドレンプラグ

- スターント（船尾）には、エンジンルームにたまつた水を排出するため2つのドレンプラグがあります。ウォータークラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外して下さい。

注意

ウォータークラフトを水上に降ろす前に、エンジンルームに漫水しないようにドレンプラグをしっかりと締めて下さい。



A. ドレンプラグ

操縦方法

安全な操縦

乗船者の水泳能力

⚠ 警告

道具（たとえ浮袋のような簡単なものでも）を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができないなければなりません。また、泳いで戻ってくることができる範囲より沖合に出てはいけません。

安全運転規則

⚠ 警告

ウォータークラフトを操縦するには、五級小型船舶操縦士免許以上が必要です。海技免状を持って乗船して下さい。ウォータークラフトを操縦する際は、必ず安全規則、各地方の条例等をよく確認し、これらに従って下さい。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

注意

一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意して下さい。気象情報のみにたよらず、観天望氣により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港して下さい。

観天望氣：雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- このウォータークラフトの定員は3名です。定員以上乗ってはいけません。また、水上スキーヤーを引っ張っているときは、操縦者以外に同乗者は1名しか乗ってはいけません。そして、定員と荷物の合計最大積載量は、225 kgです。定員または制限荷物を越えると、操縦安定性に悪影響し、事故になる恐れがあります。
- エンジンを始動する前に、スロットル、ステアリングおよびシフトレバーが正常に動くか点検して下さい。これらが故障していると、事故につながることがあります。

- 操縦者は遊泳者、障害物、周囲の船舶から回避できる安全な速度、距離を保って航走して下さい。
- 他のウォータークラフトや船舶などの後ろを追走しない。
- 周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで近づかない。
- 急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
- 浅瀬や暗礁のある水域は航走しない。
- 発進や急旋回するときは、周囲に十分注意して下さい。ウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。旋回する前にいつも後から他のボートなどが近づいて来ていないか、あり返って確かめて下さい。バックミラーだけに頼ってはいけません。ボートの方向、距離、スピードを誤って判断したり、または全く見えなかったりするかも知れません。
- 操縦者は早めに行動を起こし、衝突防止に努めて下さい。ウォータークラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- 航走中ずっと同乗者はバランス保持のため両足をデッキにおき、すぐ前の人との体につかまるか、シートバンドをつかんでおいて下さい。そうしないとバランスを失ってけがをすることがあります。決して、同乗者は操縦者の前に乗せないで下さい。
- 操縦者は落水したとき、エンジンが停止するようキルスイッチコードを手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにして下さい。下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータークラフトから外して下さい。(エンジンの始動の項参照。)
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げる恐れのある薬物を服用して、ウォータークラフトを運転してはいけません。
- 乗船者は、JCI(日本小型船舶検査機構)認定のライフジャケットを必ず着用して下さい。ライフジャケットは身体に合ったものを使用して下さい。
- 乗船者は身体を保護できる衣服を着用して下さい。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷する恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用して下さい。
- ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかって下さい。
- 水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者も同乗者もデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかって下さい。
- ウォータークラフトが前進中に後進へシフトするときは、徐々に減速してからシフトレバーを操作して下さい。また、シフトする前に同乗者に知らせて、安全のための注意を呼びかけて下さい。そうしないと、船首が水中に突っ込んで、同乗者がけがをする恐れがあります。

40 操縦方法

- 旋回するためにはジェットノズルからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に放すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられない恐れがあります。
- 他のウォータークラフトをけん引しているときは、注意が必要です。けん引は、ハンドル操作に影響があり、危険な状態を引き起こす恐れがあります。
- このウォータークラフトは、転覆しても自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っているなければなりません。（「ウォータークラフト"ジェットスキ"の乗り方」の「転覆したウォータークラフトの起こし方」の項参照。）
- ウォータークラフトは日没後、繰縦しないで下さい。夜間も操縦できるように設計されていますし、灯火もありません。
- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。
- インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあるので、浅瀬で操縦しないで下さい。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意して下さい。
- 決して、水上スキー用のジャンプ台をとび越えないで下さい。ウォータークラフトの損傷や、操縦者と同乗者のけがのもとになります。
- 悪天候や荒波では危険ですからウォータークラフトを運転しないで下さい。重大な海難事故につながることがあります。

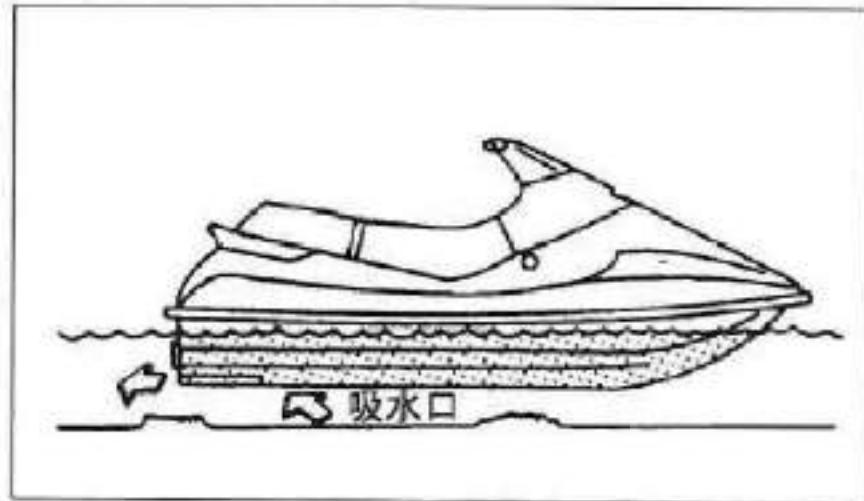
- 波を横切る前に、速度を落として下さい。荒波の中を高速で航走すると、脊髄、腰や足をいためることができます。
- 操縦者は、視界の良し悪し、他の船の往来、天候、波の状態などを考えて安全なスピードを判断しなければなりません。波がぶつかり合うような水面では、ウォータークラフトの航走特性はかなり影響されることがあり、操縦者や同乗者が落水する原因になることがあります。さらに、悪条件のもとでフルスピードで航走しようとすると、船が予想外の動きをする原因になり、乗船者がけがをする恐れがあります。

注意

波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータークラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

ジェットポンプに関する注意

ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。

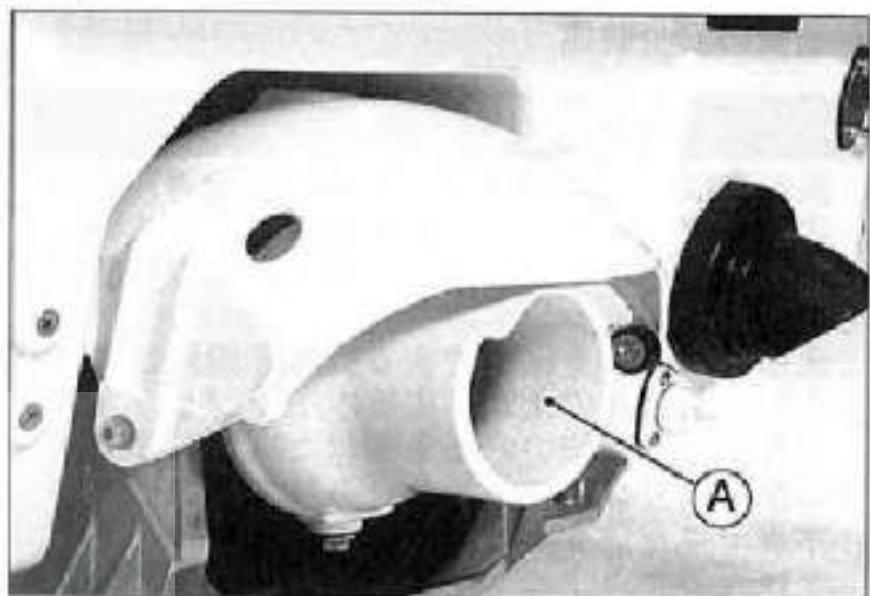


▲ 警 告

エンジンが回転中は、けがをする恐れがありますので、ジェットポンプの吸水口（船底の中央後部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（ジェットノズル）に物をさし込まないで下さい。

ウォータークラフトの背後に人がいるときは、スロットルを開けないで下さい。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにして下さい。スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをする恐れがあります。

エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないで下さい。長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、溺れたりする恐れがあります。



A. ステアリングノズル

42 操縦方法

乗船者の安全装備

⚠ 警告

乗船者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用して下さい。ライフジャケットは身体に合ったものを使用して下さい。

乗船者は身体を保護できる衣服を着用して下さい。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷する恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用して下さい。

シューズ、手袋、ゴーグル（保護眼鏡）も着用して下さい。

ゴーグル

ライフジャケット

手袋

ウェットスーツ
パンツ

デッキシューズ又は
テニスシューズ



⚠ 警告

ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかって下さい。水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。乗船者はデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかって下さい。

ヘルメット着用の選択

ヘルメットは頭部を保護する場合もありますが、また、頭部に損傷を与える場合もあります。

ウォータークラフトでヘルメットを着用する前に、その利点と危険をよく考えねばなりません。

利点：ヘルメットは固いものにぶつかったとき、頭部を保護します。

危険：ヘルメットはまわりの視野をせばめたり、疲れを増すことがあります、どちらも衝突につながる恐れがあります。

ヘルメットは、また、水中に転落したとき頭部とのどに負荷をかけ、重大なけがを引き起こす原因にもなります。

あなたが選択：あなたが、例えばレース中の転落のように、固いものに頭部をぶつけれる可能性が高いと考えるような状況で航走するつもりならば、ヘルメットを着用し、危険を負担することを選ぶことができます。一方、水面に頭部をぶつけることの方がより多いと考える場合は、ヘルメットを着用しない方を選ぶことができます。

積載

▲ 警 告

不適切な荷物の積載やアクセサリの使用、またはウォータークラフトの改造は、船の操縦安定性に悪い影響を与え、航走条件を危険にします。乗る前に積載過剰になっていないか、また、以下の指示に従っているか、必ず確認して下さい。

最大積載量

- 3名または**225 kg**（荷物を含む）以内。
- 後部デッキに積む荷物は**23 kg**を超えないこと。

ウォータークラフトは重量配分の変化に敏感です。荷物を積んだり、同乗者を乗せるときや、アクセサリをつけるときは、最大の注意を払って下さい。以下の一般的なガイドラインを参考にして決めて下さい。

- 同乗者が不適切な座り方をしたり、突然動いたりすると、ウォータークラフトのコントロールに影響を与えることがあります。航走中は、同乗者はじっと座って、操縦の邪魔をしないことが重要です。また、船に小動物を乗せてはいけません。
- 乗船する前に、操縦者は同乗者に対してすぐ前の人につかまるかシートバンドやハンドレールをつかむように、また、バランス保持のため両

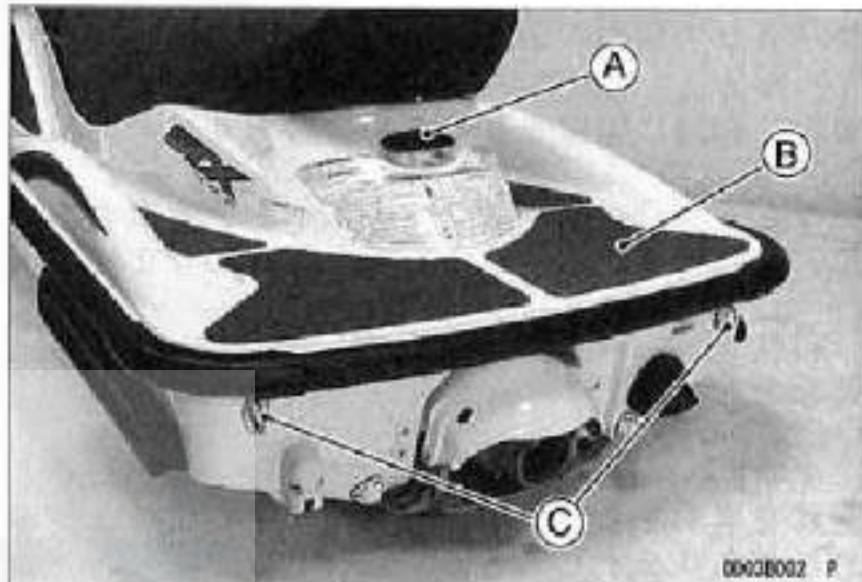
44 操縦方法

足をデッキにおくように指示しなければなりません。

- シート後部の広いデッキを荷物の積載に使って下さい。ばらばらの荷物は船から落ちて紛失しないように、浮力のある容器に必ず収納して下さい。ばら積みの荷物やロープは海に落ちて、吸水口の格子やポンプにからみつく恐れがあります。
- カーゴネット（標準装備部品ではありません。）他の適当なロープを使って、荷物を後部デッキに固定して下さい。リボーディンググリップや船尾のえい航用フックを利用します。後部デッキには、最大23 kgを超えて荷物を積んではいけません。
- 航走中に荷物が動くことがないことを確認して下さい。できるだけ何回も荷物の固定具合を点検し、必要ならば締め直して下さい。
- 視界をさまたげたり、操縦者の船のコントロール能力に影響を与えるような大きい、またはかさばった荷物を積まないで下さい。また、船の性能を落とすようなアクセサリを付けたり、荷物を運ばないで下さい。

！ 警 告

後部デッキに積んだ荷物は、乗船を妨げ、バランスをくずす恐れがあり、そのためがをすることがあります。乗船の妨げにならないように、荷物を積んで下さい。



A. けん引用フック

B. 後部デッキ

C. えい航用フック

水上スキーヤーのけん引

水上スキーは、3人で行うチームスポーツです。バックミラーがスキーヤーの見張りに使えると考えてはいけません。操縦者、後方を向いて座る見張り役の同乗者およびスキーヤーは、チームとして自分達の装備、航行規則、各人の責任、合図、そしてスポーツの基本を知っていなければなりません。

他のボートや建造物、または泳いでいる人達と衝突する危険性を減らすために、混み合った水域を避けて下さい。岸や水深の浅い水域から少なくともけん引ロープの2倍の長さの距離を保って下さい。他のボートの前方でけん引してはいけません。多くの湖には決められたスキー区域があります。常にその地域の水上スキーに関する条例、規則を守って下さい。

操縦者の役割

操縦者は船長としてチームの行為と安全に責任があります。スキーヤーをけん引しているときは、細心の注意を払って下さい。他の船の操縦者は、あなたのウォータークラフトがスキーヤーを引っ張っているとは思っていないかもしれません。スキーヤーが転倒したら直ちにその場所に戻り、ゆっくりと近づいて下さい。

けん引ロープがぴんと張るまでアイドリング速度でスタートします。スキーヤーが準備OKの合図をしたら、ウォータークラフトの前方の安全を確認し、スキーヤーを引き起こせるパワーで走り始

めます。スキーヤーが立ち上がったら一度スロットルをゆるめます。スキーヤーを引き起こす前にもう一度前方にボートや障害物がないか、また、けん引ロープがスキーヤーに巻きついていないかチェックすることを忘れないで下さい。

常にスキーヤーの能力に応じたスピードを考えて下さい。初心者に適したスピードは、30から40 km/hです。スキーヤーが滑らかで楽な乗り方ができるようにし、スキーヤーに何をしたいか合図させて下さい。スキーヤーが旋回する際に、スキーヤーの体重とスピードがウォータークラフトを外へ引っ張り、操縦に影響することがあります。操縦者は、スキーヤーの引っ張る力を見越して操縦する必要があります。いつも後に長いロープとスキーヤーがあることを頭にいれて、操縦に余分の時間とスペースをみておいて下さい。無理なスピードでスキーヤーを振り回すことがないように、大きく、そして速すぎない速度で旋回して下さい。

見張りの役割

見張りの役割は、スキーヤーのすべての合図を操縦者に伝え、スキーヤーが転倒した場合は直ちに操縦者に知らせることです。見張り役はスキーヤーを見張るために後方を向いて、ハンドレール（グリップ）をしっかりとつかんでいなければなりません。見張り役は、また、けん引ロープが吸水口に吸い込まれてインペラにからみつかないようによく注意しなければなりません。

46 操縦方法

けん引ロープをかける場所

スキーヤーを引っ張るときは、シート後端下部にあるリボーディンググリップの中央のフックを使います。他の船をけん引するときは、えい航用フックにロープをつないで下さい。



A. スキーヤーけん引フック



A. えい航用フック

乗る前の点検項目

- 毎回ウォータークラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検して下さい。

ウォータークラフトの外側

- 1) ポンプの清掃:
吸水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いて下さい。
- 2) ポンプカバー:
ジェットポンプカバー、吸水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取付けボルトを締めて下さい。
- 3) 船体の損傷:
船体の損傷を点検して下さい。
- 4) ドレンプラグ:
スター（船尾）のドレンプラグが確実に締められているか確認します。
- 5) ステアリング:
ステアリング系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検して下さい。必要であればケーブルを調整して下さい。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしており、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換して下さい。
- 6) シフトレバー:
シフトレバーを“F”（前進）、“R”（後進）のそれぞれの位置に動かしてみて、ひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか点検します。ま

た、スター（船尾）のリバースパケットが、シフトレバーの動きと正常に対応して動くか点検します。（「整備と調整」の章参照。）

ウォータークラフトの内側

- 7) スロットルコントロール:

スロットル系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態に戻らなければなりません。

▲警告

もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になる恐れがあります。

- 8) エンジンルームの換気:

備品入れのふたを開け、前後シートを外し、小物入れ(後部)を取り出して、数分間エンジンルームの換気をします。

▲警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 9) バッテリターミナル:

バッテリターミナルのスクリュがしっかりと締まっているか、また、ターミナルカバーが確実に取り付いているか点検します。

▲ 警告

バッテリリード線の取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡する恐れがあります。バッテリターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせて下さい。

10) 燃料タンク内の圧力：

燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。キャップはしっかりと閉めて下さい。

11) 燃料：

燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給します。

12) エンジンオイル：

オイルタンク内のオイルを点検します。必要ならば補充します。

13) 燃料漏れ：

エンジルーム内に燃料漏れがないか点検して下さい。

14) オイル漏れ：

同時にオイル漏れがないか点検します。

15) ファスナ：

ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、緩みがあれば締めて下さい。

16) ホースの接続：

すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認して下さい。また、すべての

ホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換して下さい。

17) ピルジ（あか）の排水：

エンジルームに水がたまつていれば、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。

18) キルスイッチコード：

エンジンを始動して、数秒間回転させます。（「エンジンの始動」の項参照。）コードキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

▲ 警告

密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

注意

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

19) ストップボタン：

再びエンジンを始動して数秒間回転させます。

- ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。
- 20) シート：
シートのラッチが完全にロックされているか確認します。
- 21) 乗船者の安全装備：
操縦者と同乗者は常にライフジャケットを着け、その他安全装備をして下さい。

ならし運転

●新しいウォータークラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、偏摩耗を防ぎ、また、表面を滑らかにするためです。ならし運転期間中は、特別潤滑用に50：1のガソリンとカワサキジェットスキーピュ正オイルの混合油を燃料タンクに入れることを推奨します。最初の5時間（燃料タンクで約3杯分）のエンジン運転中は、この混合油を使用して下さい。ならし運転期間が過ぎると、分離給油システムがエンジンを程よく潤滑するので、混合油を使う必要はありません。また、最初の5時間は急激な加速や長時間の全開運転をしないで下さい。この間は全開の3/4以下で運転して下さい。

一定の速度で長く運転せず、ひんぱんに速度を変えて運転して下さい。

- ならし運転期間中、ウォータークラフトを注意深く取り扱うと、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場で定期点検整備を受けて下さい。「整備と調整」の章の「定期点検整備表」を参照下さい。

50 操縦方法

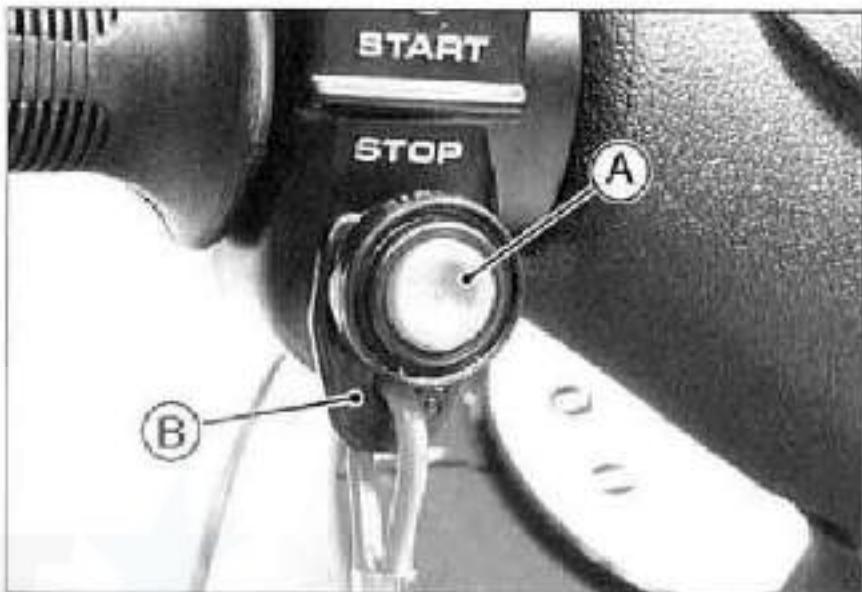
エンジンの停止

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによつて、止めることができます。

- 赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込まねばなりません。
どちらの方法でエンジンを止めても、イグニションスイッチを“OFF”にして下さい。

⚠ 警 告

エンジンが停止すると、ウォータークラフトの進路変更ができなくなります。



A. ストップボタン

B. キルスイッチコードキー

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならないときは、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いて下さい。

考えられる緊急事態とは：

- *エンジンの回転をコントロールできなくなつたとき。
- *スロットルレバーが指を放しても完全に戻らないとき。

▲ 警告

もし、スロットルが正しく作動しないときは、原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを運転しないで下さい。

下船後は子供や他の人が使えないようにキルスイッチコードをウォータークラフトから外して下さい。

注意

エンジン停止中はイグニションスイッチを“OFF”にして下さい。“ON”的ま放置するとバッテリが上がります。

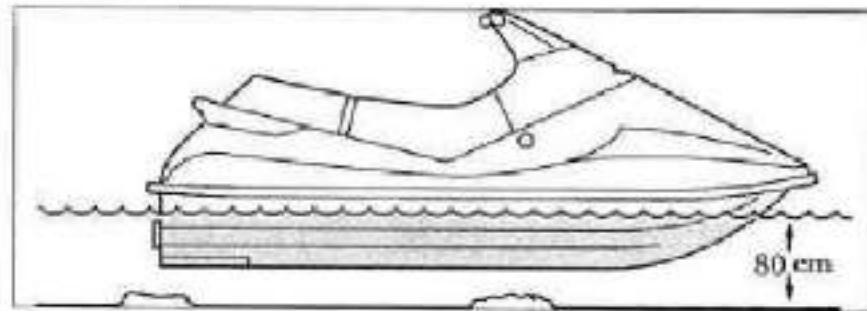
エンジンの始動

- ウォータークラフトを水上に下ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従って下さい。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、前後シートを外し、小物入れ(後部)を取り出して数分間換気して下さい。

▲ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深80 cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がないか、また、ポートや障害物がないかよく確認します。



注意

ウォータークラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80 cm以上の所で行って下さい。

- 燃料ノブを"ON"にします。
- シートに座り、コードキーをストップボタンの下に差し込み、落水したときにエンジンが停止するようコードのもう一方の端を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにします。コードを引っ張ってみて、しっかり手首にはまっているか確認して下さい。

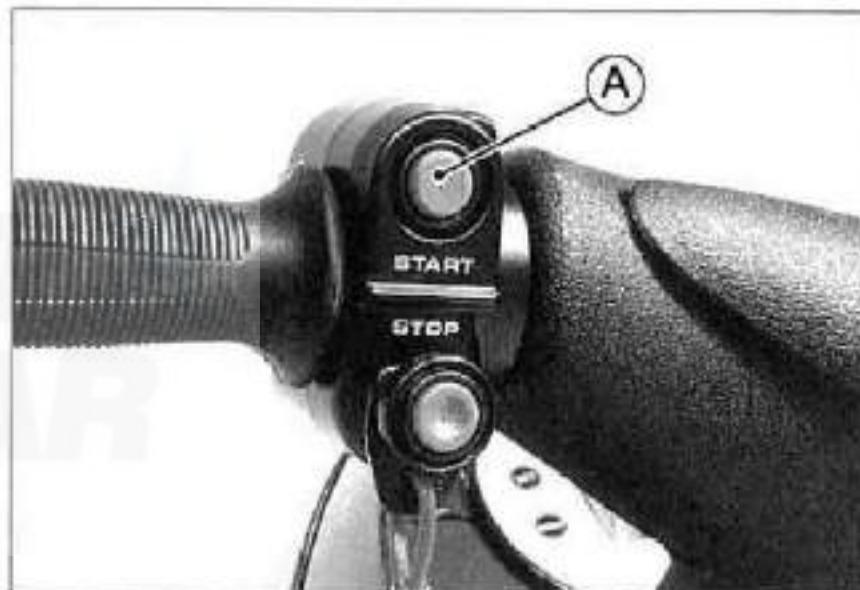
要点

- キルスイッチコードキーがストップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転も始動もしません。
- イグニションスイッチキーの矢印を前方に向けてスイッチにはめ込み、押し込みながら"ON"の位置へまわします。そして、すぐにキーを外し、小物入れ(前部)に入れます。

注意

イグニションスイッチを"ON"にしたら必ずキーを外し、携帯するか、小物入れ(前部)に収納して下さい。

- チョークノブを"ON"の位置に回します。
- 左手で緑色のスタートボタンを押し、エンジンが始動したら放して下さい。もし、エンジンが5秒以内に始動しないときは、スタートボタンを放して下さい。15秒間待って再び始動させて下さい。数回試みても始動しないときは、「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。



A. スタータボタン

要点

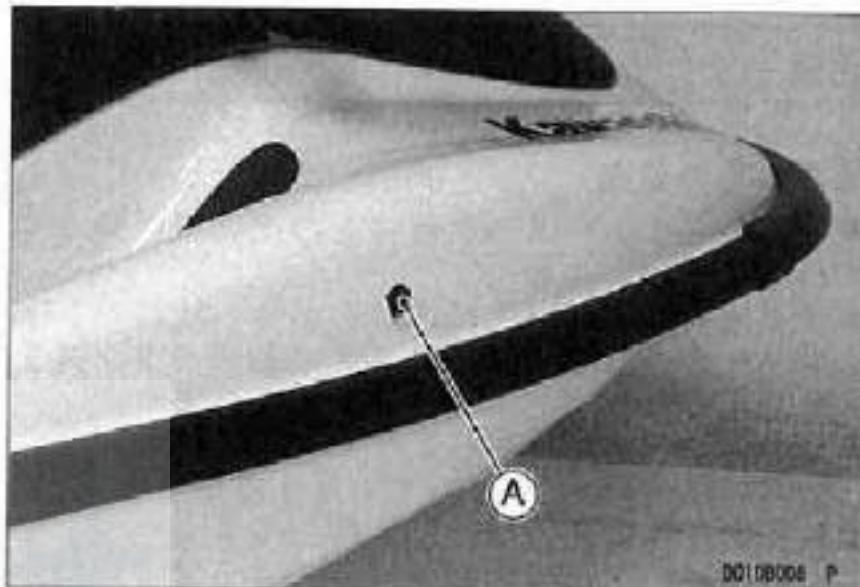
- エンジンが始動しないときは、15秒間隔で始動を行って下さい。こうすることはバッテリーやスタートの寿命を延ばすことになります。
- エンジンに初爆があれば、たとえ始動に至らなくてもチョークノブを"OFF"の位置へ戻して下さい。燃料の過給を防ぎます。

- エンジンが暖まっているときは、チョークを使わないで下さい。

注意

エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っているときに、スタータボタンを押さないで下さい。スタータの摩耗を早め、故障の原因になります。

- エンジン始動後、約1分間暖機運転をします。ときどきスロットルレバーを少し引いて回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すことになります。
- スロットルレバーを引いたとき、船体の右側のバイパス出口から水が出てくるか確認して下さい。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気系統に水が入っていないときは、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



54 操縦方法

発進

桟橋からの発進

- 桟橋からウォータークラフトの上に飛び降りてはいけません。
- まず桟橋側のデッキに片足をおき、次にハンドルバーをもち体重を移動させて船のバランスをとりながらシートにまたがって座ります。
- シフトレバーが前進しようとする場合は“F”に、後進の場合は“R”になっているか確認します。
- 桟橋を離れるときは、船を押してもらうか、または船尾の水面に十分余裕ができるまで桟橋から浅い角度で船を動かします。ウォータークラフトは船首で回るのではなく船尾で回るので、桟橋に当たらないように十分注意して下さい。
- 前方に障害物等がないか確認して、ハンドルバーを走る方向に向けます。

！警告

進行方向にいるボートや障害物に注意して下さい。これは危険防止のため、初心者には特に重要なことです。

- スロットルレバーを引いて旋回ができる推力を出します。

注意

桟橋から離れるときは、急旋回や急加速を避けて下さい。そうしないと船尾が桟橋に当たり、損傷するかも知れません。操縦者は急激な操作をする前には、旋回する余裕が水面にあるか必ず確認して下さい。

- 広い水面に出ていくに従って、徐々に加速します。
- スピードが上がるにつれてウォータークラフトは水平になって滑走します。
- いったん滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走って下さい。
- 進行方向のボートや泳いでいる人達、また、障害物に避けず注意して下さい。

ランプからの発進

- ウォータークラフトを水上に降ろす前に、「乗る前の点検項目」の項の各項目を点検したか確認して下さい。
- 同時に、ランプの表面の状態、傾斜及び幅が、トレーラやけん引車に適しているか点検して下さい。

注意

ウォータークラフトが漏水しないように、スターン（船尾）のドレンプラグがしっかりと締められているか点検して下さい。

- 適当なロープをウォータークラフトが遠くに行かないよう取り付け、トレーラに縛り付けられたひもをときます。
- ウォータークラフトをトレーラと共に水中に入れます。
- ウィンチのロックを外し、ウォータークラフトをゆっくり押してトレーラから離します。
- トレーラを水中から引き揚げます。

水深の深い場所での発進

一人乗りの場合

- ウォータークラフトの後部へまわります。
- エンジンが止まっていることを確認します。
- シート後端のハンドレールか、またはその下のリボーディンググリップをつかみ体をデッキの上へ引き上げます。次に片ひざづつデッキ後部にのせます。船に上がるとき、船上ですべらないように注意して下さい。
- シート中央のバンドをつかんで、船のバランスをとりながらデッキに両足をおきます。
- シートにまたがって座ります。

二人または三人乗りの場合

- 操縦者が船のバランスをとっている間に、同乗者は後部から一人乗りの場合と同じ要領でウォータークラフトに上がります。

水深の浅い場所での発進

- ウォータークラフトを浅瀬にけい留するときはいつも砂や岩場を引きずらないで下さい。これは船体の傷を減らし、砂や岩がジェットポン

プの中に入り、再始動時、ジェットポンプが損傷することを防ぎます。

- 海岸に引きあげたウォータークラフトの中に砂や岩が入ったときには、水中にて船尾を何回も大きく上下させ、ジェットポンプの中を洗浄します。

注意

ウォータークラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80 cm以上の所で行って下さい。

- 船の左右どちら側からでも、また、後部からでも乗ることができます。どの場合でも、乗るときはウォータークラフトが安定するようにバランスをとって下さい。

56 操縦方法

停止

通常停止：

⚠ 警告

フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から100m以内に直進して近づかないで下さい。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落として下さい。

ウォータークラフトにブレーキをかけるつもりで後進へシフトしてはいけません。バウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。

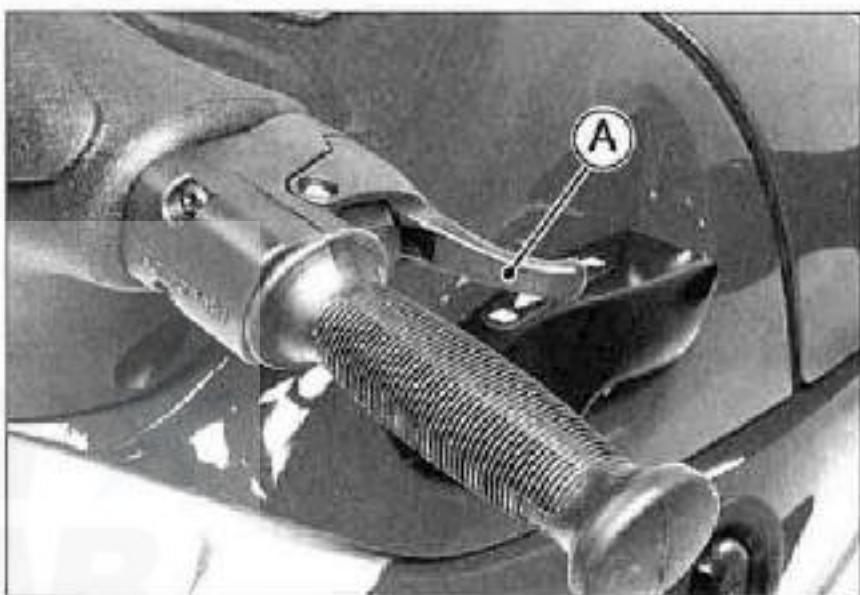
このウォータークラフトは、次の順序で水の抵抗を利用して停止します。

- 1) 止めようとする区域に到着する前に、スロットルレバーを放します。
- 2) アイドリング状態のまま、停止区域へ向かって進みます。

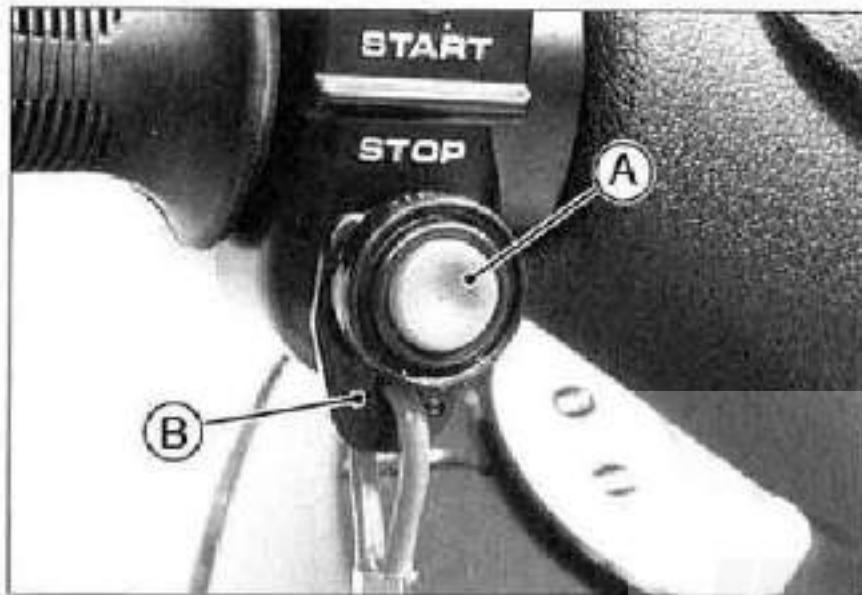
注意

異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、水深が80 cm以下になる前にエンジンを止めて下さい。

- 3) 完全に停止させるため、ストップボタンを押すか、またはコードキーをストップボタンから抜きます。



A. スロットルレバー



A. ストップボタン

B. キルスイッチコードキー

スロットルレバーを放すと前進速度は落ちますが、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いてウォータークラフトの進行方向を変えることができます。

この方法でウォータークラフトを旋回させ、障害物から離れることができます。

▲ 警 告

スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

岸辺に近づいてきて停止したいときには、ストップボタンを押して下さい。エンジンが直ちに止まるので、砂や異物がジェットポンプに入って損傷をうけることを防ぎます。水深80 cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

▲ 警 告

再びスロットルレバーを使ってウォータークラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないで下さい。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

停止技術：

停止距離は操縦者と同乗者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮することができます。停止するときに急旋回（スロットルレバーを使って）す

58 操縦方法

ることは、停止距離を短くするための一つの方法です。

最短停止距離：

3人乗りで、最高速度からの最短停止距離は95 mです。

この数字は、一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変わればこの数字も変わってきます。

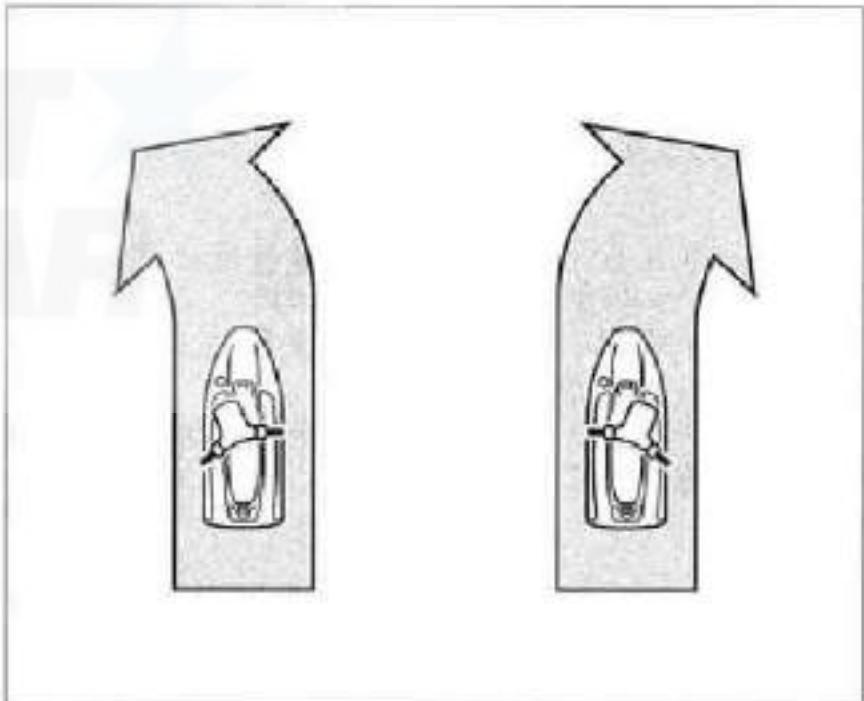
旋回

ウォータークラフトを旋回させるには、次の二つの動作の組み合せが必要です。

- ハンドルバーを回す。
- スロットルレバーを使う。

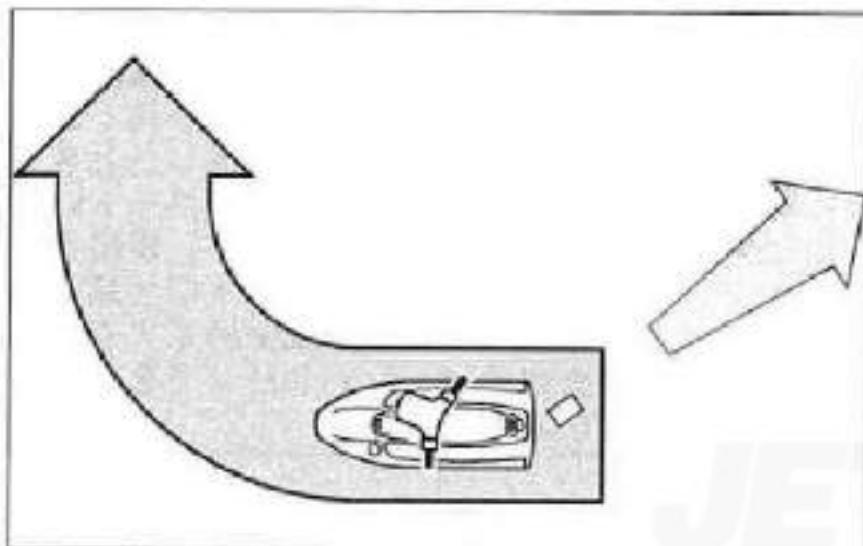
左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。

右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。

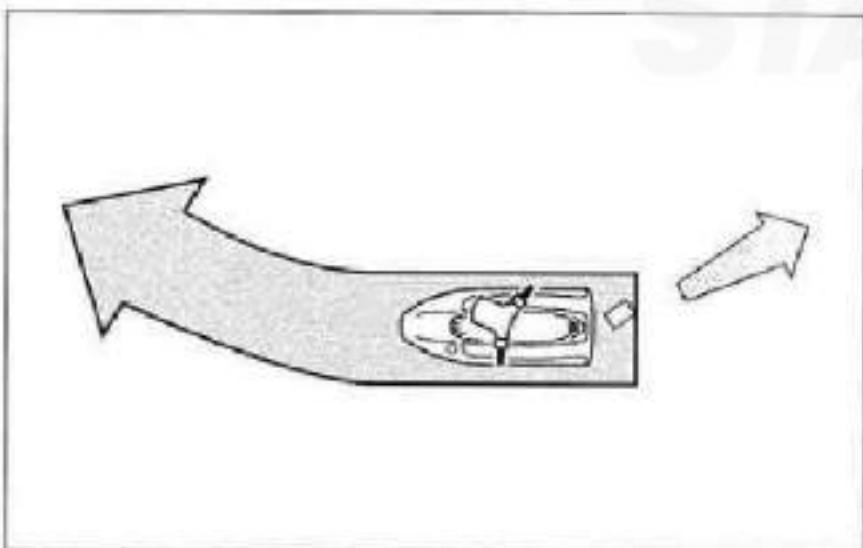


スロットルレバーを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

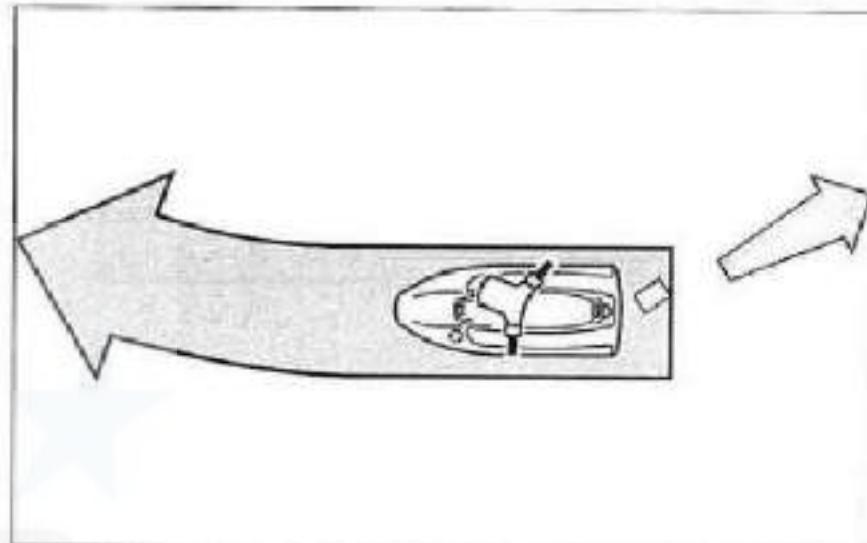
ジェットポンプの推力が強いとウォータークラフトは鋭く旋回します。



ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



スロットルレバーを完全に放すとジェットポンプの推力が殆どなくなります。ウォータークラフトはゆっくりとまわり、旋回能力は低下します。



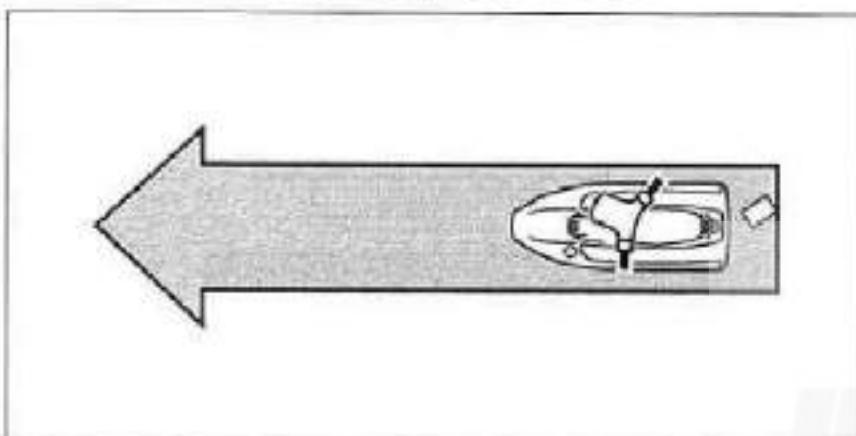
アイドリング＝ゆっくりと徐々に旋回

▲ 警 告

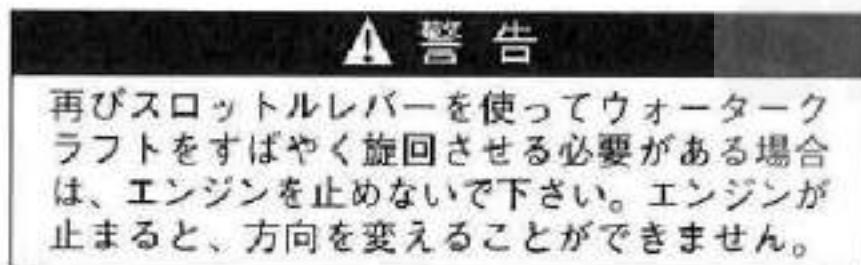
スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになります。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

60 操縦方法

航走中にエンジンを停止すると、ジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータークラフトは真っすぐに進みます。



無推力＝旋回不可



次のことは、緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

- 旋回に入る前に、スロットルレバーをゆるめてスピードを落として下さい。

▲ 警 告

このウォーターカラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、急旋回や急加速したときに同乗者が船外に投げ出され、他のボートに当たって事故になる恐れがあります。操縦者は急旋回等する前にまわりのボートに注意して下さい。また、同乗者は航走中必ずすぐ前の人々の体につかまるか、シートバンドをつかんでいて下さい。

後進

- 離着岸時等、やむを得ない場合を除いて、なるべく後進は使わないで下さい。
- 前進から後進に移る前に必ず船が止まるまで減速して下さい。スロットルレバーを充分ゆるめるか、または完全に放します。減速するまで待ってからシフトレバーを“R”（後進）に入れます。

⚠ 警告

高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータークラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけて下さい。

- 後進方向の水面に他のボート、泳いでいる人達、または障害物等がないか確認し、目標を定めます。バックミラーだけに頼ってはいけません。よく見えないか、または全く見えないかも知れません。
- 徐々にスロットルレバーを引いて、ゆっくりと後進を始めます。

着岸

- 着岸するときは、ウォータークラフトのスピードと方向をコントロールするために、スロットルを効果的に使って下さい。
- 停止したい砂浜や岸辺に近づいてきたら、ストップボタンを押して下さい。砂がジェットポンプに入って損傷させることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

注意

ウォータークラフトを岸に乗り上げないで下さい。インペラや船体がひどく損傷することがあります。また、船尾の速度検知用水車が損傷して、スピードメータが作動しなくなることがあります。

浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

- エンジンを止めると進路変更のコントロールが不可能になることを忘れないで下さい。従って、ウォータークラフトのスピードが充分落ち、停止位置寸前になってからエンジンを止めて下さい。いったんエンジンを止めると、非常事態の緊急回避ができなくなります。

ウォータークラフト “ジェットスキー”的乗り方

初めてウォータークラフトに乗ったときは、シートにまたがって座ります。ウォータークラフトの扱い方に慣れて下さい。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルレバーの操作が旋回にどう影響するか感触をつかんで下さい。

ウォータークラフトの船首が連続的に上下する状態（ボーボイジング）が起きたら、体重をさらに前方へ移動して下さい。

▲ 警告

ハンドルバーの真上にあごがくるような乗り方をしないで下さい。波にぶつかったとき、けがをすることがあります。

もし、燃料がきれてエンジンが止まってしまっても（その前に“LED”（赤色）警告灯、燃料シンボル、“FUEL”文字と一番下のセグメントが点滅する）、チョークノブを“ON”に回してはいけません。燃料ノブを“RES”の位置に回し、エンジンをもう一度始動します。

常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意し航走して下さい。

要点

- “RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
- 補給後はノブを必ず“ON”的位置にして下さい。

落水

操縦者がウォータークラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

▲ 警告

ウォータークラフトから落ちるとき、ハンドルバーにしがみつかないで下さい。ウォータークラフトにぶつかってけがをする恐れがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、しりから先に水面に落ちる事です。
- ウォータークラフトの後部から上がりますコードキーをストップボタンの下に差し込み、スタートボタンを押してを始動します。

転覆したウォータークラフトの起こし方

万一ウォータークラフトが転覆したときは、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。

直ちに次の手順で船体を起こして下さい。

! 警 告

このウォータークラフトは転覆しても自動復元しません。操縦者は適切なウォータークラフトの起こし方を知っているなければなりません。さもないと立ち往生することがあります。

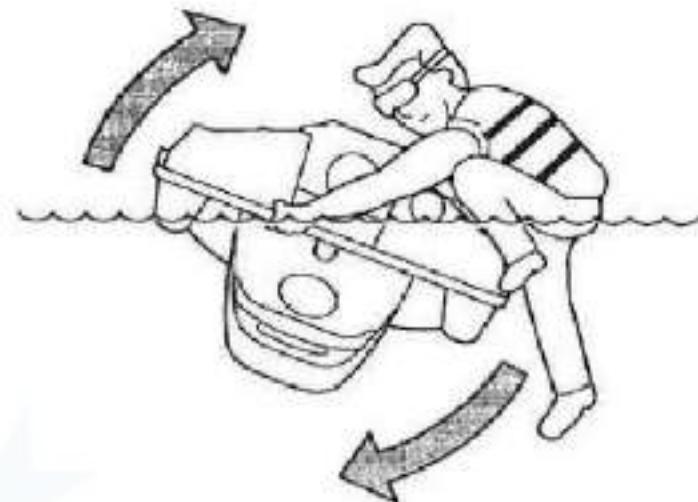
- エンジンが停止したか確認します。もし停止していないければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

注意

もし、ウォータークラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、キャブレタやエンジンに水が入る恐れがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。

もし、エンジンに水が入ったら「浸水後の処置」の項に述べられた方法に従って下さい。

- 転覆した船の後部の角に泳いで行きます。
- 片手で左舷を押し下げ、もう一方の手を斜めに伸ばしてデッキの後部をつかみ、船底に伸び上がるようになります。



- 次に片方の足で船体後部の角を押し下げ、体重をかけながら手前へ回転させます。
- 船体が起き上がってきましたら、必要なならばできるだけ遠くの船体をつかんで船を完全に引き起こします。

注意

転覆した船は常に左舷を下側にして右回しに起こして下さい。反対に回すと、マフラの水がエンジンの中に入り、エンジンの損傷を招く恐れがあります。

- ウォータークラフトは転覆して起こした後、エンジンルームに水が入っています。更に水がエンジンルームに入らないよう注意して、船尾から上がります。

要点

- 同乗者がおれば、他のウォータクラフトで海岸へ運べば、荷重を減らし、水が更に入ることを防止させます。
- コードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。
- ウォータクラフトをゆっくり運転して海岸に帰り、ビーチに引き揚げ、エンジンルームの水を抜きます。これはエンジン内に水が入って、エンジン内部が損傷することを防ぎます。

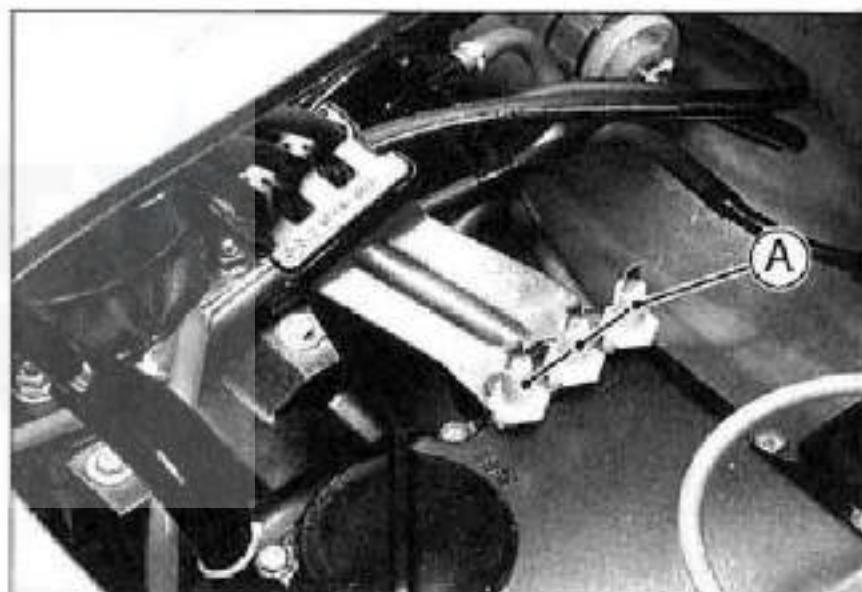
浸水後の処置

注意

エンジン内に水が入ったままで、ウォータクラフトを運転しないで下さい。エンジン内の水を完全に排出するまで、エンジンを始動しないで下さい。エンジン内部の部品が激しく、しかも急に損傷する恐れがあります。もし、エンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をして下さい。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトベアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もし、ウォータクラフトが水没したら、キャブレタの吸気口からエンジン内に水が入ることがあります。また、燃料タンクやオイルタンクにも水が入ることがあります。

1. ウォータークラフトを水から引き揚げ、シートを外します。
2. ドレンプラグを外し、エンジンルームの排水をします。
3. スパークプラグキャップをプラグから抜き、電装ボックスの上にあるスパークプラグキャップホルダにしっかりと差し込みます。そして、スパークプラグを取り外します。



A. スパークプラグキャップホルダー

4. イグニションスイッチを“ON”にしてからコードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押します。エンジン内の水がスパークプラグの穴から出てきます。スタートボタンは5秒以上押さないで下さい。もう一度スタートボタンを使用するときは、15秒以上間をあけて

下さい。エンジン内の水が完全に出たか確認します。

▲ 警 告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないで下さい。スパークプラグ穴から水とガソリンの混合物が勢いよく噴出し、目に入る恐れがあります。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗って下さい。そして、できるだけ早く医者の診察を受けて下さい。

5. プラグキャップをホルダから抜きます。
6. スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグとプラグキャップを取り付けます。

スパークプラグ締付トルク：2.5～3.0 kg·m

7. チョークノブを"ON"の位置に回し、エンジンを始動します。

注意

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

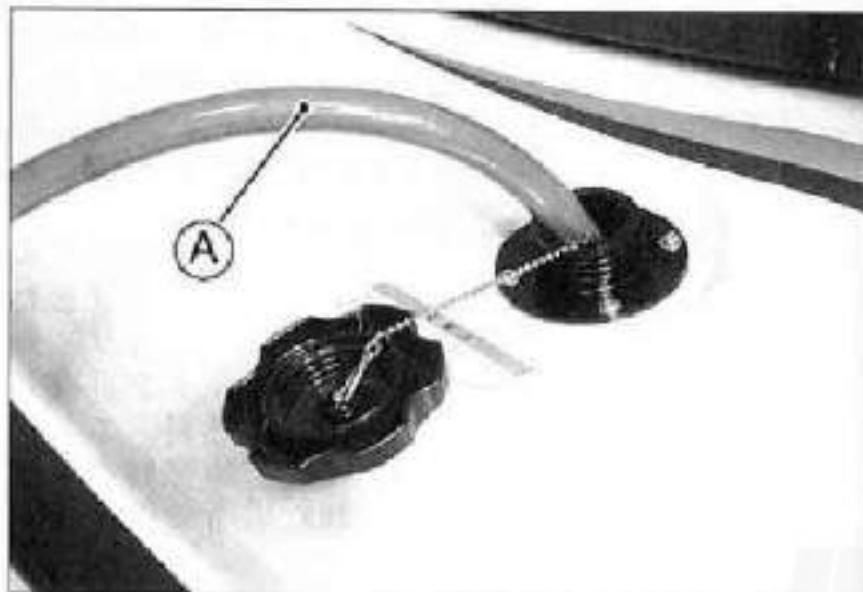
8. もし、エンジンが始動しないならば、スパークプラグを取り外し、水気がないか点検します。浸透性防錆剤をスプレーして清掃し、再度始動して下さい。何度もプラグに水が付着するならば、燃料系統内に水気があります。
9. 燃料タンク内に水があれば、それらが燃料注入口にいくよう船尾を少し持ち上げ、ポンプまたはサイフォンで全部抜きとります。燃料フィルタスクリーンを清掃し、燃料フィルタを点検します。（「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）新しい燃料を入れます。汚れた燃料は決められた場所で処理して下さい。

▲ 警 告

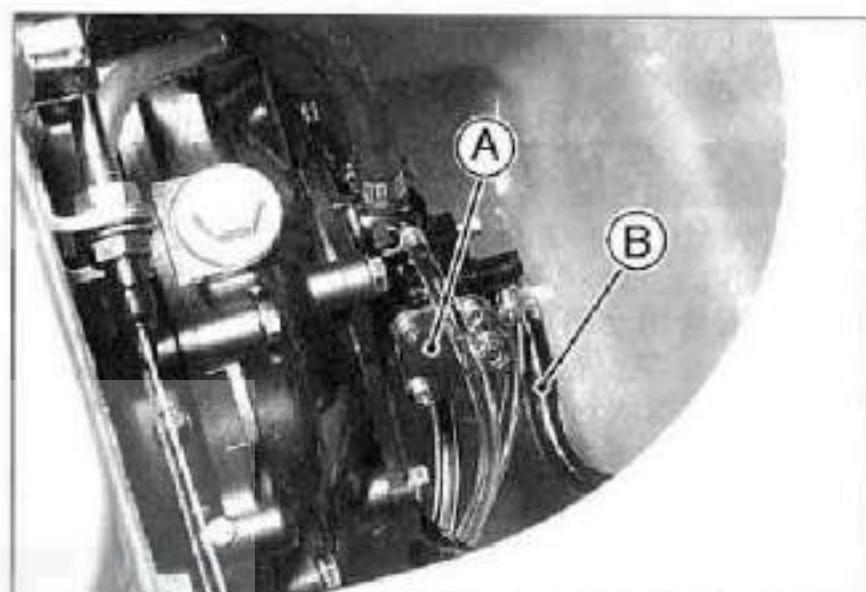
ガソリンは非常に引火性が強く、条件によつては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをトップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

注意

油脂類の廃液は法令で適切な処置を行う事が義務付けられていますので、カワサキのウォータークラフト"ジェットスキー"の販売店にご相談下さい。



A. サインフォンホース



A. オイルポンプ

B. インテークホース

要点

- エンジンから全く水がなくなるまで、この方法を数回繰り返す必要があるかも知れません。繰り返しトラブルが起きるときは、水を排出するために燃料ポンプを分解する必要があります。カワサキのウォータークラフト"ジェットスキー"の販売店に相談して下さい
- 10. オイルタンク内に水があれば、オイルを全部抜きとります。オイルポンプからインテークホースを外し、オイルを抜きます。

11. ホースを元通りオイルポンプに接続し、新しいカワサキジェットスキー純正オイルを入れます。汚れたオイルは決められた場所で処理して下さい。

注意

油脂類の廃液は法令で適切な処置を行う事が義務付けられていますので、カワサキのウォータークラフト"ジェットスキー"の販売店にご相談下さい。

12. オイルホース内の空気を抜きます。（「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）

13. シートを取り付け、ラッチをロックします。
14. ドレンプラグをスターイン（船尾）に取り付けます。
15. 最後にウォータークラフトを水上に戻し、10分間以上走らせて残っている水を完全に乾かし、異物（塩など）を排気口から排出します。

航走終了後の手入れ

ウォータークラフトは、長期間水中に置いておくようにはなっていません。定期的に水中から引き揚げ、船底をこすって、汚れを防ぐ塗料にて塗装して下さい。また、ジェットポンプは電気分解等によって金属の腐食を招いて行きます。

第1：排気系統の水抜き

- ウォータークラフトを水から引き揚げます。
- 余分な水を排気系統から出すためにエンジンを始動し、数秒間回転させます。排気口から水が出なくなるまで、繰り返しエンジンを吹かして下さい。

注意

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄して下さい。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）これは、塩の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

68 操縦方法

第2：エンジルームの清掃

- シートを取り外します。
- エンジルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- エンジルームを拭いて乾かし、シートを取り付けます。
- ウォータークラフトを保管する場合は、エンジルームの換気ができ、また、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に木片等をおいて、隙間をあけておきます。

要点

○ ウォータークラフトは、長期間水中に置いておくようになっていません。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属が電解腐食を招き、ウォータークラフトの寿命を短くします。

水中に放置された船は定期的に引き揚げ、船底をこすり、汚れを防ぐ塗料にて塗装しなければなりません。それによって、水中の金属は電解腐食を減らします。ウォータークラフトは使用する毎に水中から引き揚げると、より長く、よりきれいな外観を保ちます。

特殊な手入れ

インペラの清掃

時折、海草や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に取り除く必要があります。

- エンジンを止め、ウォータークラフトを水から引き揚げます。

⚠ 警告

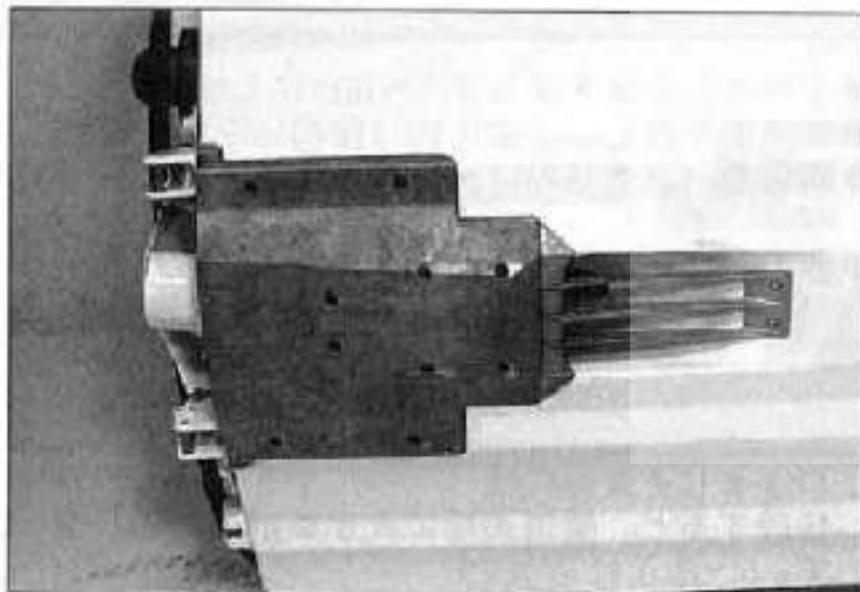
エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないで下さい。けがをする恐れがあります。ポンプを点検する前にエンジンを止め、キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いておいて下さい。

- コードキーを抜きます。
- タオルかバッドをウォータークラフトの横におきます。
- ウォータークラフトを左側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子及びカバーを取り外して下さい。

注意

ウォータークラフトは必ず左側に傾けて下さい。右側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。

- 吸水口、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンプ口、ステアリングノズルから海草やゴミを取り除きます。



注意

ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっているか確認して下さい。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトにネジロックを付けてしっかりと締めます。

ボルト締付トルク：0.8 kg·m

汚れたスパークプラグの清掃

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度、長時間のアイドリング運転やチョークを使用したまま航走した場合等です。また、燃料に水が混じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取り付けて下さい。汚れたスパークプラグはプラグクリーナで清掃して下さい。また、水の付いたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。

スパークプラグ締付トルク：2.5 ~ 3.0 kg·m

- スロットルレバーをほんの少し開いて、エンジンを始動します。

70 操縦方法

ウォータークラフトのえい航

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合には、ウォータークラフトをえい航してもらうことができます。6 mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ポートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8 km/h以上のスピードを出さないで下さい。

注意

この指示は重要ですから必ず守って下さい。そうしないとエンジンルームに浸水し、ウォータークラフトの一部が沈むことがあります。

ジャンプコードによる始動

バッテリが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができないときは、他のウォータークラフト等の正常なバッテリとジャンプコードを使って始動することができます。その場合、ウォータークラフトのバッテリと同じ電圧(12 V)のものを使用して下さい。

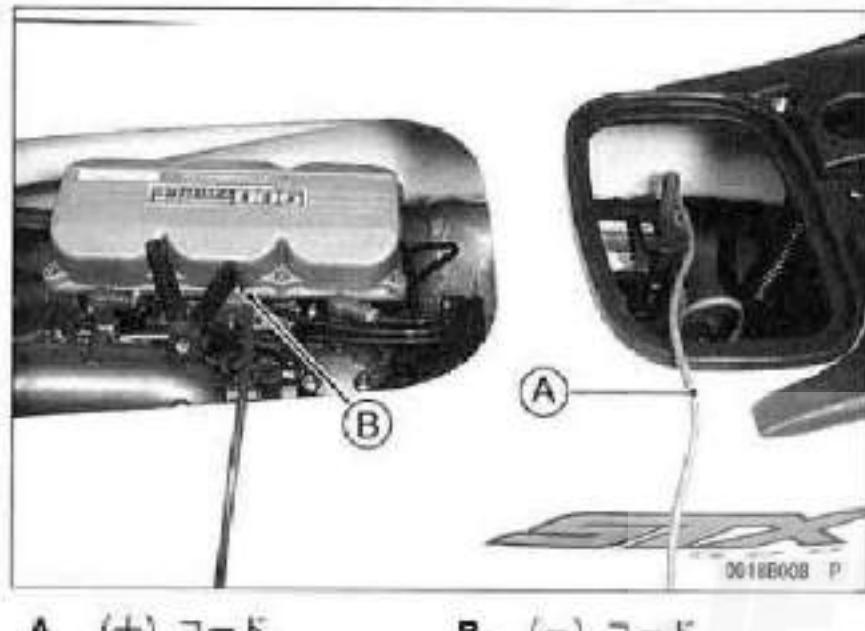
！警告

バッテリ液は条件によっては引火性および爆発性がある水素ガスを発生します。このガスは常時バッテリ内にあり、完全放電しても残っています。火気や火花をバッテリから遠ざけて下さい。また、バッテリを取り扱っているときは、保護メガネを着用して下さい。バッテリ液が皮膚や目、衣類に付着したときは、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者の診察を受けて下さい。

- イグニションスイッチを“OFF”にします。
- シートを外し、小物入れ（後部）を取ります。
- 両方のバッテリの（+）ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリの（-）ターミナルに接続します。

注意

バッテリを反対の極〔（+）から（-）〕へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



A. (+) コード

B. (-) コード

- もう一方の端をエグゾーストパイプのボルトに接続します。

⚠ 警 告

最後の接続を間違ってキャブレタやバッテリへ接続してはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をするときは、バッテリの上に体を乗り出さないで下さい。また、凍結したバッテリをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発する恐れがあります。

注意

5秒間以上連続してスタータを回さないで下さい。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、再度回して下さい。

- エンジンを始動させた後、上記の逆の順序でジャンプコードを取り外して下さい。

エンジンのオーバーヒート

このウォータークラフトには、エンジンがオーバーヒートしたときに“LED”（赤色）警告灯、水温シンボルと“HEAt”文字を点滅させ、エンジンの回転を落とす温度センサーが付いています。

- 警告灯、水温シンボルと“HEAt”文字が点滅してウォータークラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って、冷却系統が詰まっているか点検して下さい。

注意

エンジンがオーバーヒートすると、警告灯、水温シンボルと“HEAt”文字が点滅してエンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統を点検して下さい。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないで下さい。

運搬

ウォータークラフトをトレーラ等でけん引するときは、けん引に関する諸法規、規則を必ず守って下さい。

- ウォータークラフトの重量と形状にマッチしたトレーラを使用して下さい。不適格なトレーラで運搬することは安全面で問題があります。
- 燃料ノブを“OFF”的位置にします。
- トレーラの上で動かないようにしっかりと固定して下さい。

注意

シート後方のハンドレールや、その下のリボーディンググリップに船体固定用ベルト等をかけないで下さい。

船尾の速度検知用の水車に、ものがあたらぬように注意して下さい。

保管

冬の間や、長時間ウォータークラフトを使用しないときは、適切な保管が必要です。無くなったり部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑、また、一般的には次回ウォータークラフトを使用するとき、最良のコンディションにしておくための準備をしておきます。カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でしてもらうか、または次の事項を実施して下さい。

要点

- ウォータークラフトは、長期間水中に置いておくようになっていません。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属が電解腐食を招き、ウォータークラフトの寿命を短くします。水中に放置された船は定期的に引き揚げ、船底をこすり、汚れを防ぐ塗料にて塗装しなければなりません。それによって、水中の金属は電解腐食を減らします。ウォータークラフトは使用する毎に水中から引き揚げると、より長く、よりきれいな外観を保ちます。

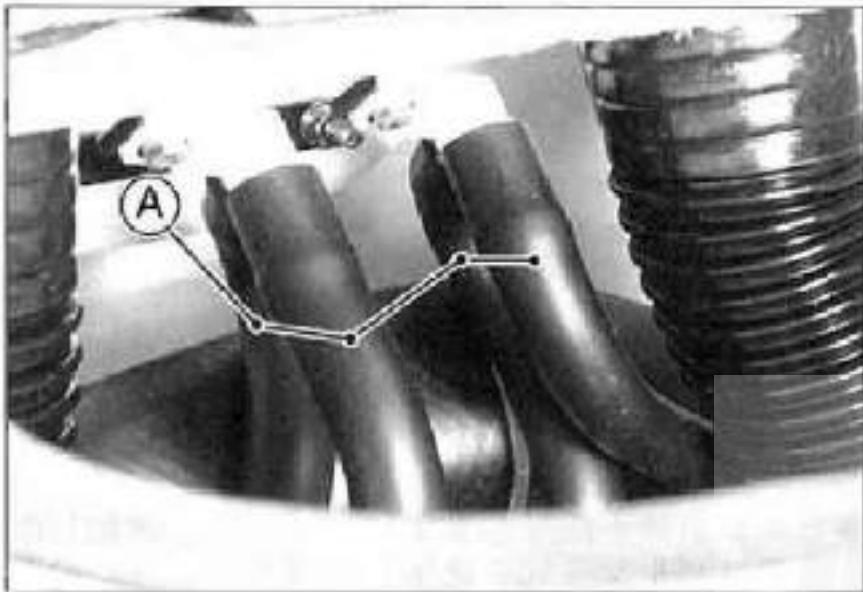
保管する前の作業

冷却系統

- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）

ビルジ系統

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）このとき、ホースをプラスチックのブリーザに再び接続する前に、両方のホースに圧縮空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出して下さい。



A. 両方のホースに空気を吹き込む。

燃料系統とエンジン

- エンジンルームを水洗いし、船尾のドレーンブレグを外して水を抜きます。エンジンルームに水が残っていれば拭き取ります。

⚠ 警 告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

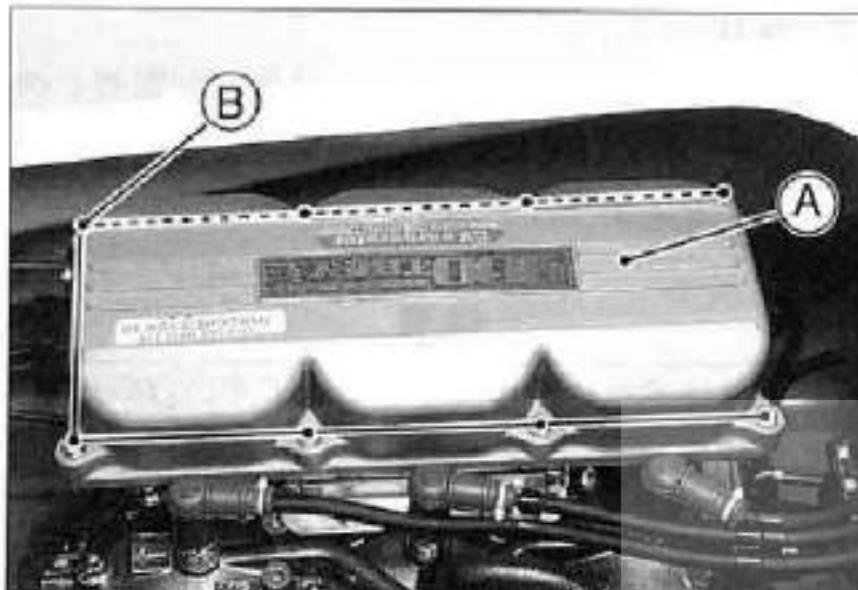
- 燃料タンクの底の燃料と水が燃料注入口の方にくよう船尾を少し上にあげ、それらをサイフォ

ンまたはポンプで、燃料タンクから完全に抜き取ります。

注意

油脂類の廃液は法令で適切な処置を行う事が義務づけられていますので、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店にご相談下さい。

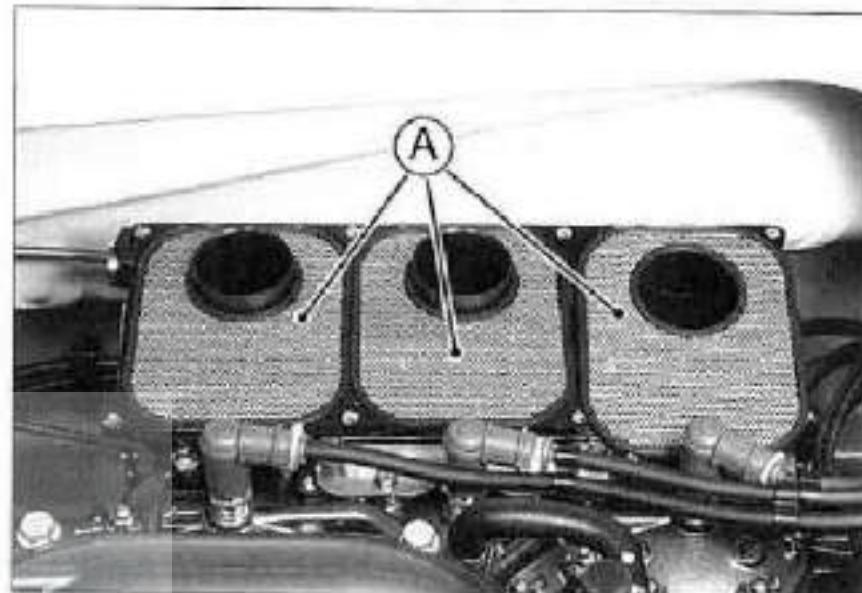
- 燃料フィルタスクリーンを清掃し、燃料フィルタを点検または交換します。（「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）
- 燃料タンク内の結露を防ぐために、燃料注入口キャップを緩めたままにしておいて下さい。
- キャブレタから空気吸入口カバーを取り外します。



A. 空気吸入口カバー

B. ボルト

- フレームアレスタを取り外して石ケン水で洗います。圧搾空気などを使ってよく乾かし、元の位置に取り付けます。取り付け位置の識別はありません。



A. フレームアレスタ

- イグニションスイッチを“ON”にします。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、キャブレタ内の燃料を使い切るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。
- エンジンが回っているとき、浸透性防錆剤をキャブレタ吸入口にスプレーします。

注意

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

76 保管

- カバーを取り付け、ボルトにネジロックを塗布してしっかりと締めます。

ボルト締付トルク：0.8 kg·m

- スパークプラグを取り外し、プラグキャップをプラグキャップホルダに差し込みます。
- 各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- スタータボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

⚠ 警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないで下さい。スパークプラグ穴から防錆剤が霧状になって勢いよく噴出することがあり、目に入る恐れがあります。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗って下さい。そして、できるだけ早く医者の診察を受けて下さい。

- スパークプラグに浸透性防錆剤をスプレーし、シリンダヘッドに取り付けます。

スパークプラグ締付トルク：2.5 ~ 3.0 kg·m

- コードキーをストップボタンから抜き、イグニションスイッチを“OFF”にします。
- プラグキャップを取り付けます。

バッテリ

- バッテリを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

注意

密封栓は絶対に取り外さないで下さい。バッテリが損傷します。

- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリを乾燥した涼しい場所に保管します。温度が氷点下になる場所にはおかないで下さい。また、保管中は大体月に1回補充電して下さい。

洗浄

- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かします。

注意

ウォータークラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用して下さい。強力な溶剤は化学作用で塗装表面を変色させることができます。

- 良質のワックスを船体の外面全体に塗ります。
- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレーします。

- 適当な換気が行われ、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に10mm位の木片等をおいて隙間をあけておきます。
- ウォータークラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

要点

- ウォータークラフトを外に保管すると、シート両側のデッキに水がたまります。その水は塗装のバブルやはくり、更にはデッキマットのはくりの原因になります。
もし、ウォータークラフトをトレーラに載せたまま、保管するならば、デッキの水が流出するよう船首を上げておいて下さい。

潤滑

- すべての推進潤滑方法を実施して下さい。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）

保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータークラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で行ってもらうか、または次の事項を実施して下さい。詳細については、「整備と調整」の章を参照して下さい。

- すべての推進潤滑方法を実施して下さい。（「潤滑」の項参照。）
- スロットル、チョーク、ステアリングおよびシフト機構が動かなかったり、途中でひっかかったりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置に戻らなければなりません。
- スパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。（「スパークプラグ」の項参照。）
- すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 保護パッドを敷いてウォータークラフトを左へ傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 必要なら良品と交換して下さい。カバーを取り付け、ボルトにネジロックを塗布してしっかりと固定します。

ボルト締付トルク：0.8 kg·m

78 保管

- ドレンプラグがしっかりと取り付けられているか点検します。
- パッテリのターミナルを清掃し、必要ならば補充電します。パッテリを取り付けて下さい。（「パッテリ」の項参照。）
- 燃料フィルタスクリーンや燃料フィルタを点検または交換します。（「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）
- 燃料タンクにガソリンを入れ、燃料注入口キャップをしっかりと締めます。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火氣がないか確かめて下さい。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、シートを取り外し、小物入れ(後部)を取り出して、エンジンルームを数分間換気して下さい。

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理して下さい。
- オイルフィルタを点検、清掃します。

- オイルの量を調べ、少なければ規定のオイルを補充します。

⚠ 警告

密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料、オイルおよび排気ガス漏れを点検して下さい。漏れがあれば必ず修理して下さい。

注意

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

- シートを取り付け、ラッチをロックします。

整備と調整

定期点検整備表

要点

- 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施して下さい。

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	100時間毎
すべてのホース、ホースクランプ、ナット、ボルト及びファスナを点検する。	●	●		
キャブレタ部のスロットルケーブル取付部及びチョークケーブル取付部を潤滑する。		●		
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。		●		
チョークケーブルとスロットルケーブル及びスロットルレバーのケーブル取付部を潤滑する。		●		
ステアリングケーブルジョイント（ステアリングシャフトの下部）、シフトケーブルのボールジョイントと、ステアリングノズル、リバースパケットのビボットを潤滑する。		●		
※ ハンドルバービボットを潤滑する。		●		
※ 燃料フィルタスクリーンを点検、清掃する。		●		
※ 燃料フィルタを点検、交換する。			●	
※ 燃料ベントチェックバルブを点検する。			●	
キャブレタを調整する。		●		

80 整備と調整

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	100時間毎
ビルジ系統及びフィルタを洗浄する。		●		
冷却系統を洗浄する（海上で操縦したときは使用後毎回）。		●		
フレームアレスタを点検及び清掃する。		●		
※ インペラのブレードの損傷を点検する。			●	
※ カップリングダンバを点検、交換する。			●	
※ キャブレタのスロットルシャフトのスプリングを点検する（もし必要ならばキャブレタを交換する）。			●	
※ ステアリングケーブル、シフトケーブルを点検する。			●	
バッテリを点検する。		●		

※これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取り扱いに熟練していないければ、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で実施してもらつて下さい（サービスマニュアル参照）。

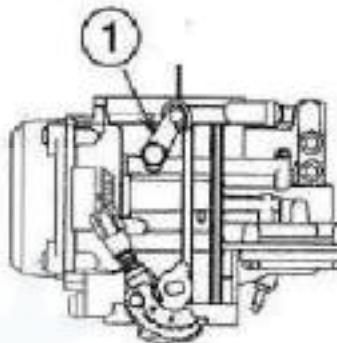
コントロールケーブルの調整

チョークケーブルの調整

- チョークケーブルの調整具合を点検します。
- チョークノブが“OFF”的位置のとき、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に開いていなければなりません。チョークのピボットアームが船の右側にいっぱい向いており、ケーブルがわずかに遊んでいるか点検します。
- チョークノブが“ON”的位置のとき、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に閉じていなければなりません。チョークのピボットアームが船の左側にいっぱい向いており、アームがそれ以上手で動かないことを点検します。

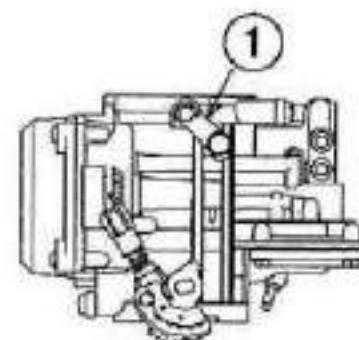
チョーク開

(チョークノブ“OFF”的位置)



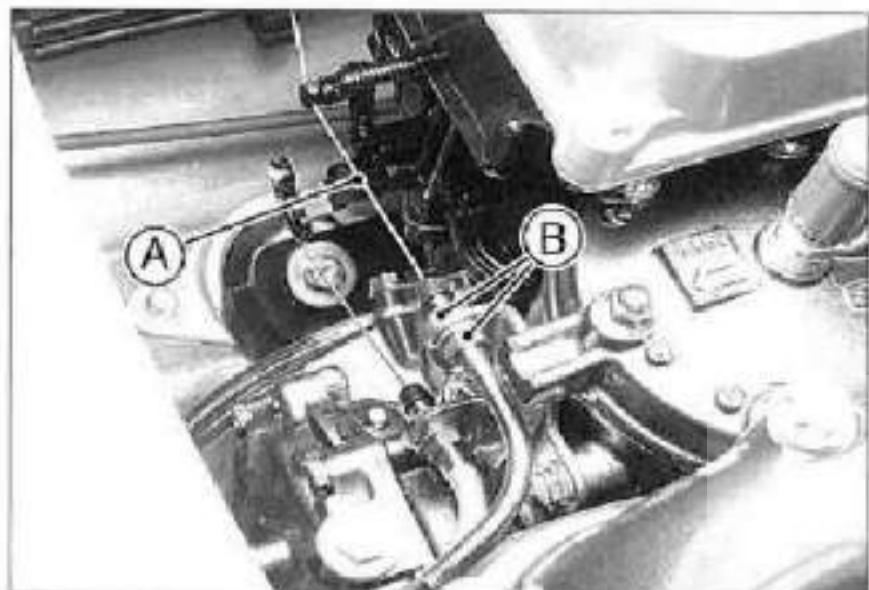
チョーク開

(チョークノブ“ON”的位置)



1. チョークピボットアーム

- ピボットアームが動くならばチョークケーブルを調整して下さい。
- ケーブルブラケットにあるロックナットを緩めます。
- チョークピボットアームを手で、船の左側いっぱいに向けます。ケーブルに遊びがなくなるまで、ケーブルブラケットのロックナットを回します。そして、ロックナットをきつく締め付けます。
- チョークノブを“OFF”的位置にします。
- チョークピボットアームが船の右側にいっぱい向いており、ケーブルがわずかに遊んでいるか点検します。



A. チョークケーブル

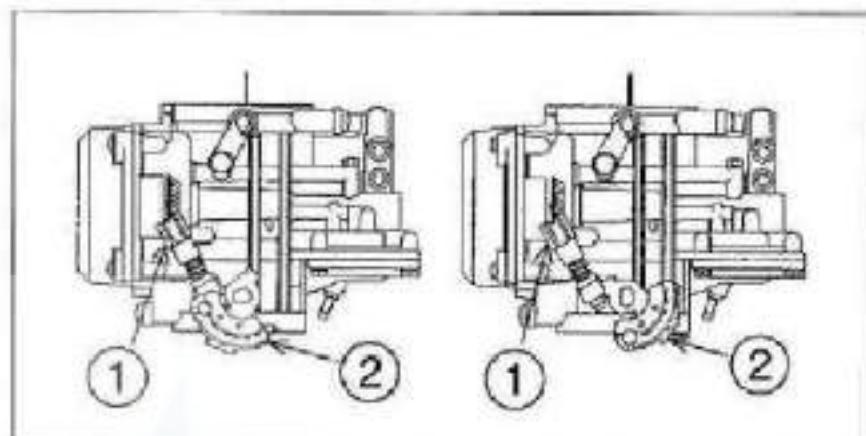
B. ロックナット

スロットルケーブルの調整

- スロットルケーブルの調整具合を点検します。
- スロットルレバーを放した状態では、スロットルピボットアームの下側のストップがアイドルアジャストスクリュに当たっており、スロットルケーブルはわずかに遊びがあります。
- スロットルレバーをいっぱい引いたとき、ピボットアームの上側のストップがキャブレタのストップに接しています。

スロットル開
(レバーを放した状態)

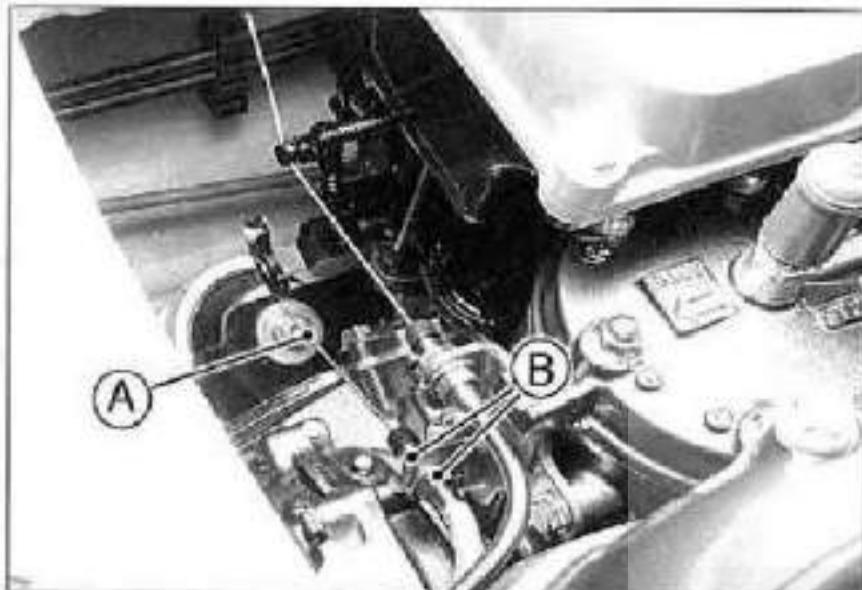
スロットル開
(レバーをいっぱい引いた状態)



1. アイドルアジャストスクリュ

2. スロットルピボットアーム

- 必要ならばスロットルケーブルを調整します。
- ケーブルプラケットのロックナットを緩めます。ピボットアームの下側のストップがアイドルアジャストスクリュに当たるようになります。次にロックナットを回して、ケーブルに少しの遊びを作ります。
- ロックナットをしっかりと締めて下さい。



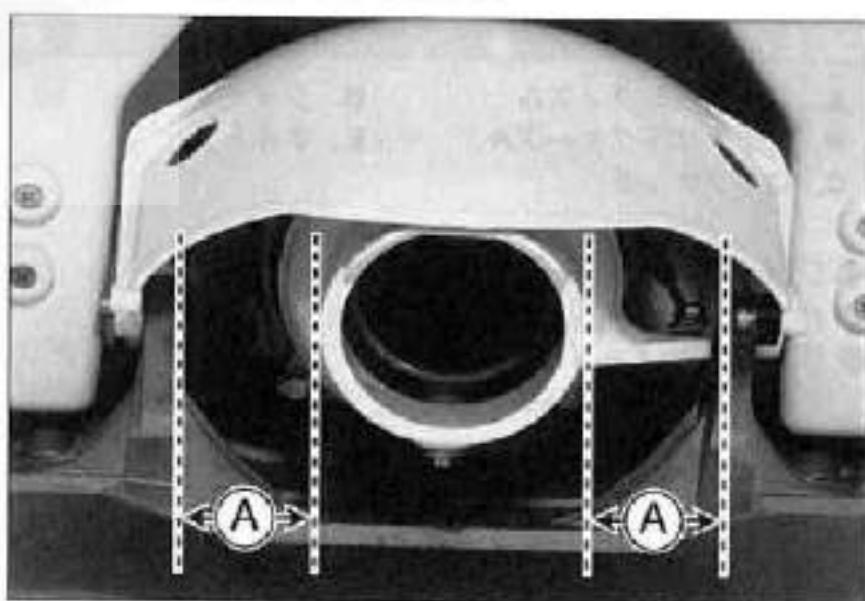
A. スロットルケーブル B. ロックナット

ステアリングケーブルの調整

- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。



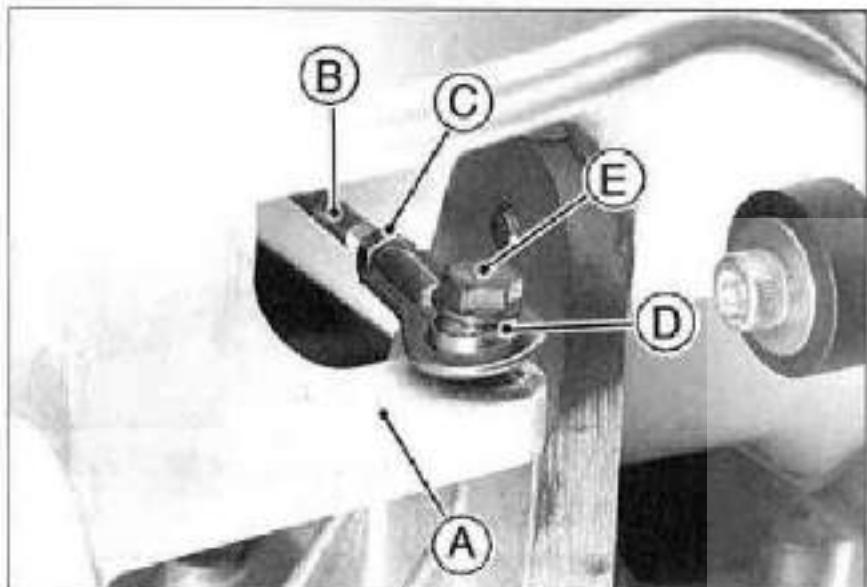
- ステアリングノズルがノズル室の両側から同じ距離にあるか点検します。



A. 等距離

84 整備と調整

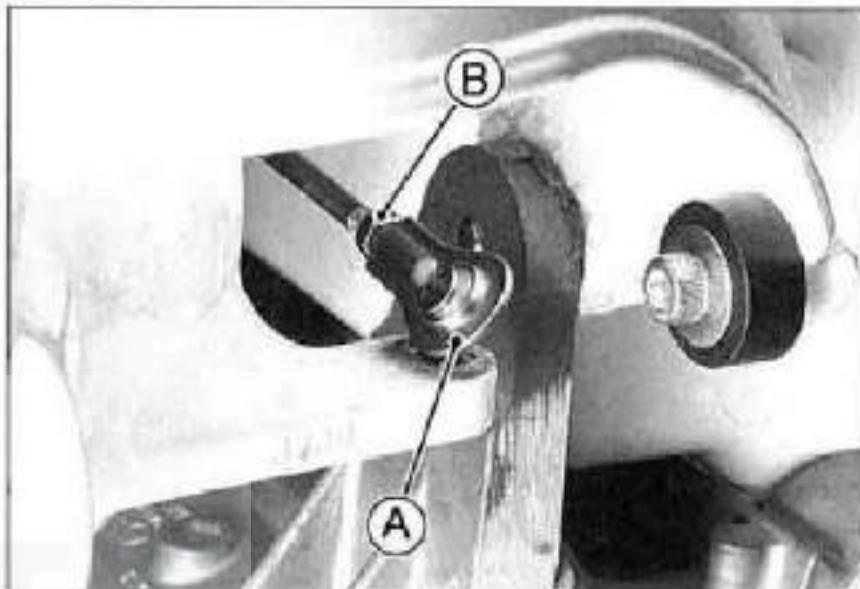
- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズル右側のステアリングリンクのロックナットを緩めます。



A. ステアリングノズル
B. ステアリングケーブル
C. ロックナット

D. ジョイント
E. ボルト

- ジョイント部のボルトを外します。
- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。
- リンクのジョイントを回して、ステアリングノズルがノズル室の中央に位置するように調整します。



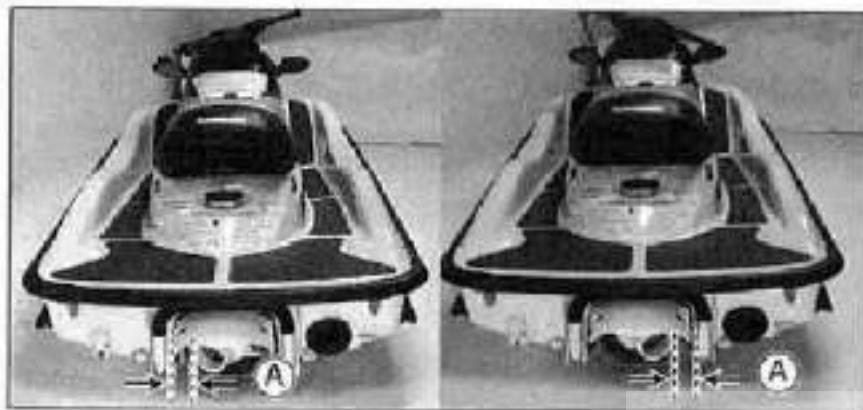
A. ジョイント

B. ロックナット

- ノズルにジョイントを接続し、もう一度ステアリングケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。また、ボルトにネジロックを塗布し、ジョイントをノズルに取り付けます。

ボルト締付トルク: 1.0 kg·m

- もう一つの点検方法として、ハンドルを左右にいっぽい切ります。ステアリングノズルの左右の端からノズル室までの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離

ステアリングケーブルの点検

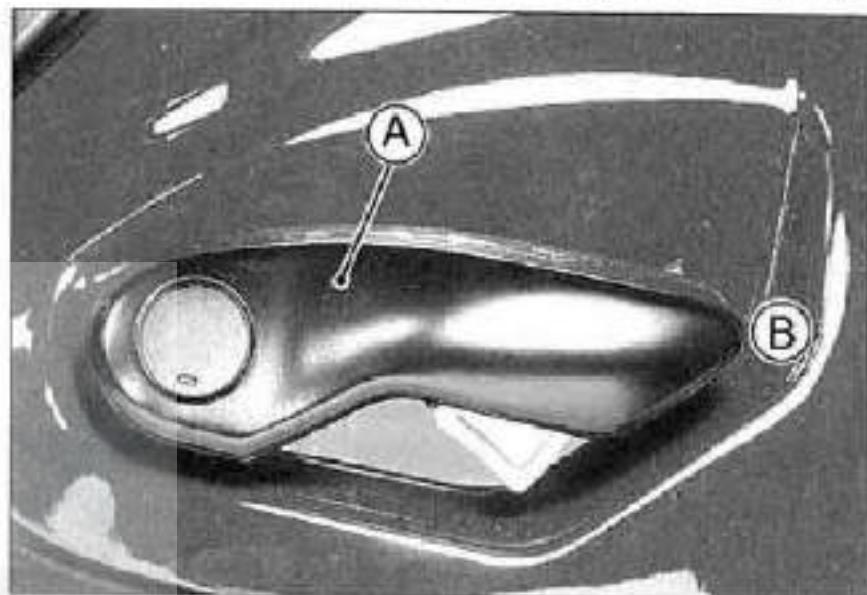
ステアリングの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、カワサキのウォーターカラフト“ジェットスキー”的販売店で点検を受けて下さい。

要点

- ステアリングケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

シフトケーブルの調整

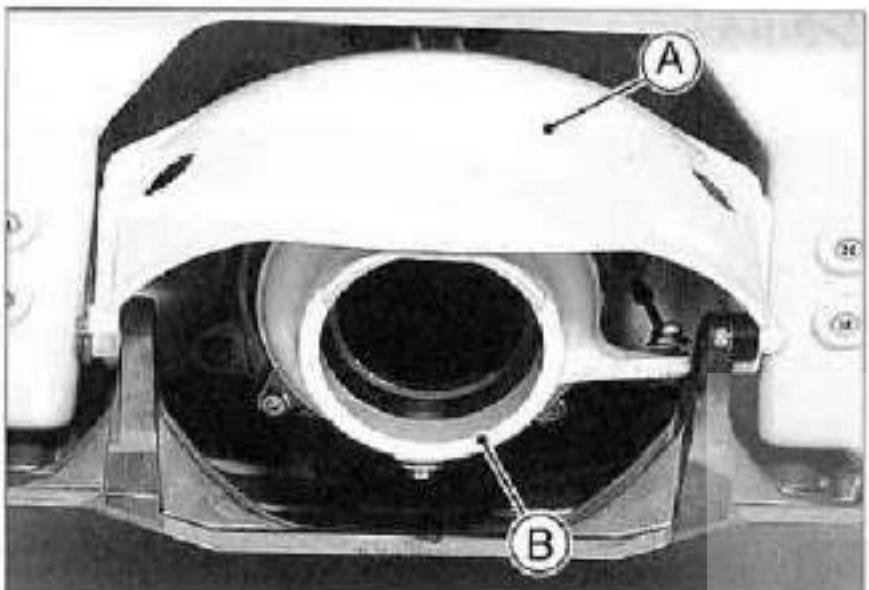
- シフトレバーを“F”（前進）の位置に入れます。



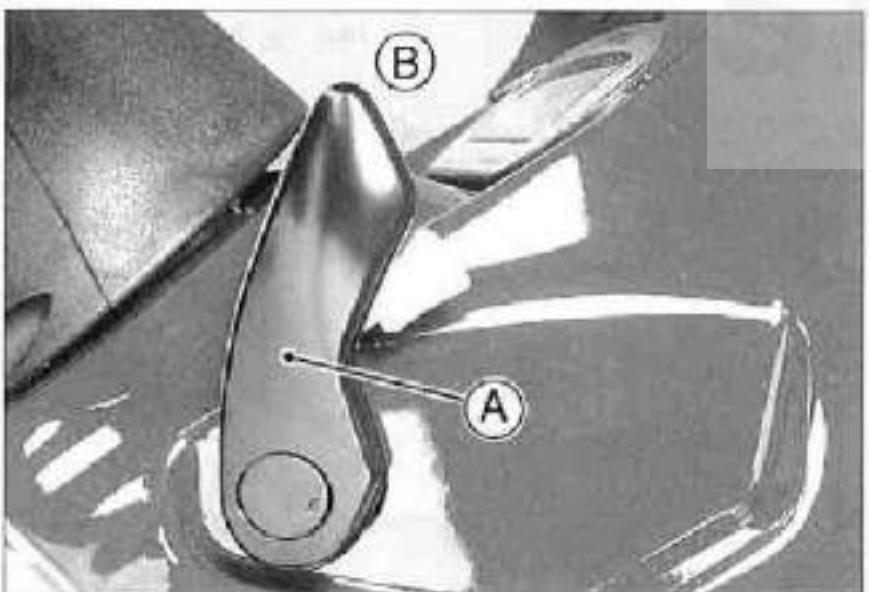
A. シフトレバー

B. "F" (前進)

- このとき、スター（船尾）にあるリバースバケットに少し遊びがあり、手で押し下げてもバケットの下端はステアリングノズルの上端より上に位置します。

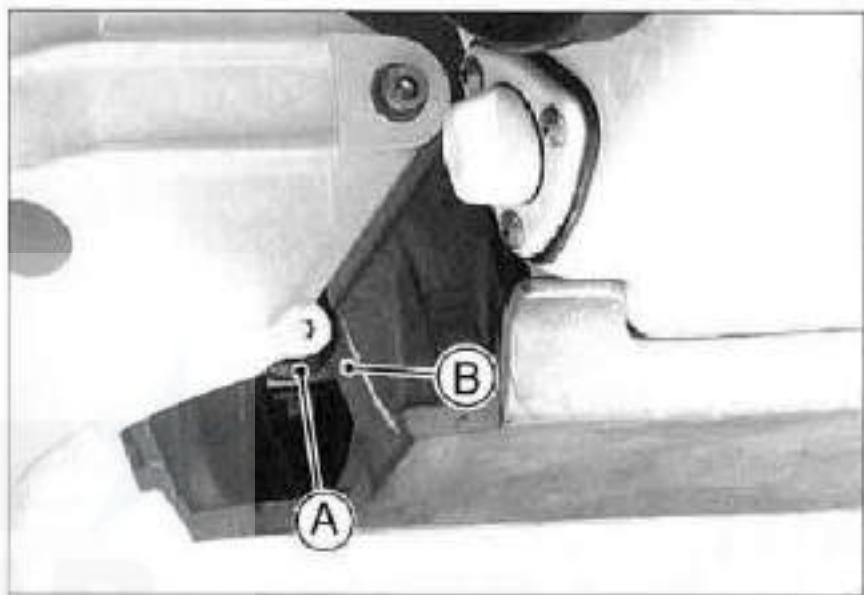


- A. リバースバケット B. ステアリングノズル
● シフトレバーを“R”（後進）の位置に入れます。



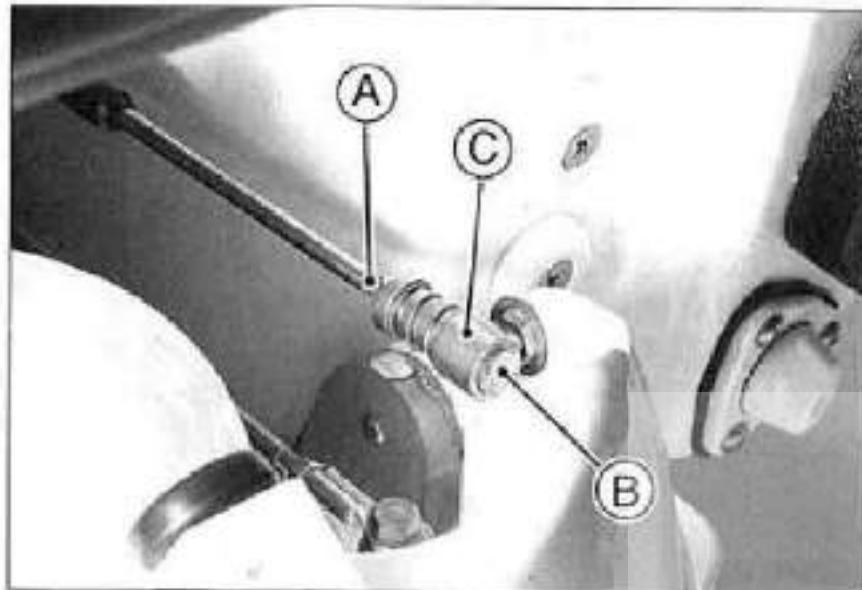
A. シフトレバー B. “R”（後進）

- このとき、リバースバケットの下端右側のダンパが、ポンプカバーの底面に当たっています。



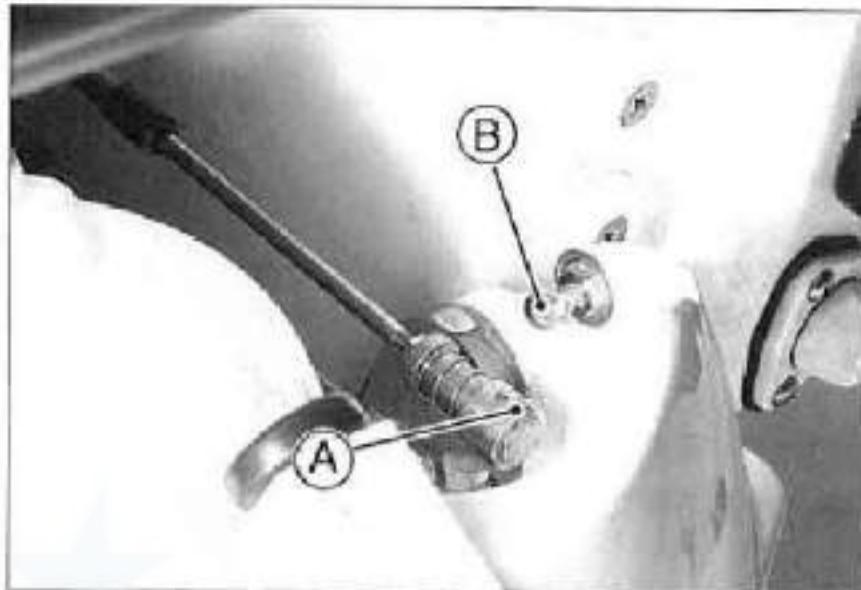
A. ダンパー B. ポンプカバー

- もしどちらかでも異なっていれば、シフトケーブルを調整します。
- シフトレバーを“R”（後進）の位置に入れます。
- シフトリンクのボールジョイントのロックナットを緩めます。



A. ロックナット
B. ボールジョイント
C. スリーブ

- アウタースリーブを少しづらして、ボールからボールジョイントを外します。
- リンクのボールジョイントを回して、シフトレバーが“F”（前進）の位置にあるとき、バケットに2～3mmの遊びがあり、手で押し下げてもバケットの下端がノズルの上端より上にあるように調整します。



A. ボールジョイントの穴
B. ボール

- ボールにボールジョイントを接続し、もう一度シフトケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。

シフトケーブルの点検

シフトケーブルの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”的販売店で点検を受けて下さい。

要点

- シフトケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

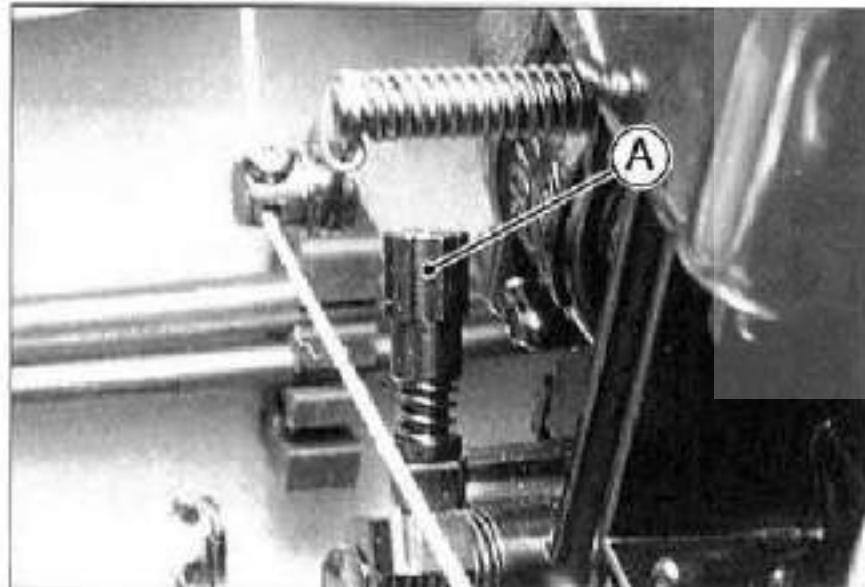
燃料、エンジンオイル系統

キャブレタの調整

アイドリングスピード:

正常なアイドリングスピードとは、最も低い、かつ安定したスピードを言います。

- アイドリングアジャストスクリュを右へ回すとアイドリングスピードは上がり、左へ回すと下がります。



A. アイドリングアジャストスクリュ

アイドリングスピード

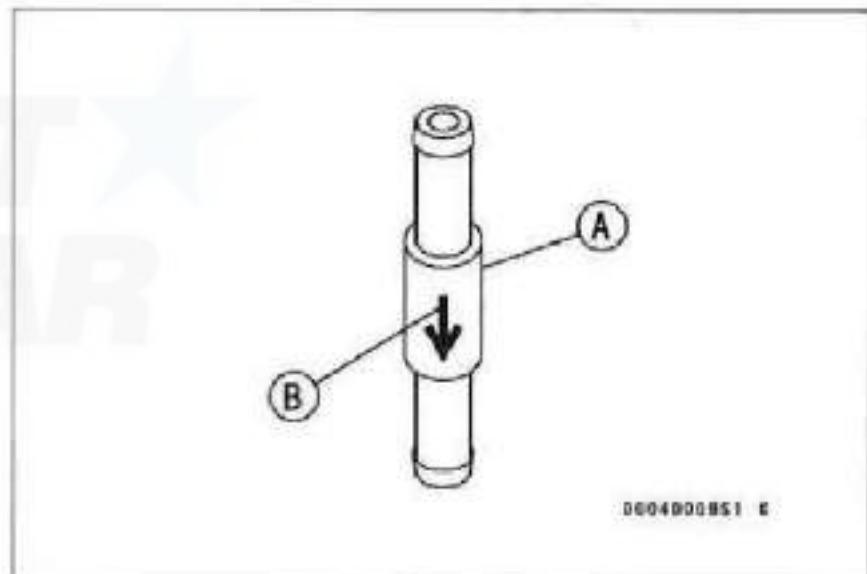
水上・・・約1,250 ± 100 rpm

陸上・・・約1,800 ± 100 rpm

燃料ベントチェックバルブ

燃料タンクにはベントホースが設けられています。ベントホースの中間にチェックバルブが取り付けられ、ウォータークラフトが転覆したときの燃料流出を少なくし、燃料タンクへの空気の流れを許しています。

「定期点検整備表」の規定に従って、チェックバルブの検査をカワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で受けて下さい。



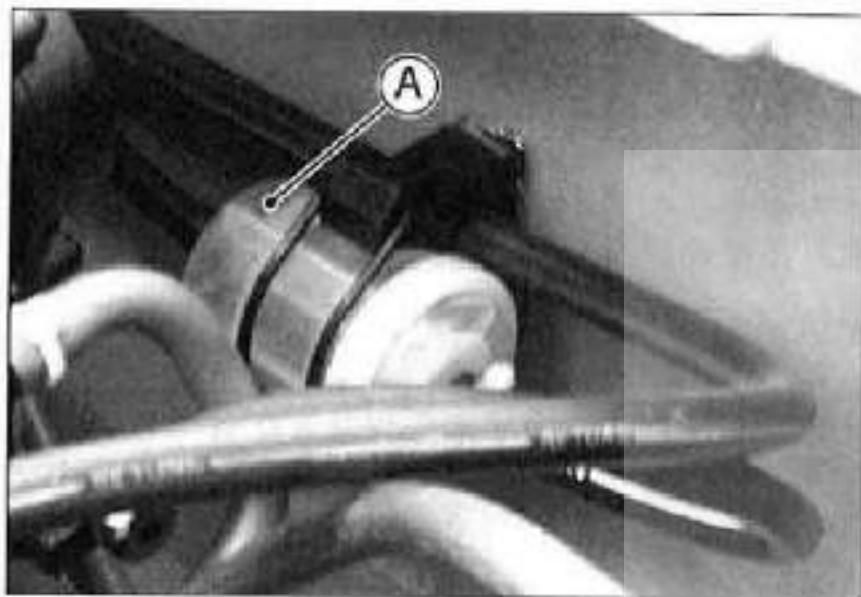
A. チェックバルブ

B. 流れ方向

燃料フィルタスクリーン、燃料フィルタ

ウォータークラフトには、キャブレタにゴミや異物が入るのを防ぐため、燃料アウトレットアッシャに燃料フィルタスクリーンが、また、燃料ホースの中間に燃料フィルタが付いています。

「定期点検整備表」の規定に従って、あるいは燃料フィルタにゴミや水が見えたときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”的販売店でフィルタスクリーンやフィルタを検査、清掃、または交換してもらって下さい。



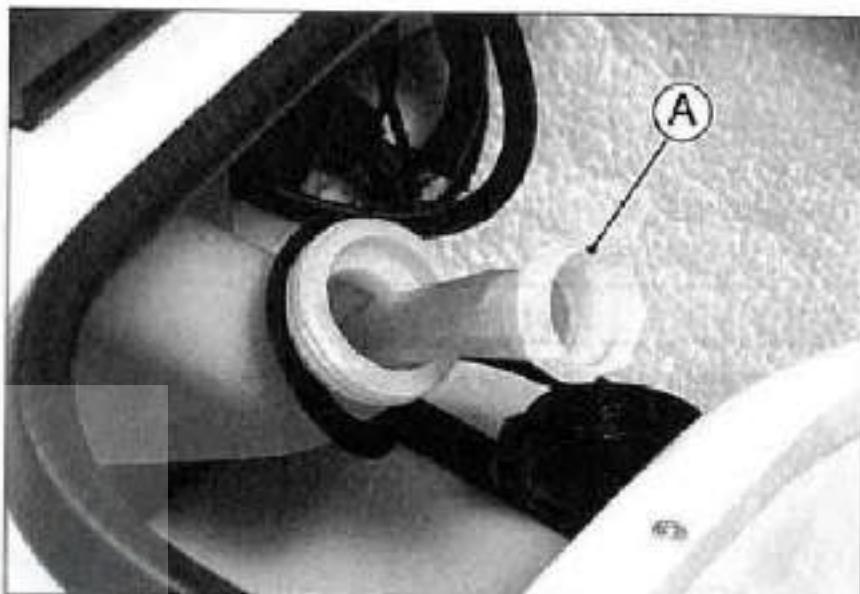
A. 燃料フィルタ

オイルフィルタ

オイルタンクの注入口に、オイルフィルタが付いています。オイルを注入するたびに、フィルタにゴミなどがたまっているか点検して下さい。もしもたまっている場合は、フィルタを清掃します。

オイルフィルタの清掃：

- オイル注入口からオイルフィルタを取り出します。



A. オイルフィルタ

- オイルフィルタを洗浄油で洗い、詰まった汚れはブラシで落として下さい。

▲警告

フィルタの清掃は、通気性の良い、火気のない場所で行って下さい。
ガソリンとか引火性の強い洗浄油は、フィルタの洗浄には使用しないで下さい。

- オイルフィルタを元通りにオイルタンクの注入口にはめ込みます。

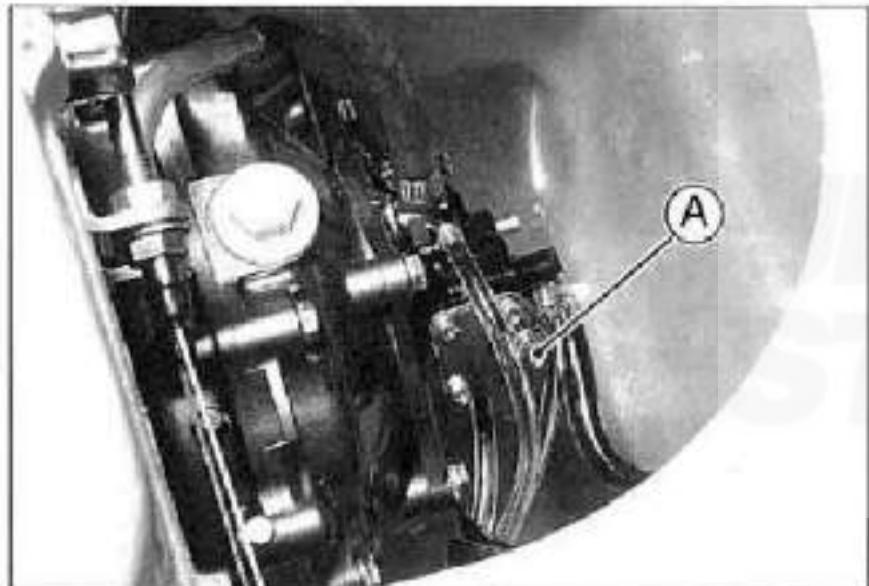
オイルポンプの空気抜き

オイルポンプに接続しているホースのうちどれでも外したときは、ホースの内部に空気が入り、オイルの流れを妨げることがあります。

90 整備と調整

- オイルタンクに十分オイルがあり、オイルがスムーズに流れる状態にあることを確認します。
- オイルポンプの下に布を敷きます。
- オイルポンプについている空気抜きスクリュを2回転緩め、オイルが流れ出たらスクリュをしっかりと締めます。

空気抜きスクリュ締付トルク：0.5 kg·m



A. 空気抜きスクリュ

- オイルホース内部に気泡が残っていないか、オイルタンクからオイルポンプまで点検します。

注意

オイル系統に空気が入っていると、オイルの流れを妨げ、その結果エンジンの損傷の原因になります。もし、気泡が残るようであれば、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で、オイル系統の空気抜きをしてもらって下さい。

- エグゾーストパイプ後端の冷却ホース取付部から水を送って、エンジンを十分冷却します。（「冷却系統の洗浄」の項参照。）

注意

水を流す前に、必ずエンジンをかけておいて下さい。また、エンジンを止める前に水を止めて下さい。
冷却水なしで、続けて15秒間以上エンジンを運転しないで下さい。過熱からエンジンと排気系統に損傷をひき起こすもとになります。

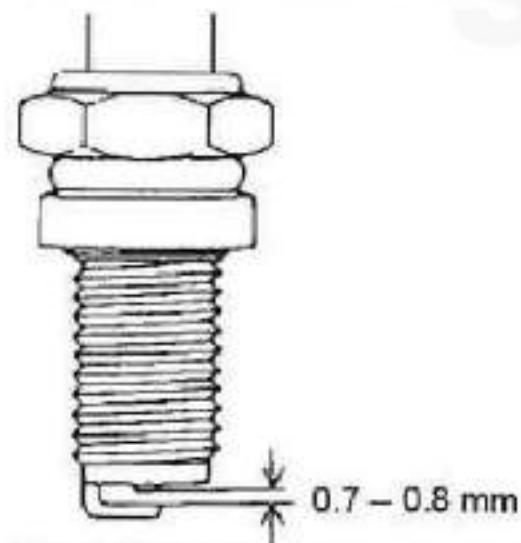
- エンジンを始動し、アイドリング状態でオイルが透明なアウトレットホースを通っているか点検します。
- アウトレットホースの中の気泡がなくなるまで、エンジンを回しておきます。

スパークプラグ

「定期点検整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK BR9ESで、ギャップを0.7～0.8 mmに調整して使用して下さい。

ウォータークラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンダヘッドの温度は比較的安定しています。従って、エンジンの調子がよく、調整も適切で、オイルポンプが正常に作動していれば、熱値の異なるスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱値のスパークプラグを使用すると、エンジンの広範な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用して下さい。



スパークプラグの検査及び交換：

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を検査します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁碍子が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

注意

過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正して下さい。

絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物があるときは、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。キャブレタが正しく調整されているか点検して下さい。黒い堆積物が湿って油氣を帶びているときは、オイルのタイプが不適当か、オイルポンプのオイル吐出量が過度であることが考えられます。「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

堆積物をかき落とすか、プラグクリーナを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗浄油で清掃します。ギャップが広がっていれば、0.7～0.8 mmに調整します。電極が腐食または焼損していれば、プラグを交換します。絶縁碍子のひび

92 整備と調整

割れ、またはネジ部の損傷等目に見える損傷があるときは、いつでもプラグを交換して下さい。

スパークプラグ締付トルク：2.5～3.0 kg·m

バッテリ

このウォータークラフトはMF（密閉型）バッテリを使用しています。従って、バッテリ液の点検や補充の必要はありません。新品のバッテリにバッテリ液がいったん入れられたら、密封栓を外さないで下さい。また、このウォータークラフトは、MFバッテリのみ使用するように設計されていますので、通常のバッテリと交換しないで下さい。

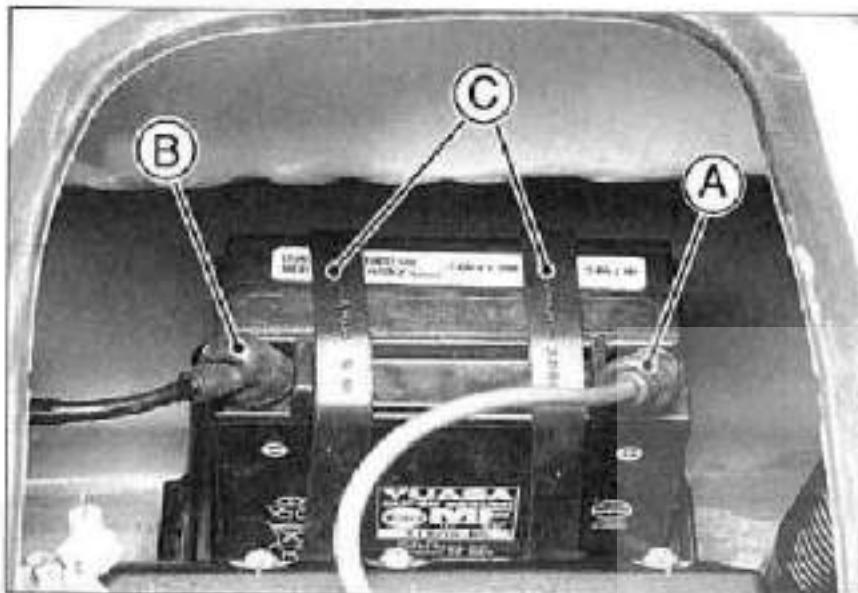
注意

密封栓は絶対に外さないで下さい。バッテリが損傷します。
通常のバッテリを使用しないで下さい。電気系統が正しく機能しません。

要点

- MFバッテリを補充電するときは、バッテリのラベルの指示に必ず従って下さい。

バッテリの取り外し：



A. 赤リード線
B. 黒リード線（アース）

C. バンド

- 最初にバッテリから黒色のリード線（アース）を外します。
- 次に赤色のリード線を外します。
- バッテリを固定しているバンドを2本とも外します。
- バッテリを取り出します。
- ターミナル部に汚れや腐食があるときは、ぬるま湯を注いで拭いて下さい。
- 腐食が著しい場合は、ターミナル部を取り外し、ワイヤブラシ、サンドペーパーで磨きます。

- 清掃、乾燥後は、ターミナルに耐水グリースを薄く塗っておきます。

バッテリの取り付け：

- バッテリを取り外したときと逆の順序で取り付けます。
- バッテリを接続した後、ターミナルに耐水グリースを塗ります。

警告

バッテリリード線の取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡する恐れがあります。

バッテリターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせて下さい。

注意

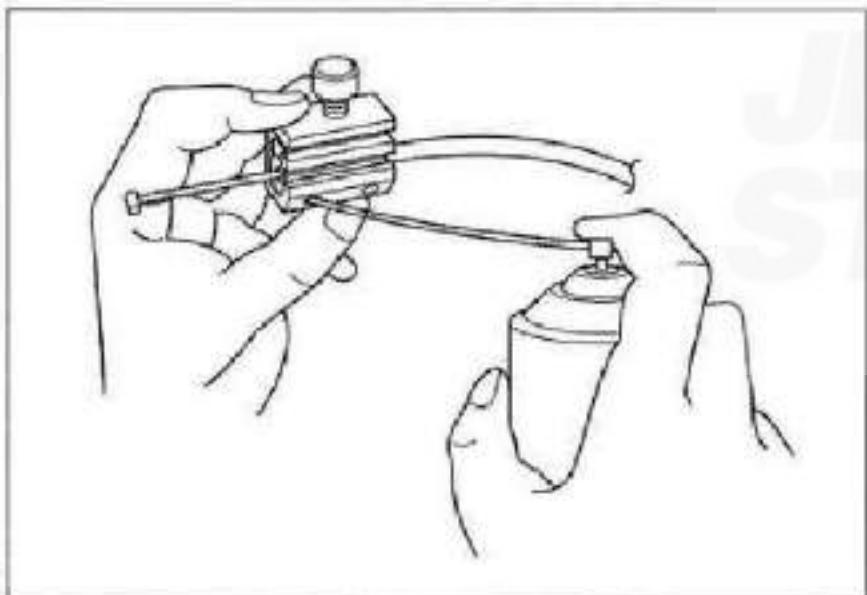
バッテリの（+）と（-）を逆に接続しないで下さい。レギュレータや整流器が損傷します。

潤滑

すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータークラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑頻度については、「定期点検整備表」及び「乗る前の点検項目」を参照して下さい。

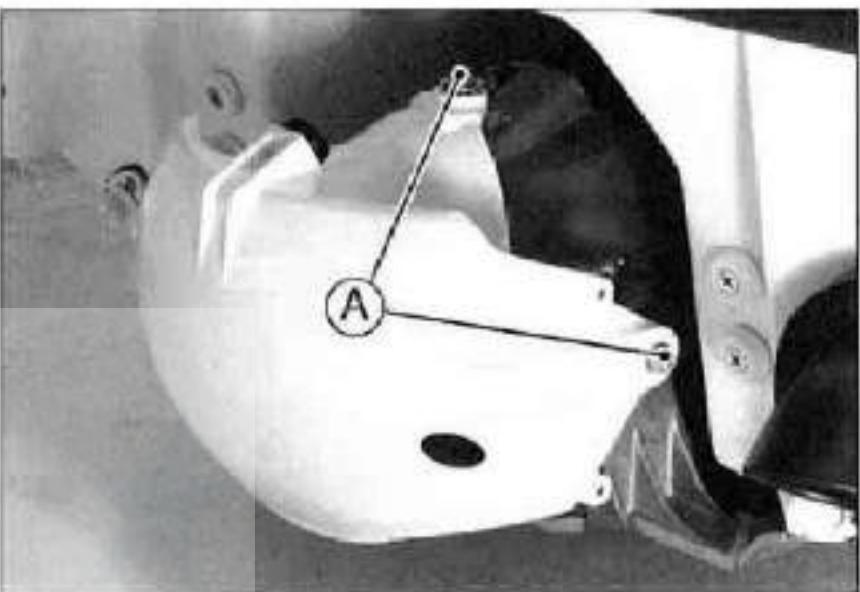
- 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレーします。

チョークケーブルおよびスロットルケーブル



ケーブルルーバを使ってケーブルの潤滑をする

ステアリングノズル、リバースバケットのピボット



A. ピボット

- 下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。
シフトリンクのボールジョイント



A.ボールジョイント

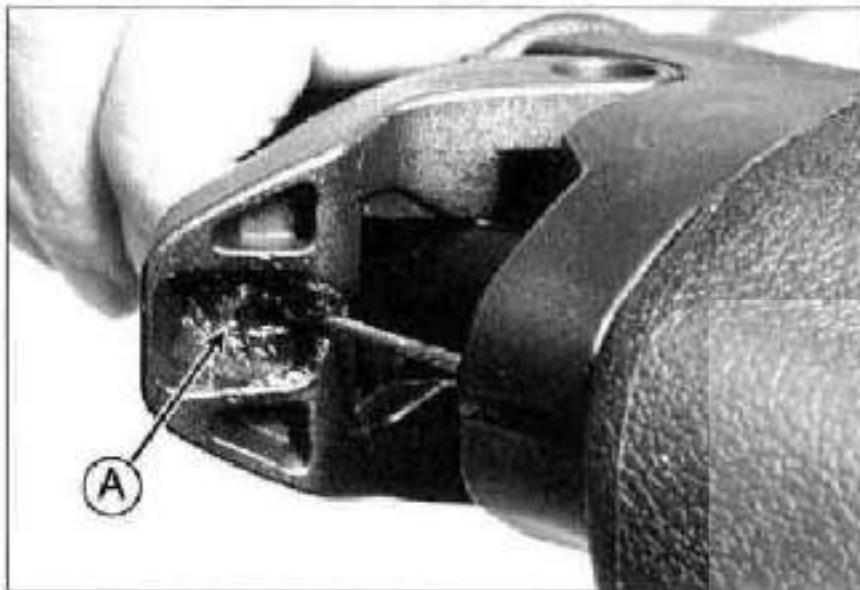
ステアリングケーブルジョイント（ステアリングシャフトの下部）



A.ステアリングボールジョイント

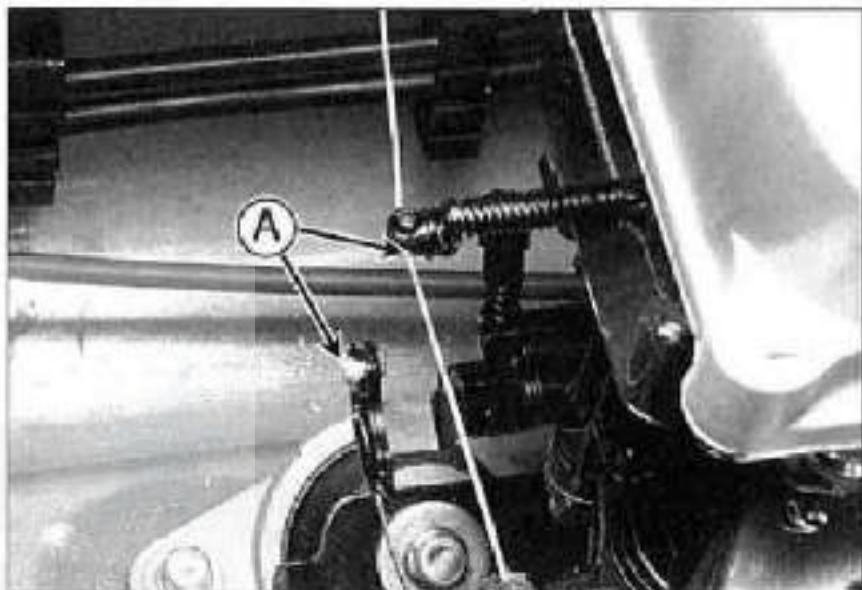
96 整備と調整

スロットルレバーのケーブル取り付け部



A. グリースを塗布

キャブレタのスロットルケーブル取り付け部および
チョークケーブル取り付け部



A. グリースを塗布

注意

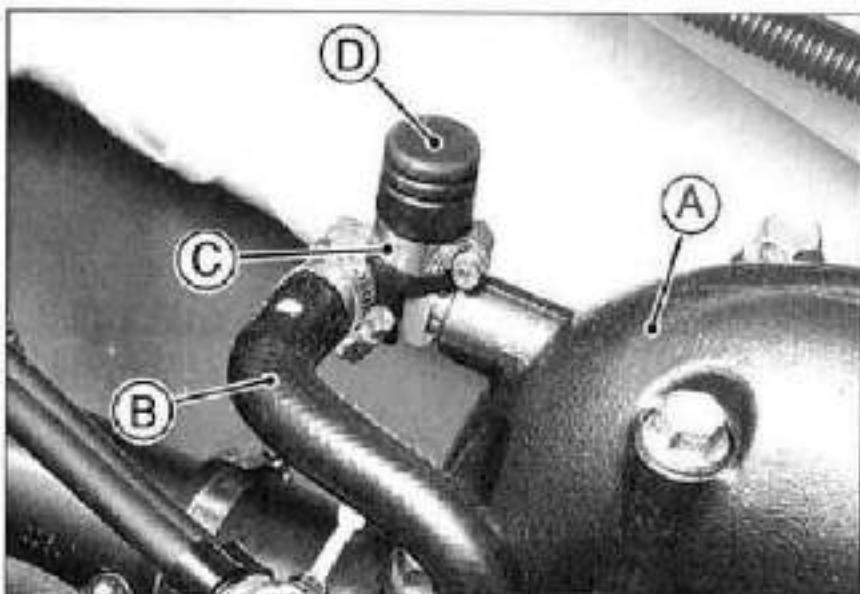
ハンドルバーピボットの分解と潤滑はカワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”的販売店で行ってもらって下さい。

冷却系統の洗浄

冷却系統に砂や塩分が堆積するのを防ぐため、ときどき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期点検整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水が減ったときはすぐに行って下さい。

また、この方法は、陸上の整備でエンジンに冷却水を送る必要のあるとき（例えばオイルポンプの空気抜き）にも使われます。

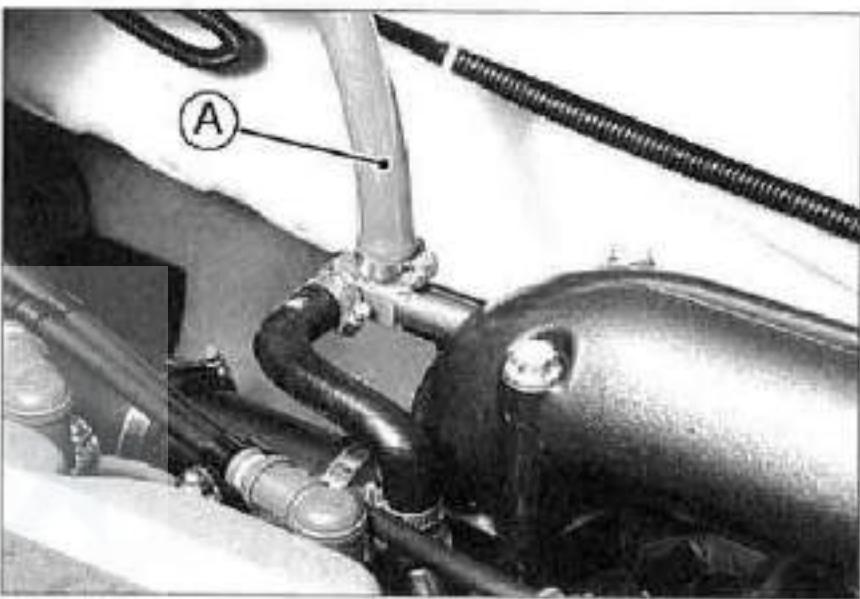
- シリンダヘッドとエグゾーストパイプをつないでいる冷却ホースのエグゾーストパイプ側の取り付け部に、ゴムのキャップがあります。



A. エグゾーストパイプ
B. 冷却ホース

C. クランプ
D. キャップ

- クランプを緩めてキャップを外し、そこに水道のホースを接続します。



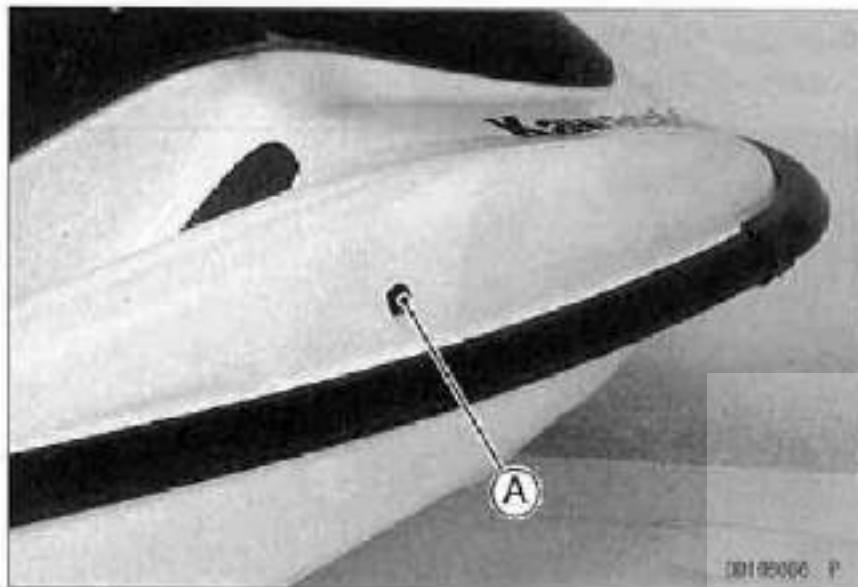
A. 水道ホース

- 水道の蛇口を開ける前に、エンジンをかけ、アイドリングさせます。

注意

水を流す前に、必ずエンジンをかけておいて下さい。先に水を流すと、エグゾーストパイプを通ってエンジン内に水が逆流して、内部を損傷する恐れがあります。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船体の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節して下さい。



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回吹かせて排気系統から水を排出します。

注意

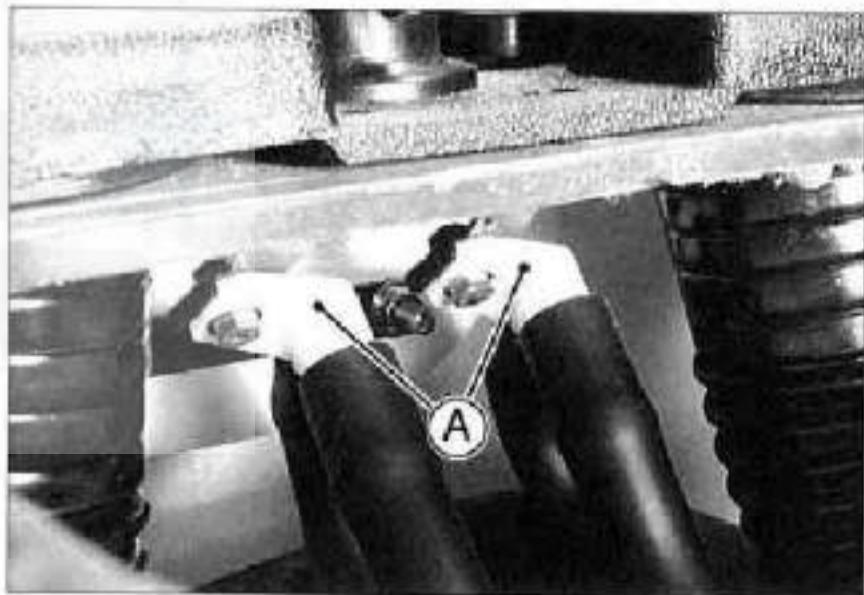
冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないで下さい。過熱からエンジンと排気系統に重大な損傷を引き起こすもとになります。

- エンジンを止め、ホースを外し、元通りにキャップを取り付けてしっかりとクランプを締めます。

ビルジ系統の洗浄

詰まりを防ぐために、ビルジ系統を「定期点検整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われるときはすぐに洗浄して下さい。

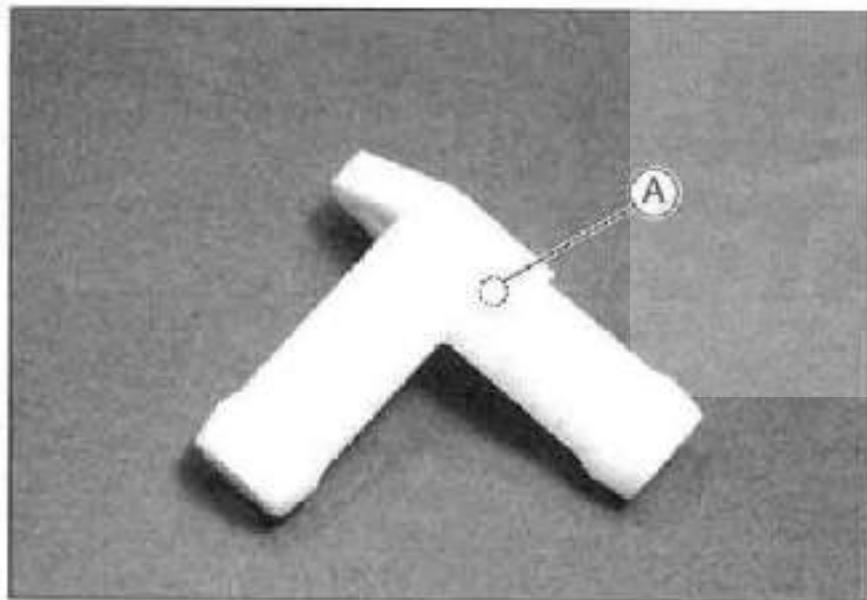
- それぞれのプラスチックのブリーザから両方のビルジホースを外して下さい。ブリーザはエンジンルームの左後方上側にあります。



A. ブリーザ

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんたまらないようにします。スタン（船尾）のドレンプラグを外してエンジンルームの水を出します。

- 反対側のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。4本のホース全てについて洗浄します。
- プラスチックのブリーザにそれぞれのホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな穴が詰まっていないか確かめて下さい。もし、穴が詰まっているれば、エンジンが停止したときやアイドリング状態のとき、ホースを通って水がどんどんエンジンルームに入ってくることがあります。ブリーザを外す必要があるかも知れません。



A. ブリーザの穴

- すべてのビルジホースをもと通りに接続します。

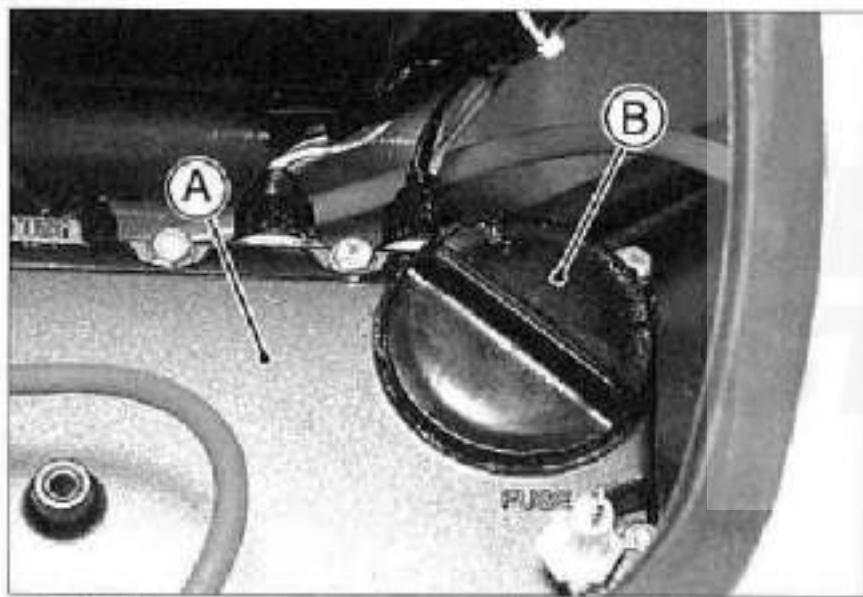
要点

- ウォータークラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧搾空気を吹き込んで下さい。（「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。）

ヒューズ

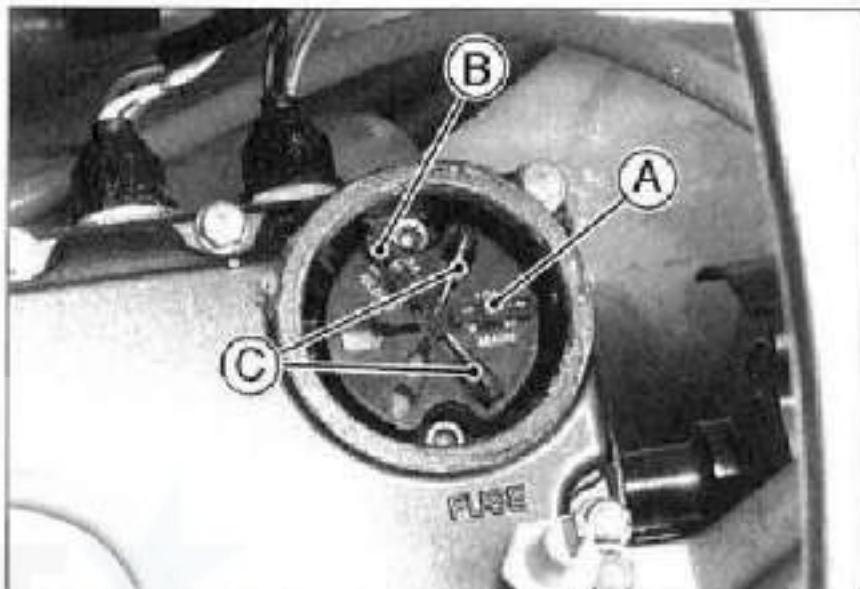
メインと時計のヒューズが電装ケースに備えられています。

操作中に、ヒューズが切れたらその原因となつた電気系統を点検し、適当な容量の新しいヒューズに交換して下さい。



A. 電装ケース

B. キャップ

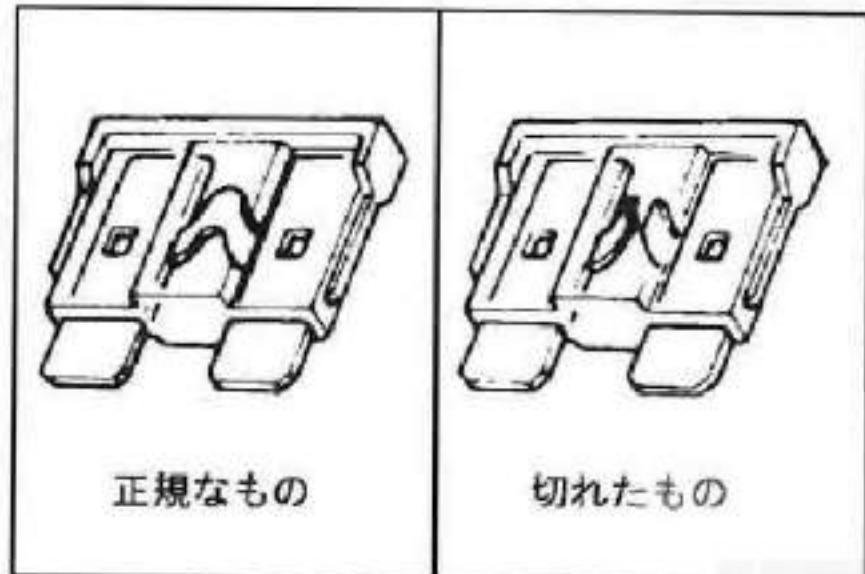


A. メインヒューズ
B. 時計ヒューズ

C. 予備ヒューズ

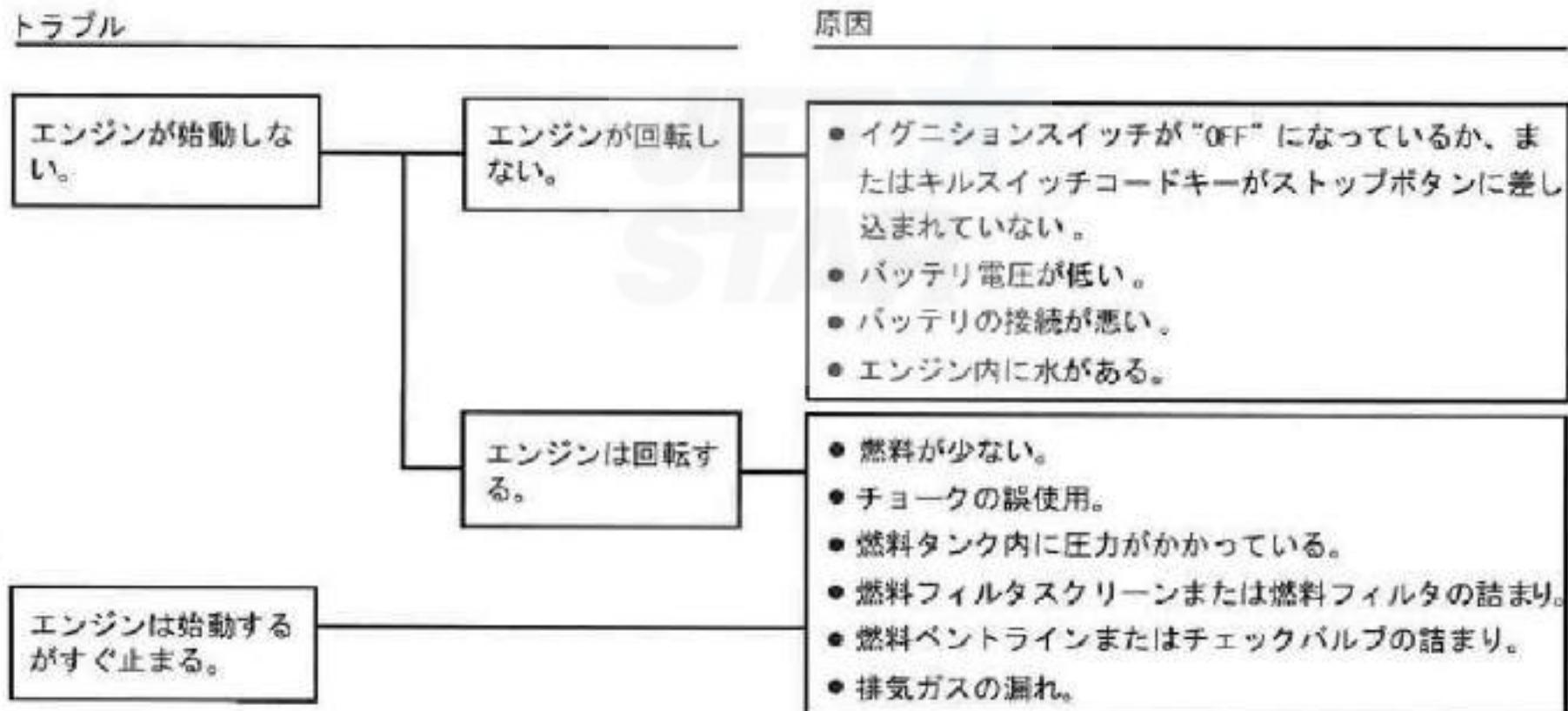
注意

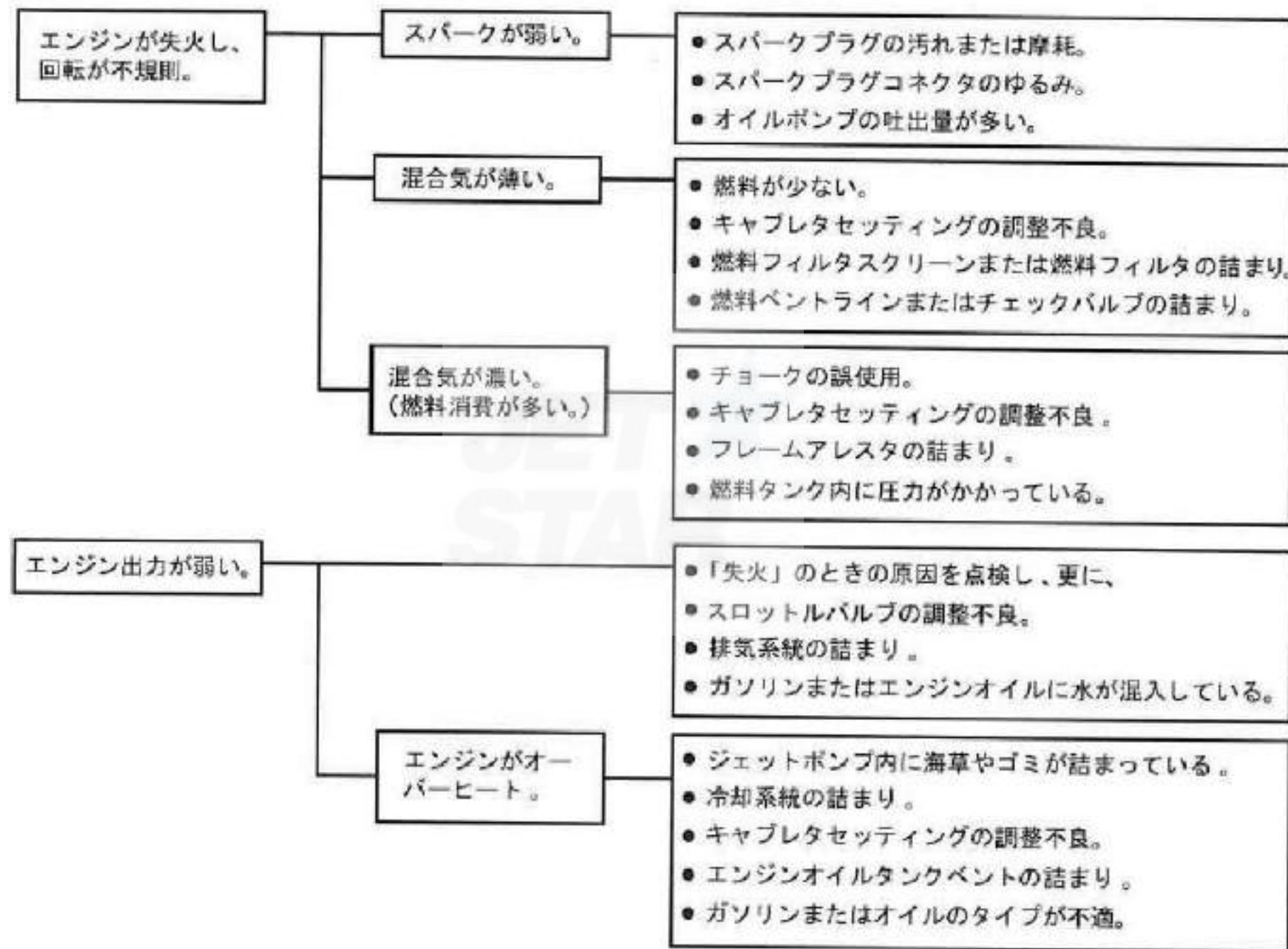
ヒューズの代用品は使用しないで下さい。切れたヒューズは電装ケースに規定された正しい容量のヒューズと交換して下さい。



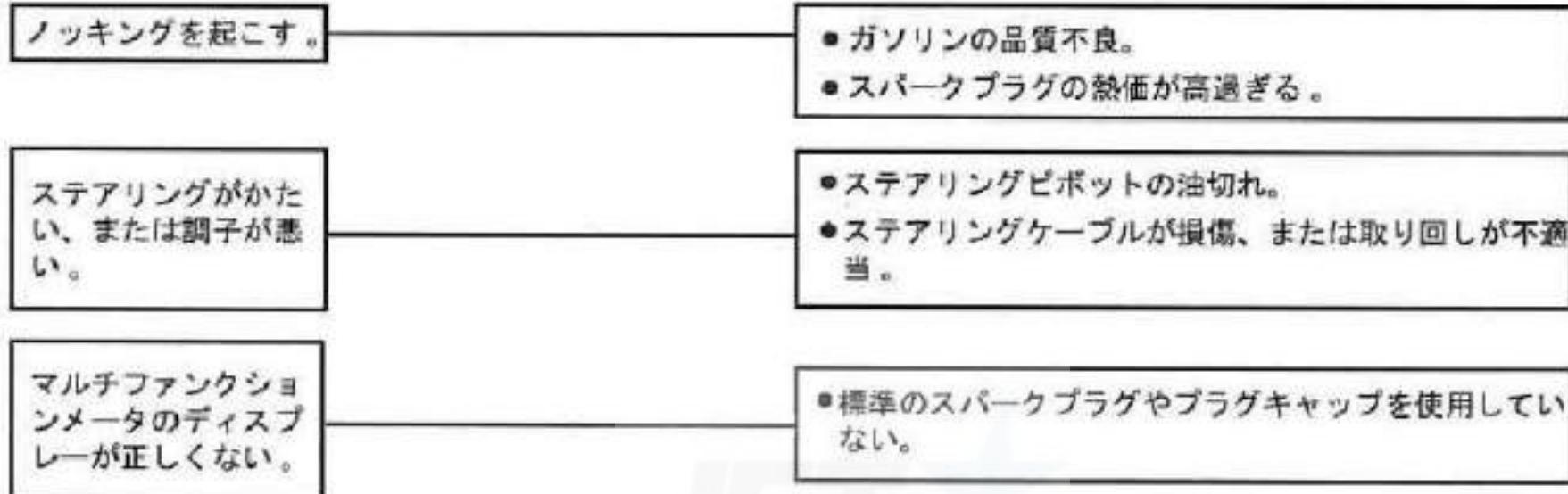
トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォーターカラフトのトラブルが確定できないときは、カワサキのウォーターカラフト“ジェットスキー”的販売店に相談するか、サービスマニュアルを参照して下さい。





104 トラブルシューティング



警 告

ステアリング装置に故障があれば非常に危険ですので、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でよく調べてもらつて下さい。

船舶検査

船舶検査

ウォータークラフト“ジェットスキー”は、法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

検査の種類：

検査には最初に使用を始めるとき、および6年毎に行う定期検査と、その中間の3年毎に行う中間検査があります。

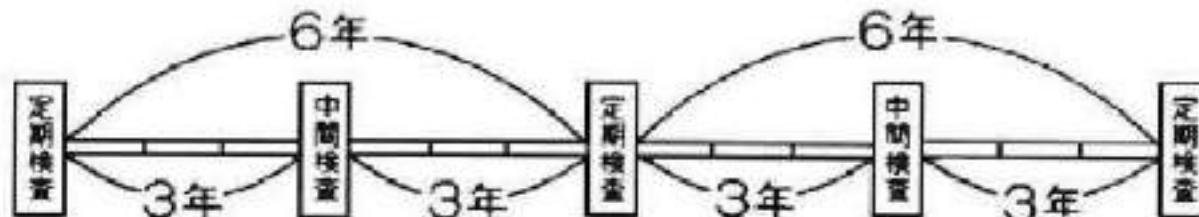
- 定期検査

定期的に行う精密な検査

- 中間検査

定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1ヶ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

船舶検査証書など合格証書類

1. 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、(1)船舶検査証書(2)船舶検査手帳(3)船舶検査済票（年票と番号票を各2枚）が渡されます。

上記(1)および(2)の証書類は、ウォータークラフトを使うときには必ず船内に備えて下さい。また、(3)の検査済票（通称「船検ナンバー」）は、ウォータークラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼りつけて下さい。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

2. 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返されるときに、中間検査済票一枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼って下さい。

航行区域

航行区域

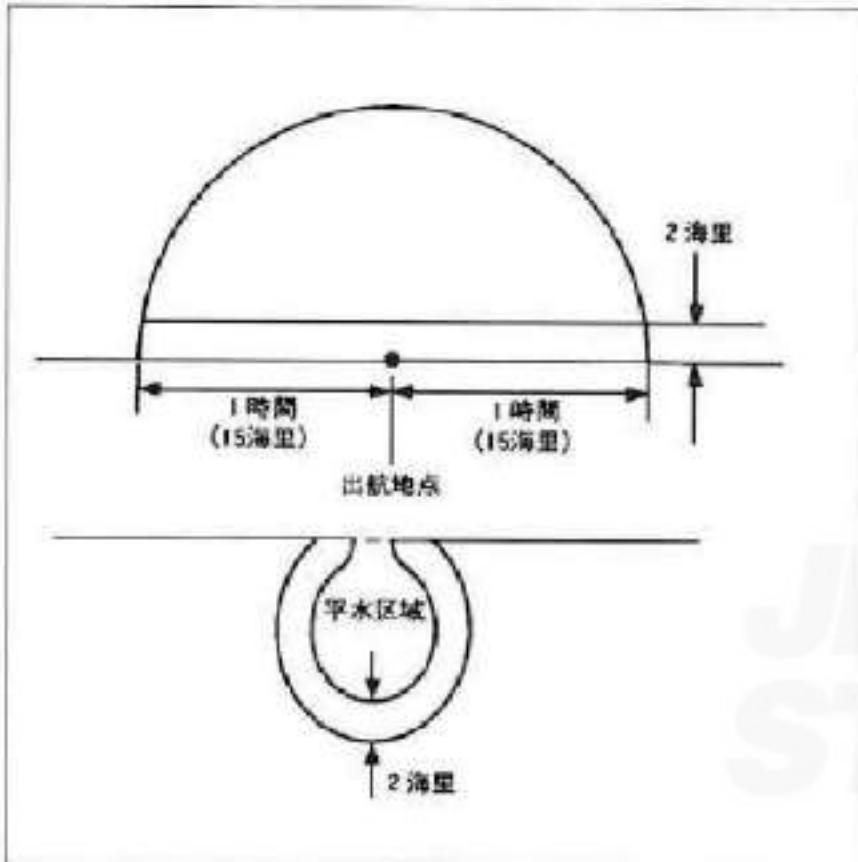
法律（船舶安全法）により、ウォータークラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

注：

- 船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
- 法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

海岸あるいは陸岸で使用する場合

1. 沿海区域で、ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸か2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。



母船に乗せて使用する場合

1. 沿海区域で、母船から半径2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。
3. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

注意

母船に搭載してウォータークラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

*周辺の人たちに迷惑をかけないために、次の事を守ってください。

- 遊泳者のいる近くでは乗らないで下さい。
- 人家の近くでは乗らないで下さい。
- 他の人に迷惑をかける騒音は出さないで下さい。
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないように注意して下さい。
- 航走中の船に近づかないで下さい。
- 漁場へは乗り入れないで下さい。また、操業中の漁船には近づかないで下さい。
- 乗り入れ禁止区域には入らないで下さい。
- 指定区域内では制限速度を守って下さい。

環境保護

環境保護

いつまでもきれいな環境を保つために、次の事を守って下さい。

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。
(不法投棄は絶対にしないで下さい。)
- 燃料、オイル等で浜辺や海岸、そして水を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や、生物を大切にしましょう。
- 使用済みのバッテリやエンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないで下さい。また、将来ジェットスキーを廃棄される場合も同様です。
もし、これらのものを廃棄するときは、ウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店にご相談下さい。

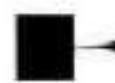
メモ

JET^{STAR}

JET[®]
STAR

JT900-D1

*JET
STAR*

 **Kawasaki**

川崎重工業株式会社 汎用機事業本部

Part No. 99921-1801